

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門基礎科目（英語領域）
担当教員			
新垣 友子			
授業形態：講義	ナンバリング：ENG120		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 英語とは何か、基礎的な英語の構造と機能を学ぶ。</p> <p>【到達目標】 英語史、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論の基礎的な概念・理論を理解することができる。</p>
授業の概要	英語史を概説し、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論を紹介する。ことばの構造のみならず、英語が社会や文化とどのように関わっているか文化的側面からの考察も行なう。英語の成立や現況、各時代区分の特色、つづり字や多様性など英語の輪郭と背景を学ぶ。毎回課題を課し、問題を解くことで理解の確認をはかる。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン&ことばの起源と語族（第1章） なぜ人間だけがことばを持っているのだろうか。人間はいつごろから、どのようにしてことばを話すようになったのかことばの起源を考える。また、英語はどのような言語と親戚関係にあるのか、語族・語派について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第1章を読み、言語起源論、語族・語派等について理解する。 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。（2時間）</p> <p>第2回 人間のことばと言語研究（第2章）、英語の発音とスペリング（第3章） 人間のことばにはどのような特徴があるのだろうか。言語研究の諸分野、言語資料の収集や方法について学ぶ。また、なぜ英語の発音と綴りの関係、ローマン・アルファベットと正書法、歴史背景を概観し、英語の音の移り変わりを捉える。</p> <p>【事前学習】 第2,3章を読み、言語研究の各分野や正書法・英語の音の移り変わりについてノートにまとめる。（2時間） 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。（2時間）</p> <p>第3回 英語の語彙と多様性（第4章）、標準英語の成立（第5章） 英語の語彙はいくつぐらいあるのか、なぜ英語とフランス語は似ているのかなど英語語彙の歴史的発展を考える。英語の標準語はどのような変種が基盤になったのか歴史的背景を紐解きながら、標準英語の変遷を概観する。また、アメリカ英語の発展の歴史や、インドやシンガポールなどで用いられている国際英語についても学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第4,5章を読み、英語語彙の歴史的発展や標準英語の成り立ち等についてノートにまとめる。（2時間） 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。（2時間）</p> <p>第4回 英語のバリエーション（第6章）、ことばの変化（第7章） 英語の地域変種にはどのような種類があるか、否定表現、不規則変化動詞の平準化など地域的非標準英語の言語的特徴を学ぶ。また、アメリカ英語の特徴や、カナダ、オーストラリアなど英米以外の英語の特徴を考える。また、英語の歴史的变化に関してその背景と言語的特徴を考える。</p> <p>【事前学習】 第6,7章を読み、英語・米語の変種や英語の歴史的变化等についてノートにまとめる。（2時間） 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。（2時間）</p> <p>第5回 ことばと音声(第8章)、音の組み合わせとアクセント(第9章) 発音器官と有声音・無声音、母音・子音の区別や分類に関して学ぶ。音素、異音、ミニマルペアや音の脱落や同化などの音の変化、音節やアクセント・リズム、語強勢・文強勢などの音韻的特徴も学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第8,9章を読み、母音・子音の特徴や音素等についてノートにまとめる。（2時間） 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。（2時間）</p> <p>第6回 単語が出来るしくみ（第10章） 単語はどのように組み合わせられて成り立っているのだろうか。自由形態素、拘束形態素などの形態素や屈折接辞、派生接辞の特徴、そして複合、派生、転換、逆成、短縮、混成、頭文字語、借用などの語形成のプロセスを学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第10章を読み、語形成の種類と方法等についてノートにまとめる。（2時間） 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。（2時間）</p> <p>第7回 文が出来るしくみ(第11章)、文の内部構造（第12章） 単語はどのように組み合わせられて文になるのだろうか。構成素・範疇、句構造標識、句構造規則などの統語構造の基礎を学ぶ。さらに中間的な構成素、Xⁿバー理論、補部と付加部の概念、単文、補文の構造についても考える。</p>

	<p>【事前学習】 第11, 12章を読み、生成文法理論の基礎的概念等をノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。(2時間)</p>
第 8 回	<p>Review (第1-11章) 1章から11章の復習・まとめ、練習問題</p> <p>【事前学習】 第1, 7章を復習し、練習問題を解く。(2時間) 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。(2時間)</p>
第 9 回	<p>ことばの意味(第13章) ことばの意味とは何だろうか。人間の外界認識と切り離すことが可能なのであろうか。ことばの意味に対する伝統的な説、指示説と構造意味論の特徴と問題点を概観し、ことばの意味は認識の産物であり、人間の認知能力が極めて重要であるとする概念説を学ぶ。ことばの意味は、人間の側から対象に対する能動的な解釈が加えられて成り立つことを理解する。</p> <p>【事前学習】 第13章を読み、指示説、構造意味論、概念説等についてノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。(2時間)</p>
第 1 0 回	<p>語の間の意味関係 (第14章)、意味の拡張 (第15章) 語と語の意味の間にはどのような関係があるのだろうか。同義性、反義性、上下関係(分類学的・機能的)観点から考察する。語の意味は経験に基づいて得た知識構造を背景にして定義されるというフレーム理論も学ぶ。1つの語や表現が複数の意味を持つのは、シミリー、メタファー、メトニミーなど人間の認知能力が関係していることも学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第14, 15章を読み、反義性や上下関係、メタファー、メトニミー等についてノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。(2時間)</p>
第 1 1 回	<p>ことばの意味に見られる主観性(第16章) ことばの意味とコンテキスト(第17章) 話者の認識はことばの意味にどのように反映されているのだろうか。話者の認識内容や認識作用を表現する言語表現に関して学ぶ。また、認識の仕方が言語表現にどう反映されるか、日本語と英語の間に違いがあるのかについて学ぶ。言葉の意味とコミュニケーションで伝えられる意味と同じか、違う場合、その差はどう埋められるかについても考える。</p> <p>【事前学習】 第16, 17章を読み、主観的・客観的意味、発話とコンテキスト等についてノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。(2時間)</p>
第 1 2 回	<p>まとまりのある文章(第18章)、文章中の情報構造(第19章) まとまりのある文章とはどのような文章か、結束性の5つの要素(指示、代用、省略、接続語、語彙の連環)を考える。また、文章においてどのような順で文が並べられているか前景・背景、文頭・文尾の原則、旧情報・新情報、情報の連環と言う観点から情報構造を捉え、読みやすい文の特徴を考える。</p> <p>【事前学習】 第18, 19章を読み、結束性の要素、情報構造等についてノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。(2時間)</p>
第 1 3 回	<p>ことばのやりとりにおけるルール(第20章)、 コミュニケーションの民俗史(第21章) 日常会話における「ルール」協調の原理(量の公理、質の公理、関連性の公理、作法の公理)、そしてそれに違反した時に生じる会話の含意に関して学ぶ。さらに、ある発話の解釈に大きく作用する可能性のある社会的状況を分類したデル・ハイムズのSPEAKINGモデルを学び、発話の構造と機能の面からコミュニケーションを考える。</p> <p>【事前学習】 第20, 21章を読み、グライスの協調の原則とハイムズのモデル等についてノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。(2時間)</p>
第 1 4 回	<p>英語と文化(第22章)、ことばと社会(第23章) 聖書や論語の例から、ことばに信頼を置く西洋文化と、言わぬが花の東洋文化に関して考察する。言語がある程度人間の思考に影響を及ぼすというサピア=ウォーフの仮説、そして言語と文化の関係が文章のレベルで表われるとする対照修辞学をまなぶ。また、地域変種、社会変種、アフリカ系アメリカ人の英語の特徴、多言語使用、差別用語の中立化(PC)など社会と言葉の関係について学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第22, 23章を読み、サピア=ウォーフの仮説や社会言語学の基礎概念についてノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。(2時間)</p>
第 1 5 回	<p>ことばと国家(第24章)、日本の英語教育と教授法(第25章) 英語圏の4つの邦、イギリス、アメリカ、カナダ、オーストラリアの言語状況と言語政策を学ぶ。アメリカの英語公用語化の動きとそれに反対する動き、カナダやオーストラリアの多文化主義と言語教育を概観し、日本における英語教育と教授法の変遷(オーラル・メソッド、オーラル・アプローチ、コミュニカティブ・アプローチ等)を学ぶ。</p> <p>【事前学習】 第24, 25章を読み、二言語多文化主義や英語教授法等についてノートにまとめる。(2時間) 【事後学習】 授業で配布されたワークシートの復習。(2時間)</p>
第 1 6 回	<p>期末試験</p>

	【事前学習】13章から25章を復習する。(2時間)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	長谷川瑞穂 (編) 『はじめての英語学(改訂版)』 研究社 (2006)
参考書	なし
評価方法	定期試験 (70%)、小テスト・課題/授業への参加度 (30%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 <input type="checkbox"/> 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること <input type="checkbox"/> 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること <input type="checkbox"/> 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	・予習や課題は義務であり、必ず済ませて授業に参加すること。 ・テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。
オフィスアワー	新垣友子研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は授業内で解答、適宜回収し授業内に返却。期末テストは各メールボックスに返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1・2年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門基礎科目(英語領域)
担当教員			
新垣 友子			
授業形態：講義	ナンバリング：ENG100		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	英語音の発音方や発音のメカニズムを学ぶ。母音や子音の分類に基づき、それぞれの音の特徴を認識し、聞き取り、音声記号での表記ができるようになる。アクセントやイントネーションパターン、連結、脱落、同化のメカニズムを理解する。
授業の概要	英語の母音や子音がどのように発音されているのか、自分の口の中の構造を認識しながら、調音点や調音方法を意識して発音のメカニズムを学ぶ。個々の音の正しい発音、隣接する音とその影響、音節やアクセント、イントネーション等について学び、音声記号の読み・書きの訓練を通して、英語音により近い音が発音できるようにする。
授業計画	<p>第1回 インTRODクシヨン&Practice 1 (前舌母音) 【 Introduction、英語発音を学ぶ前の準備、英語音声学の基礎知識、音について、母音について Practice 1 (前舌母音 /i:/, /i/, /e/, /æ/) (Step 1-4)</p> <p> 【事前学習】 英語音声学の専門用語、発音器官に関して学ぶ。(2時間) 【事後学習】 p. 4, 5の発音器官、母音について、Practice1の解説の復習。(2時間)</p> <p>第2回 Practice 2 (後舌母音)、Practice 3 (中舌母音) Practice 2 (後舌母音/u:/, /u/, /ɔ:/, /ɑ/) (Step1-4)、Practice 3 (中舌母音/ə/, /ʌ/, /ɜ:/) (Step1-2)</p> <p> 【事前学習】 Practice2-3の説明を読んで、後舌母音、中舌母音の発音方法と記号を確認する。(2時間) 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice2-3のStep1-4を復習する。(2時間)</p> <p>第3回 Practice 3 (中舌母音)、Practice 4 (二重母音<1>) Practice 3 (中舌母音続き)、Practice 4 (二重母音[1] /ei/, /ai/, /au/, /ou/, /ɔi/) (Step1-4)</p> <p> 【事前学習】 Practice3-4の説明を読んで、中舌母音、二重母音の発音方法と記号を確認する。(2時間) 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice3-4のStep1-4を復習する。(2時間)</p> <p>第4回 Practice 5 (二重母音<2>)、母音まとめ Practice 5 (/ɜ:/を含んだ二重母音[2])、母音復習(高母音、中母音、低母音、前舌母音、後舌母音、中舌母音)</p> <p> 【事前学習】 Practice5の説明を読んで、/ɜ:/を含んだ二重母音の発音方法と記号を確認する。(2時間) 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice5のStep1-4、母音全体を復習する。(2時間)</p> <p>第5回 母音のクイズ、子音について、Practice6 (閉鎖音) 母音の確認クイズ、子音について、Practice 6 (閉鎖音/p/, /b/, /t/, /d/, /k/, /g/) (Step1-3)</p> <p> 【事前学習】 Practice6の説明を読んで、閉鎖音の発音方法と記号を確認する。(2時間) 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice6のStep1-3を復習する。(2時間)</p> <p>第6回 Practice 6 (閉鎖音)、Practice 7 (鼻音) Practice 6 (閉鎖音続き、Practice 7 (鼻音 /m/, /n/, /ŋ) (Step1-4)</p> <p> 【事前学習】 Practice7の説明を読んで、鼻音の発音方法と記号を確認する。(2時間) 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice7のStep1-4を復習する。(2時間)</p> <p>第7回 Practice 8 (摩擦音<1>)、Practice 9 (摩擦音<2>と破擦音) Practice 8 (摩擦音[1] /f/, /v/, /θ/, /ð/, /s/, /z/)、Practice 9 (摩擦音[2]と破擦音 /ʃ/, /ʒ/, /h/, /dʒ/, /tʃ/)</p> <p> 【事前学習】 Practice8, 9の説明を読んで、摩擦音と破擦音の発音方法と記号を確認する。(2時間) 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice8, 9のStep1-4を復習する。(2時間)</p> <p>第8回 Practice 9 (摩擦音<2>と破擦音)、Practice 10(側音と半母音)、子音のまとめ Practice 9 (摩擦音[2]と破擦音 Step4)、Practice 10(側音と半母音/l/, /w/, /r/, /j/)、子音復習(閉鎖音、鼻音、摩擦音、破擦音、側音、半母音)</p> <p> 【事前学習】 Practice9, 10の説明を読んで、摩擦音、破擦音、側音の発音方法と記号を確認する。(2時間) 【事後学習】 各自CDを聞いて、Practice9, 10のStep1-4、子音全体を復習する。(2時間)</p> <p>第9回 子音のクイズ、Lesson 1 (音節と語強勢) 子音の確認クイズ、Lesson 1音節と語強勢 (Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p>

第10回	<p>【事前学習】 Lesson 1の説明を読んで、音節の成り立ちと強勢の種類と記号を確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 1のStep1, 2、Let's ListenのStep1, 2を復習する。(2時間)</p> <p>Lesson 2 (文強勢)</p> <p>文強勢 (Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2) 内容語、機能語</p>
第11回	<p>【事前学習】 Lesson 2の説明を読んで、文強勢の種類と記号、内容語・機能語について確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 2のStep1, 2、Let's ListenのStep1, 2を復習する。(2時間)</p> <p>Lesson 3 (ポーズ)、Lesson 4 (ピッチとイントネーション)</p> <p>ポーズ (Let's Listen Step1-2, Let's try Step1) 、ピッチとイントネーション (Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p>
第12回	<p>【事前学習】 Lesson 3の説明を読んで、ポーズ・ピッチ・イントネーションの種類を確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 3, 4のStep1, 2、Let's ListenのStep1, 2を復習する。(2時間)</p> <p>Lesson 5 音のつながり I 連結</p> <p>(音のつながり I 連結) ①子音+母音、②[t, d, s, z]以外の子音+[j] (Let's Listen Step1-2, Let's try Step2)</p>
第13回	<p>【事前学習】 Lesson 5の説明を読んで、連結が起こる法則を確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 5のStep1, 2、Let's ListenのStep1, 2を復習する。(2時間)</p> <p>Lesson 6 音のつながり II 脱落(1)</p> <p>①閉鎖音+子音([j]は除く) (Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p>
第14回	<p>【事前学習】 Lesson 6の説明を読んで、脱落が起こる法則①を確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 6のStep1, 2、Let's ListenのStep1, 2を復習する。(2時間)</p> <p>Lesson 7 音のつながり III 脱落(2)</p> <p>①同じ子音が重なった場合 (Let's Listen Step1-2, Let's try Step1-2)</p>
第15回	<p>【事前学習】 Lesson 7の説明を読んで、脱落が起こる法則②を確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 7のStep1, 2、Let's ListenのStep1, 2を復習する。(2時間)</p> <p>Lesson 8 音のつながりIV 同化、まとめ</p> <p>[t, d, s, z]+[j] (Let's Listen Step1-2, Let's try)</p>
第16回	<p>【事前学習】 Lesson 8の説明を読んで、同化が起こる法則を確認する。(2時間)</p> <p>【事後学習】 各自CDを聞いて、Lesson 8のStep1, 2、Let's ListenのStep1, 2を復習する。(2時間)</p> <p>第16回 期末試験</p> <p>【事前学習】 第1回目から15回目に学んだことを復習する。(2時間)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> グループワーク</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	今井由美子他 (2020) 『Sounds make perfect 英語音声学への扉 (改訂版)』 英宝社
参考書	特になし
評価方法	定期期末テスト(70%)、課題・小テスト等(20%)、授業への参加度(10%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> 丸暗記することなく、英語発音の仕組み(メカニズム)を捉えること。 発音記号の読みと表記に慣れるよう予習復習を怠らないこと。 遅刻欠席をせず、発音の練習時や問題を解くとききちんと参加すること。 視聴覚教材を用いる際、私語は妨げとなるので静かにしっかり集中すること。 テキストを持っていない人は、テスト受験資格がないものとするので気をつけること。
オフィスアワー	<p>【新垣友子研究室 (北研5-4)】</p> <p>水曜日 4限。それ以外の面談の日程調整についてはメール (tomoko@ocjc.ac.jp) かチャットで行う。</p>
課題に対する	中間テスト、クイズは授業中に返却する。期末テストは採点后、メールボックスに返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2年	2単位(0-2)	選択科目：学科英語専門科目
担当教員			
浜川 仁 城間 仙子			
授業形態：演習	ナンバリング：AWR214		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	英文法の基礎を確認し、応用問題も解けるレベルに深める。大学生として英語で意見を述べる事ができる英文法力を養う。 (1) 時制、助動詞や受動態など各分野の基礎知識を正確に理解できるようになる。(知識・理解) (2) 単文はもちろん、間接話法や仮定法など複文まで正確に英文を作ることが出来るようになる。(技術) (3) 口語のみならず文語表現やアカデミックな表現に積極的に取り組める。(態度)
授業の概要	英文法・英作文Ⅰ～Ⅳで学んだことを基礎に、文法的に正しい文章を、自信をもって書けるようにする。自分の話す英語が文法的に正しいかどうかを自分で判断できる能力を磨き、自分の書いた英語の文法的誤りを自分で修正する能力を高める。特に、日本語話者の苦手とする文法事項について集中的に学ぶ。
授業計画	<p>第1回 Introduction & Tense (Present and Past), Unit 1 - 2 Present Continuous, Simple Present</p> <p>【事前学習】 シラバスの確認 【事後学習】 Unit1, 2の間違った箇所をまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p> <p>第2回 Tense (Present Perfect & Past), Unit 3 - 6 Present Continuous and Simple Present 1,2, Simple Past, Past Continuous</p> <p>【事前学習】 Unit3-6で扱う時制(現在完了、過去等)の文法事項を確認し、Unit3-6の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p> <p>第3回 Tense (Present Perfect & Past) Unit 7-13 Present Perfect, Present Perfect and Past 1, 2, Present Perfect Continuous, Present Perfect Continuous and Simple, How long have you been...? For and since</p> <p>【事前学習】 Unit7-13で扱う時制(現在完了進行形等)の文法事項を確認し、Unit7-13の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p> <p>第4回 Tense (Present Perfect & Past) Unit 14-17 When...? and How long...? Past Perfect, Past Perfect Continuous, Have and have got, Used to</p> <p>【事前学習】 Unit14-17で扱う時制(過去完了等)の文法事項を確認し、Unit14-17の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p> <p>第5回 Tense (Future) 18-24 & Review of Tense Present Tenses with a Future Meaning, (I' M) going to (do), Will 1, 2, I will and I' m going to, Will be doing and will have done, When I do, When I' ve done, When and if</p> <p>【事前学習】 Unit18-24で扱う時制(未来等)の文法事項を確認し、Unit18-24の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p> <p>第6回 Modals, Unit25-29 Can, could, and (be) able to, Could (do) and could have (done), Must, May and might</p> <p>【事前学習】 Unit25-29で扱う助動詞の文法事項を確認し、Unit25-29の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p> <p>第7回 Modals, Unit30-35, Have to and must, Should, Subjunctive, Had better, It' s time..., Would, Can/Could/Would you...? (Requests, Offers, Permission, and Invitations)</p> <p>【事前学習】 Unit30-35で扱う助動詞の文法事項を確認し、Unit30-35の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】 授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p> <p>第8回 Review of Modals Can, could, and (be) able to, Could (do) and could have (done), Must, May and</p>

	<p>might, Have to and must, Should, Subjunctive, Had better, It's time..., Would, Can/Could/Would you...? (Requests, Offers, Permission, and Invitations)</p> <p>【事前学習】Unit1-35で扱う時制と助動詞の文法事項を確認し、巻末の補助教材p. 296-307、Study Guide p. 319-321を解いて解答する。(2時間) 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p>
第9回	<p>Conditionals Unit 36-37 If I do..., If I did..., I wish I knew...</p> <p>【事前学習】Unit36-37で扱う仮定法過去の文法事項を確認し、Unit36-37の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p>
第10回	<p>Conditionals, Unit 38-39, Review of Conditionals If I had known, I wish I had known, Review of Conditionals</p> <p>【事前学習】Unit38-39で扱う仮定法過去完了の文法事項を確認し、Unit38-39の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p>
第11回	<p>Passive, Unit 40-44 Present, past, Continuous, perfect, Passive 1 (is done / was done), Passive 2 (be done / been done / being done), Passive 3 (two objects, passive of being, get), It is said that... He is said to... He is supposed to..., Have / get something done</p> <p>【事前学習】Unit40-44で扱う受動態の文法事項を確認し、Unit40-44の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p>
第12回	<p>Reported Speech, Unit 45-46, Review of Passive & Reported Speech He said that..., say and tell, tell / ask somebody to do something, Review of Passive, Reported Speech</p> <p>【事前学習】Unit45-46で扱う話法の文法事項を確認し、Unit45-46の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p>
第13回	<p>Questions Unit 47-50 Wh-questions, indirect questions, tag questions</p> <p>【事前学習】Unit47-50で扱う各種疑問文の文法事項を確認し、Unit47-50の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p>
第14回	<p>-ing & infinitive, Unit 51-53 Verb + ing (enjoy doing / stop doing), Verb + to (decide to..., forget to...), Verb (+Object) + to... (I want you to)</p> <p>【事前学習】Unit51-53で扱う動名詞・不定詞の文法事項を確認し、Unit51-53の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。(2時間)</p>
第15回	<p>-ing & infinitive, Unit 54-55 Verb + -ing or to...1 (remember / regret), 2 (try / need / help), 3 (like / would like)</p> <p>【事前学習】Unit54-55で扱う動名詞・不定詞の文法事項を確認し、Unit54-55の問題を解いて解答まで済ませる。(2時間) 【事後学習】授業後に間違えた問題の誤答レポートをまとめ、課題・小テストの復習をする。巻末の補助教材p. 307-311、Study Guide p. 321-322を解いて解答する。(2時間)</p>
第16回	<p>Final exam</p> <p>【事前学習】試験に向けて全体のまとめを行う。(2時間)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【○】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】</p>
テキスト	Raymond Murphy, (2018) "Grammar in Use Intermediate" Cambridge University Press
参考書	特になし
評価方法	<p>期末試験(該当範囲の理解確認) (70%) 小テスト(該当範囲の理解確認)・課題(該当範囲の理解確認と応用問題) (20%) 授業への参加度(発表や質問) (10%)</p>
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。

	<p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>【 】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【 】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【 】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にはQuizを行うため必ず予習してくること。 ・英文法・英作文IVを履修済みか、それ相当以上の実力がある学生が受講すること。
オフィスアワー	<p>浜川： 城間：</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>小テストは授業内で採点し、次回の授業で返却。期末テストは担当教員が採点し、次回の授業内で返却します。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門基礎科目(英語領域)
担当教員			
新垣 友子			
授業形態：講義	ナンバリング：ENG221		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	英語の構造と機能について理解を深める。語学としての英語ではなく、一般言語学、理論言語学という学問の一部として英語を形態的、意味論的、語用論的に分析する方法を理解する。
授業の概要	英語学概論Ⅰで学んだことを基礎として、英語史、音声学、音韻論、形態論、統語論、意味論、語用論に関する各分野の専門知識を深める。特に形態論、意味論の分野に焦点を当てるほか、国内外の多様な英語のバリエーションを多角的に考察し、国際共通語としての英語の実態についての理解を深める。英語の文献を読み、演習やディスカッションを通して応用力・専門性の向上を図る。
授業計画	<p>第1回 Introduction Knowledge of Language</p> <p>【事前学習】 専門用語の意味と使い方を調べる。 【事後学習】 専門用語と基本概念の復習。(2時間)</p> <p>第2回 Why Study English Linguistics① What is English linguistics?, Components of Grammar(morphology, semantics, syntax, phonetics and phonology)</p> <p>【事前学習】 1章 (p.1-3) を読み、英語言語学とは何かまとめワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)</p> <p>第3回 Why Study English Linguistics② Subfields of Linguistics, How English has been studied? (Traditional Grammar, Structural Linguistics, Generative Grammar, Cognitive Linguistics)</p> <p>【事前学習】 1章 (p.3-5) を読み、言語学の各専門分野と言語研究の変遷をまとめてワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)</p> <p>第4回 How Words Are Made: Morphology① Dividing words into parts, Compounding(Compound Stress Rule, Phrasal Stress Rule, Right-hand Head Rule)</p> <p>【事前学習】 3章 (p.21-24) を読み、複合規則、右側主要部の規則等、語形成に関してまとめてワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)</p> <p>第5回 How Words Are Made: Morphology② Compounding(Semantic Compositionality, Binary Branching Constraint) Derivation</p> <p>【事前学習】 3章 (p.24-26) を読み、派生についてまとめてワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)</p> <p>第6回 How Words Are Made: Morphology③ Conversion, Inflection, Minor Word Formation Processes(Clipping, Blending, Acronym, Initialism)</p> <p>【事前学習】 3章 (p.26-29) を読み、転換、屈折等その他の語形成に関してまとめてワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)</p> <p>第7回 How Words Mean; Semantics I① Kinds of meaning(conceptual meaning, associative meaning), Meaning as a set of properties, Categorization and prototypes(The Sapia-Whorf Hypothesis)</p> <p>【事前学習】 4章 (p.33-36) を読み、意味の種類やプロトタイプ理論についてまとめワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)</p> <p>第8回 How Words Mean; Semantics I② Semantic Networks(hyponymy, meronymy), Synonyms and antonyms, Polysemy</p> <p>【事前学習】 4章 (p.36-39) を読み、同義・反義・多義性等についてまとめワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】 解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)</p>

第9回	How Words Mean : Semantics I ③ Metaphor and metonymy Metaphor and metonymy 【事前学習】4章 (p. 39-40) を読み、隠喩、換喩についてまとめてワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)
第10回	Review 1-9 【事前学習】1章、3章、4章の復習をし、関連する練習問題を解く。(2時間) 【事後学習】ディスカッションや課題で挙げた事項を復習する。(2時間)
第11回	How Sentences mean : Semantics II ① Semantic Roles and argument structure (Agent, Patient, Goal, Source) 【事前学習】7章 (p. 79-82) を読み、意味役割と項構造等についてまとめてワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)
第12回	How Sentences mean : Semantics II ② Selectional restrictions, Constructional Meaning (locative alternation, dative alternation, dative construction) 【事前学習】7章 (p. 82-84) を読み、意味制限や情報構造等についてまとめてワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)
第13回	How Sentences mean : Semantics ③ Word order and information(topicalization, Principle of End Focus), What do pronouns refer to? (personal & reflexive pronouns) 【事前学習】7章 (p. 85-87) を読み、文末焦点の原則、代名詞の規則等をまとめてワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)
第14回	Regional Varieties of English: Sociolinguistics I English in the world, Regional Dialects, Intranational variation, International variation 【事前学習】10章 (p. 115-122) を読み、英語・米語の地域バリエーションに関してまとめワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)
第15回	English in Society: Sociolinguistics II Social Variation, Standard vs. Nonstandard English, Grammatical variation, Phonological variation, Lexical variation, Language and gender 【事前学習】11章 (p. 127-136) を読み、非標準英語の文法・音韻・語彙的特徴をまとめてワークシートを解く。(2時間) 【事後学習】解けなかったワークシートの問題を再度解いて復習する。(2時間)
第16回	Final Examination 【事前学習】Semantics II (7章)、Sociolinguistics (10章、11章) を復習する。(2時間)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考書	影山太郎他(2004) "Introduction to English Linguistics" 2nd ed. くろしお出版
評価方法	授業態度や授業への参加度(10%)、課題や練習問題(30%)、期末テスト(60%)の結果を総合的に判断する。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【○】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること

	<p>【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【 】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・英語学概論 I を履修しておくこと。履修していないのに何らかのやむを得ない理由で受講する場合は英語学概論 I のテキスト『はじめての英語学』を読んでおくこと。 ・予習や課題は義務であり必ず済ませて授業に参加すること。 ・教材はほぼ英語で、かなりの英語力が要求されるため、その覚悟で授業にのぞむこと。
オフィスアワー	新垣友子研究室
課題に対するフィードバック方法	課題は採点、評価後、授業内で返却。期末テストは各メールボックスに返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位 (0-2)	選択科目：学科専門基礎科目 (英語領域)
担当教員			
城間 仙子			
授業形態：演習	ナンバリング：INT310		
添付ファイル			
EJTranslation.pdf			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 英日翻訳の基礎を学ぶ。英語の構文・意味・文脈を正確に把握し、直訳から自然な日本語へと洗練するプロセスを身につける。文化・文体の差異を踏まえ、場面に応じて最適な表現を選択できるようにする。</p> <p>【到達目標】 知識： 英語・日本語の文法・語用論・語彙選択の特徴を説明できる。 主語／代名詞／関係代名詞／受動態／仮定法／強調構文／時制／助動詞／話法／副詞等の翻訳上の注意点を体系的に理解している。 文化・文体・レジスター（改まった／くだけた／専門的など）の違いが訳文に与える影響を説明できる。 翻訳支援ツール・AI の機能と限界、典型的な誤訳傾向を理解している（鵜呑みにしないための基礎リテラシー）。</p> <p>技能： 原文の意味関係を正確に読み取り、直訳→改善→校正の段階的プロセスで自然な日本語へ整えることができる。 文脈・読者・目的に応じて語彙・文体を適切に調整し、**不自然性（機械的直訳、硬さ、曖昧さ）**を修正できる。 翻訳支援ツールや AI を比較材料として活用し、出力の長所・短所を分析して人間の判断で品質を向上させることができる。 ペア・グループで協働し、根拠を言語化して訳文の改善案を提示・合意形成できる。</p> <p>態度： 原文・訳文に対して批判的思考をもち、安易なコピーペーストや過度な AI 依存を避ける。 翻訳の過程（調査、判断、修正）を丁寧に記録し、責任ある学習者／翻訳者としての倫理を守る。 グループワークに積極的かつ建設的に参加し、他者の視点を尊重する。 課題の期限・提出規定を遵守し、継続的な自己改善を行う。</p>
授業の概要	<p>翻訳支援技術・AI の進化により機械訳の品質は向上しているが、質の高い訳文には人間の精確な読解・文脈判断・表現選択が不可欠である。本授業は英語・日本語双方の構造と文化的背景への理解を深め、直訳から自然な訳へ洗練する手順を演習中心に習得する。必要に応じて AI 出力を比較対象として参照し、不自然になりやすい点や修正の方針を議論する。AI は主役化せず、翻訳者の判断力を鍛えるための補助的活用にとどめる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・英日翻訳の前提理解 授業の目的・評価基準・進行方法を確認し、英日翻訳の基本的考え方を共有する。英語と日本語の語順・視点・情報構造の違いを例文から明確化し、「直訳→調整→自然化」という翻訳プロセスの全体像を示す。さらに、近年の翻訳支援ツールやAIの位置づけ（鵜呑みにせず比較材料として扱う）を確認し、学術倫理に沿った利用姿勢を初回で定義する。</p> <p>事前学習：シラバス熟読、語順違いの例を3つ調べる（2h）。 事後学習：キーワードの整理、短文の自然化練習（2h）。</p> <p>第2回 主語の扱い（焦点化と自然化） 英語が主語を明示して情報を配置する言語であること、日本語は主語を省略しやすい言語であることを理解する。There構文や抽象主語など、英語特有の主語形式が不自然な訳文を生みやすい点を分析し、自然な日本語に変換するための語順変更・主語省略・述語調整の技法を習得する。直訳で起こりやすい硬さを取り除く視点を学ぶ。</p> <p>事前学習：資料確認、主語が不自然な例を1つ探す（2h）。 事後学習：主語の扱いを変えた2種の訳文作成（2h）。</p> <p>第3回 代名詞（照応・視点） 代名詞を使うときに必要となる「誰を指しているか」の明確化を中心に扱う。英語では指示対象が明示されるが、日本語ではゼロ代名詞や名詞句置換のほうが自然になる場合が多い。反復回避と視点保持のバランスを学び、照応関係が複雑な英文を正確に読み取る技能を養う。AI訳で乱れがちな指示対象の混線も対比しながら分析する。</p> <p>事前学習：代名詞例文の照応分析（2h）。 事後学習：名詞句版・ゼロ代名詞版の2種作成（2h）。</p> <p>第4回 無生物主語（自然な述語選択） 英語で頻出する無生物主語文を、原因・結果・状態・評価などの意味関係に分類し、日本語で自然に表す方法を学ぶ。英語の構造をそのまま移すと「～が～する」という不自然な表現になりやすいため、述語選択・語順調整・視点変換を行う必要がある。複数通りの自然化パターンを比較し、訳し分けの基準を定着させる。</p> <p>事前学習：参考例文の述語調整をメモ（2h）。 事後学習：3種類の自然化訳を作成（2h）。</p> <p>第5回 関係代名詞：修飾範囲の特定と再構成 先行詞と関係節のつながりを正確に読み取り、修飾範囲の誤解を防ぐ技術を身につける。制限用法／非制限用法、挿入、長い関係節など、誤訳につながる構造を重点的に扱い、分割訳・語順変</p>

	<p>更・主述関係の再構成により日本語の自然さを確保する。AIのミスが起きやすい長い修飾句の処理も比較材料として検討する。</p> <p>事前学習：先行詞と修飾範囲の下線付け（2h）。 事後学習：分割訳＋一文訳の比較作成（2h）。 受動態：焦点化と主語／目的語の位置づけ 受動態が選ばれる理由（焦点化、行為者の非重要化、客観性の確保など）を理解し、日本語訳で受動／能動どちらが適切か判断する基準を学ぶ。「～されている」「～させられる」「～することになる」など多彩な自然な受動表現を整理し、直訳によるごちなさを回避するための述語調整を行う。</p>
第6回	<p>事前学習：受動→能動の書き換え練習（2h）。 事後学習：自然な受動・能動2種類を作成（2h）。 仮定法：事実性の階層理解と丁寧さの操作 仮定法の成立背景（非現実・仮想・丁寧な婉曲）を整理し、「現実／非現実」の軸で英文を読み解く力を養う。日本語で自然に表すための多様な表現（～なら、～としたら、～場合には、～だろ等に等）を比較し、文脈に適した丁寧さ・距離感を調整する。また、ニュアンスを落とさない翻訳のための語尾選択も扱う。</p>
第7回	<p>事前学習：仮定法例文の事実性分析（2h）。 事後学習：丁寧・くだけた2種の仮定表現で訳す（2h）。 強調構文：焦点の操作と日本語での再現 強英語の強調構文（It is～that～、倒置、強調助動詞など）が文章内でどの要素を強調しているかを理解し、日本語で過度にならず自然に伝える方法を学ぶ。語順変更、助詞調整、語気の操作など、明示的強調を日本語文体に合わせて“控えめに再現”する技術を練習する。冗長化しやすいAI訳との比較も通して、強調の適切な度合いを判断する。</p>
第8回	<p>事前学習：強調構文の焦点特定（2h）。 事後学習：焦点を変えた2種類の訳文作成（2h）。 時制：多層的な時系列整理と相の理解 英語の時制（現在・過去・未来・完了・進行）と日本語の時制・相のずれを理解し、語りの視点や背景説明の位置づけを整理する。複数の時系列が含まれる文では、“誰から見た時間なのか”を軸に読み解き、図式化して把握する方法を練習する。時制の過剰な保存や誤った変換が起きやすいAI訳も対比し、精度の高い判断力を高める。</p>
第9回	<p>事前学習：例文の時制表の作成（2h）。 事後学習：図式化→訳出のまとめ（2h）。 助動詞：含意・推量・丁寧さの微細な調整 can/may/must/should/wouldなどの助動詞を持つ意味階層（能力・許可・義務・推量・依頼・婉曲）を、語用論的観点から整理する。日本語の丁寧さ・強さ・控えめさとの対応を学び、含意を崩さない訳し分けを重点的に扱う。文脈に応じて語尾変化や述語選択を調整し、自然で読みやすい訳文に整える技能を養う。</p>
第10回	<p>事前学習：助動詞含意の説明づくり（2h）。 事後学習：強め・弱め・丁寧の3種訳作成（2h）。 話法：引用表現と視点の再構築 直接話法と間接話法の違い、伝達動詞のニュアンス（say / tell / state / remark 等）を整理し、話者の視点が変化する仕組みを学ぶ。日本語で自然に引用するための語尾・述語・語順調整を練習し、引用の距離感（話者からの近さ・客観性）を適切に操作する力を身につける。AI訳で生じる不自然な引用符や語尾も比較しながら学ぶ。</p>
第11回	<p>事前学習：話法例文の視点分析（2h）。 事後学習：直接話法・間接話法の2種訳作成（2h）。 副詞：位置・作用域・自然な言い換え 副詞の位置（文頭・文中・文末）が意味や作用域にどう影響するかを整理する。日本語では副詞をそのまま残すと冗長になることも多いため、“削る・弱める・言い換える”の三段階を比較し、自然な情報量に調整する技法を学ぶ。複数の副詞を含む英文を扱い、意味の優先順位を決めて訳文を最適化する力を育てる。</p>
第12回	<p>事前学習：副詞の作用域メモ作成（2h）。 事後学習：弱める／削る／言い換える訳文作成（2h）。 総合演習 I：短文での構文・意味精査 これまで学んだ文法・語法知識を短文で確認し、誤訳の原因となるポイント（主語・代名詞・関係節・含意など）を意識して処理する。直訳から自然文へ移行する際の判断基準を明確にし、改善理由を言語化する演習を行う。人間訳とAI訳の差分を比較し、判断の根拠を論理的に示す訓練を行う。</p>
第13回	<p>事前学習：任意の英文を訳して準備（2h）。 事後学習：改善点3つを記録して再訳（2h）。 総合演習 II：中長文での文体・視点・統一感の確保 段落構造を分析し、主題文（トピックセンテンス）と支援文の関係を整理する。文体（丁寧さ・硬さ・読みやすさ）の一貫性を保つための全体調整、視点の統一、接続表現の滑らかさなど、“段落レベルの翻訳品質”に焦点を当てる。AI訳と比較し、ズレが生じやすい箇所（視点の不統一・接続不足）を特定する。</p>
第14回	<p>事前学習：段落の主題文特定（2h）。 事後学習：接続強化版の訳文作成（2h）。 総合演習 III：相互レビューと最終訳文提出 個人訳をもとにペアで相互レビューを行い、誤訳・不自然表現・冗長性・文体不統一の有無をチェックする。改善点を客観的に説明する練習を通して、翻訳者としての根拠をもった判断力を</p>
第15回	

	<p>育成する。最終版には“改善メモ”を添え、どの点をどのように修正したかを明確に記述する。AI出力を用いた学生は比較表を付け、依存を避けた分析を行う。</p> <p>事前学習：課題文の難所3箇所を予測（2h）。 事後学習：最終版+改善メモの整理（2h）。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> グループ学習、ディスカッションによる講義運営</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 調べ学習の際のオンラインツールの活用</p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 資料の共有、課題の提出は全てMicrosoft Teamsを活用</p>
テキスト	必要な資料は担当教員が準備・配布する。
参考書	「翻訳スキルハンドブック」 駒宮俊友、株式会社アルク
評価方法	翻訳演習課題：100%
評価基準	<p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — ：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<ul style="list-style-type: none"> ・事前学習、事後学習を欠かさないこと。 ・課題は毎回期限内に提出すること。 ・ペア、グループワークは積極的に参加する。
オフィスアワー	随時チャットにてアポイントメントを受け付ける。
課題に対するフィードバック方法	課題に対するフィードバックは授業内で行う。

講義科目名称： 日英翻訳技法

授業コード： 5238A

英文科目名称： English-Japanese Translation

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位 (0-2)	選択科目：学科専門応用科目 (英語領域)
担当教員			
David Ulvog			
授業形態：演習	ナンバリング：INT417		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Through this course, students will learn a variety of techniques to help them acquire advanced English skills and communication ability so that they will be able to better translate from their native Japanese into English. Students will acquire knowledge and skills in different methods of translation so that when they are called upon to translate, they many utilize such knowledge and skills to produce English translations that will capture the essential meaning of the source language and is readily understandable to the audience in the target language.		
授業の概要	Over the course of the semester, students will complete a series of exercises to gain a better understanding of each of the guiding principles for translation and the specific techniques, and why AI and other machine translation programs fail to reach the required level of translation needed. Students are expected to come to each class prepared by having completed their translations to each of the exercises. Students translations will be compared and discussed so that all students understand what translations are acceptable and what are the most common pitfalls that the native Japanese speaker experiences.		
授業計画	第1回	<p>和文英訳技法の基本－基本の理解</p> <p>This class will discuss what translation is and general principles to follow in order to create a different linguistic framework for producing translations in a foreign language.</p> <p>There will also be an introduction to how the class will be conducted and the assignments given as well as what is expected of students to obtain their desired grade.</p> <p>【事前学習】 Before the first class, students should read some Japanese to English translations to familiarize yourself with what translation is.</p> <p>【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>	
	第2回	<p>学習に必要な時間：4時間</p> <p>和文英訳技法の基本－その2</p> <p>以下の基本原理を学ぶ。 日本語を分析して自然な英語で表現しよう。 無駄を省いてわかりやすく書こう。 足りないところは補って英語らしい英語に訳す。 など。</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson.</p> <p>【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>	
	第3回	<p>学習に必要な時間：4時間</p> <p>日本文の主語→英文の主語－その1</p> <p>英文の主語の訳し方を学ぶ。 日本文の主語→英文の主語 日本文の主語にかかる修飾語→英文の主語 日本文の補語→英文の主語 日本文の目的語→英文の主語</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson.</p> <p>【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>	
	第4回	<p>学習に必要な時間：4時間</p> <p>日本文の主語→英文の主語－その2</p> <p>日本文の副詞語句→英文の主語 日本文の「～は」「～が」は必ずしも英文の主語にできない。 人称代名詞を補って英訳する 非人称のitを補って英訳する</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson.</p> <p>【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions</p>	

	<p>to ask at the beginning of the next class.</p>
第5回	<p>学習に必要な時間：4時間 日本文の主語→英文の主語－その3 英文の主語の総括</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>
第6回	<p>学習に必要な時間：4時間 英語的な主語－その1</p> <p>「(～に)・・・がある」ことを表すには、There～＋主語の構文を使う。 「～することは・・・だ」という表現は形式主語のitを文頭に置いて訳すとよい。 日本文で副詞句に相当する部分が、英文では無生物・抽象名詞を主語とした表現になる。</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>
第7回	<p>学習に必要な時間：4時間 英語的な主語－その2</p> <p>日本語ではふつう動詞や形容詞を否定するのにに対し、英語では名詞を否定したり、否定の代名詞を用いることが多い。 否定語は、日本語ではふつう文尾に置くが、英語ではなるべく前に出そうとする。</p> <p>Review previous lessons for test.</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>
第8回	<p>学習に必要な時間：4時間 まとめ(中間) 中間試験</p> <p>【事前学習】 Students should review and prepare for the mid-term exam. 【事後学習】 Students should review their exams after they have been returned.</p>
第9回	<p>学習に必要な時間：4時間 動詞の選択－その1</p> <p>日本語の「する」はdoとは限らない。 「～になる」はbecome以外にも訳せる。 「～である」は意味を分析してから訳す。</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>
第10回	<p>学習に必要な時間：4時間 動詞の選択－その2</p> <p>「思う」、「考える」はthink以外の動詞を使うことも工夫しよう。 日本語・英語の自動詞・他動詞は必ずしも一致するとは限らない。</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>
第11回	<p>学習に必要な時間：4時間 使役動詞と態の用法－その1</p> <ol style="list-style-type: none"> 「させる」または「してもらう」を表したいときにはhave＋目的語(人)＋原形不定詞の構文。 Letは「したいようにさせてやる」(容認)、makeは「いやでもさせる」(強制)を示す。 Allow, force, getは目的語の後にto-不定詞がくる。 <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p>
第12回	<p>学習に必要な時間：4時間 使役動詞と態の用法－その2</p> <ol style="list-style-type: none"> 感情・心理を表す動詞は受動態になることが多い。 事故死・負傷など「被害」を表す動詞は受動態になる。 「(物を)～される」はhave＋目的語(物)＋過去分詞。

	<p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>学習に必要な時間：4時間 和文英訳と英語の時制ーその1 「ある」、「いる」、「する」、「なる」などの訳 →英語の未来形 →英語の現在完了形 →英語の過去・過去完了形</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>学習に必要な時間：4時間 和文英訳と英語の時制ーその2 「した」、「だった」、「いた」などの訳し方 →英語の現在形 →英語の現在完了形 →英語の過去完了形</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>学習に必要な時間：4時間 他人のことばを伝える話法とまとめ 直接話法と間接話法の訳し方</p> <p>【事前学習】 Students should prepare their own translations of each of the assigned practice sentences utilizing the method(s) specified for the lesson. 【事後学習】 Students should review what was discussed in class and note any questions to ask at the beginning of the next class.</p> <p>学習に必要な時間：4時間 期末テスト 【事前学習】 Students should review all of the lessons and prepare for the final exam.</p> <p>学習に必要な時間：4時間</p>
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	Materials provided by the instructor
参考書	和英と英和辞典（例文の多いの）、英辞郎、Honyaku Star、その他のonline database. しかし、グーグル翻訳、ChatGPTなどは好ましくないので、ご注意ください。
評価方法	中間テスト(37.5%)、期末試験(50%)、Project (12.5%)を合計し、総合的に評価する。授業参加も課題完成も、講義を成功するために、不可欠です。 ※宿題の提出期限過ぎは受け付けしません。もし公欠が原因の場合、証明できる書類を提出してください。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 【 】 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること <input type="checkbox"/> 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること <input type="checkbox"/> 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【 】 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	和英・和英辞典を毎回忘れずに持参すること。 宿題を完成した上、受講してください。 ChatGPTなどの生成AIやその他のmachine translationを中間・期末試験やその他の提出課題中に使用する場合、試験全体が無効になります。ご注意ください。
オフィスアワー	毎週指定時間 Ulvog研究室 ※メールおよびオンライン面談も行う。 面談の設定については、TEAMSのチャットで連絡ください。
課題に対する	Tests will be reviewed during class with sample translations presented.

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門応用科目（英語領域）
担当教員			
浜川 仁			
授業形態：講義	ナンバリング：LIT306		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ： 英文学史の流れをつかみ、イギリスおよび英語圏の歴史・文化への関心を高める。</p> <p>到達目標： イギリス文学に見られるさまざまな英語表現にある程度親しみ理解できるようになる。イギリスの文学と歴史に関する入門的な知識を獲得する。イギリス史における代表的な作品の時期やテーマについて理解できるようになる。</p>		
授業の概要	<p>古代、中世からルネッサンス、産業革命を経て、20世紀以降へと流れるイギリス文学の歴史について、歴史・文化・社会の背景を学びつつ、代表的な作品を読み解きながら理解を深める。</p>		
授業計画	第1回	<p>オリエンテーション／教養とは何か（英文学史の意義）</p> <p>近年、一般教養を学ぶ意味が問われるようになってきているが、世界史において近代をリードしたイギリスの歴史と文学への導入を通して、一般教養の意義をめぐる問題提起とする。</p> <p>【事前学習】 「もくじ」を参考にテキストをざっと見ておく。（2時間）</p> <p>【事後学習】 講義で学んだことをもとにイギリスの歴史と文学について考え、期末エッセイに備える。（2時間）</p>	
	第2回	<p>黎明期のイギリス——叙事詩</p> <p>ケルト社会からはじまり、ローマによる支配、アングロ＝サクソン人たちの定住をへて、ノルマン・コンクエストにいたる歴史を概説する。文学作品については、『ベオウルフ』、「十字架の夢」の紹介を行う。</p> <p>【事前学習】 テキストのプロローグ「イギリス文学の黎明期」を読んでおく。（2時間）</p> <p>【事後学習】 テキスト第1章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。（2時間）</p>	
	第3回	<p>法の支配——チャーサー</p> <p>ヘンリー2世とカンタベリ大司教のトマス・ベケットの確執を通して、国家と宗教の間でいかなる問題がもちあがったのか、その結果どのようにイギリスにおいて「法の支配」が始まったのかを概観する。作品については、チャーサーの『カンタベリ物語』を中心に扱う。</p> <p>【事前学習】 テキスト第1章「チャーサーの時代」を読んでおく。（2時間）</p> <p>【事後学習】 テキスト第1章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。（2時間）</p>	
	第4回	<p>ペストと反乱——バラッドや道徳劇</p> <p>14世紀半ばにペストが大流行し、ワット・タイラの乱が起こるが、こうした社会変動を通して、イギリスにジェントリ階級が登場したいきさつを概観する。作品については、バラッドや道徳劇『エヴリマン』等を紹介する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第1章「チャーサーの時代」を再読する。（2時間）</p> <p>【事後学習】 今回の講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。（2時間）</p>	
	第5回	<p>宗教改革——シェイクスピア</p> <p>16世紀にカトリックの国からプロテスタントの国へ様変わりしたイギリス——その激変を生き抜いたアン・ブーリン、メアリ・スチュアート、エリザベス女王という3人の女たちの生きざまを通して、イギリスの宗教改革を概観する。作品についてはシェイクスピアのソネットや喜劇『お気に召すまま』を紹介する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第2章「シェイクスピアの時代」を読んでおく。（2時間）</p> <p>【事後学習】 テキスト第2章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。（2時間）</p>	
	第6回	<p>古代、中世、ルネッサンス期の文学</p> <p>第1回から第5回の講義をふりかえり、チャーサー、スペンサー、シェイクスピア等をふたたび取り上げ、とくにイギリス詩の形式や韻律の構造などを概説する。</p> <p>【事前学習】 テキストのプロローグから第2章を復習する。（2時間）</p> <p>【事後学習】 講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。（2時間）</p>	
	第7回	<p>ピューリタン革命——ジョン・ミルトン</p> <p>清教徒（ピューリタン）革命から共和制をへて、王政復古にいたるまでの内乱の時期を概観する。作品については、ミルトンの『失樂園』やジョン・ダン、アンドルー・マーヴェルの詩を取り上げる。</p> <p>【事前学習】 テキスト第3章「ミルトンの時代」を読んでおく。（2時間）</p> <p>【事後学習】 テキスト第3章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。（2時間）</p>	

	間)
第8回	<p>名誉革命——ポープとスィフト 共和制末期から、王政復古、そして名誉革命までの歴史を概観し、イギリスが18世紀後半から19世紀にかけて「大英帝国」として繁栄することになる基礎がこの17世紀後半につくられたことを説明する。文学については、ポープのヒロイック・カブレットとスィフトの風刺作品を紹介する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第4章「ドライデンとポウプの時代」を読んでおく。(2時間) 【事後学習】 テキスト第4章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。(2時間)</p>
第9回	<p>革命の時代——プレロマン アメリカ合衆国の独立、フランスとの戦争を通して、イギリスがいかに世界をリードしたかを概観する。文学としては、ジェイムズ・トムソンやウィリアム・ブレイク等を中心に紹介する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第5章「ジョンソンの時代」を読んでおく。(2時間) 【事後学習】 テキスト第5章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。(2時間)</p>
第10回	<p>ロマン主義文学(第1世代) ワーズワースとコールリッジの中心に、ロマン派第1世代の人生と作風、哲学を説明する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第6章「ワーズワースの時代」を読んでおく。(2時間) 【事後学習】 テキスト第6章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。(2時間)</p>
第11回	<p>ロマン主義文学(第2世代) シェリー、バイロン、キーツといったロマン派文学第2世代の人生と作風、哲学を説明する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第6章「ワーズワースの時代」を再読する。(2時間) 【事後学習】 テキスト第6章にそって今回の講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。(2時間)</p>
第12回	<p>ロマン主義と沖縄 ロマン主義文学が花咲いていた1916年に琉球(沖縄)へやってきたバジル・ホルの『琉球・朝鮮航海記』を中心に、当時の沖縄がどのようにイギリスで紹介されていたのか詳説する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第5章「ジョンソンの時代」を再読する。(2時間) 【事後学習】 テキスト第5章と第6章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。(2時間)</p>
第13回	<p>パックス・ブリタニカ——アーノルド、他 アヘン戦争をへて万国博覧会の開催、インドの支配などを通して、ビクトリア朝のイギリスがいかに世界に君臨したかを概説する。文学については、マシュー・アーノルドを中心に紹介する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第7章「テニソンの時代」を読んでおく。(2時間) 【事後学習】 テキスト第7章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。(2時間)</p>
第14回	<p>ラファエロ前派とワイルド ラファエロ前派のロゼッティ兄妹とオスカー・ワイルドの人生と作風を概観し、とくにワイルドのウィットに富んだ警句を紹介する。</p> <p>【事前学習】 テキスト第8章「ハーディの時代」を読んでおく。(2時間) 【事後学習】 テキスト第8章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。(2時間)</p>
第15回	<p>戦争の世紀——エリオット、ベケット、他 20世紀の前半に、世界がどのように大戦を2度も経験したのか概観する。文学については、T・S・エリオットやベケットの紹介を行う。</p> <p>【事前学習】 テキスト第9章「ジョイスの時代」を読んでおく。(2時間) 【事後学習】 テキスト第9章にそって講義で学んだことをまとめ、期末エッセイに備える。(2時間)</p>
第16回	<p>まとめと期末エッセイ イギリスの歴史と文学について学んだことを振り返りながら、一般教養の意義をめぐる問題を再考する。講義で学んだことをもとに期末テストとしてエッセイを書いてもらう。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 { }</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 {○}</p> <p>3) ICTの活用 {○}</p> <p>4) 初年次教育 { }</p> <p>5) 実践的PBL { }</p>
テキスト	ハンドアウト、スライド、音声教材、その他の講義資料は、Microsoft Teamsを通し適宜クラスで配布する。
参考書	神山妙子編著『はじめて学ぶイギリス文学史』(ミネルヴァ書房)
評価方法	理解度クイズ90%、参加度10%

評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【D P 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること ○ 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	文字・ビジュアル情報の多いクラスなので、集中力を高めてしっかり講義についてきてほしい。
オフィスアワー	初回講義でアナウンス。 チャットで直接呼びかかるか、メールアドレス (hamagawah@oc.jc.ac.jp) へ連絡。
課題に対するフィードバック方法	学習メモは採点・評価後に毎回の授業内で返却し、期末エッセイは各自のメールボックスへ返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門応用科目（英語領域）
担当教員			
小嶺 千尋			
授業形態：講義	ナンバリング：LIT308		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 講義を通してアメリカ文学史の全体図を概ね説明できる知識や理解を習得するほか、旺盛な知的好奇心と積極的な学習態度によって、アメリカ文学がアメリカ文化やアメリカ社会の形成にどのように関わっているかについて、講義で学んだ内容を自らの思考によって深め、最終的にはある米文学史において重要なテーマについての自らの見解を語れるようになることを目標とする。</p> <p>【到達目標】 1) 米文学の歴史的な流れを説明できるようになる。 2) 代表的な米文学の作家と作品について入門的な知識を獲得する。 3) 代表的な米文学の作品の重要箇所を原語の英語で読み、理解できるようになる。 4) アメリカ社会と自らの社会を比較する視点を獲得する。</p>
授業の概要	この授業は、アメリカ文学を理解するうえで重要な作家と作品を選んで読み、その社会的・思想的コンテキストを歴史的に概観していく。イギリス・ヨーロッパによるアメリカ大陸の植民地化から、独立戦争、南北戦争を経て、モダニズムの時代から、第二次世界大戦に至るまで、アメリカが国家として歴史を重ねる中で、どのような文化や思潮を形成していったのかを辿り、それぞれの時代が生んだ文学作品に反映されるアメリカ文化について考察する。アメリカ文学・文化という研究分野への入門講座。
授業計画	<p>第1回 アメリカ史のアウトライン そもそも「文学」がどのような学問であるか、「文学」を学ぶ意義について考える。その上で、「アメリカ文化」とはどんな文化か、またアメリカ文学を理解することがどのようにアメリカの文化や社会を理解することと関係するのかについて理解する。さらに、アメリカ文学にとってどのような時代や作品、作家が重要になるのか、そしてこの講義ではどのような時代、作品、作家に関する講義を行う予定なのかをシラバスで全体を概観しながら講義する。これにより、米文学史全体の流れを理解してもらいたい。また、本講義で読む教材は全て英語である。それぞれの時代の英語に親しめるようになるために、この講義ではどのような学習方法で学ぶべきかについても享受する。</p> <p>【事前学習】 アメリカの歴史やアメリカ文学について、研究書等で一般的な情報を獲得しておく。既に履修したアメリカ文学・文化関係科目があれば、そこで学習した内容について振り返っておく。（2時間）</p> <p>【事後学習】 講義で配布された資料をもとに、講義の内容を振り返り、アメリカ文学史全体の流れを理解する。（2時間）</p> <p>第2回 アメリカ先住民とヨーロッパによる植民地化 初期アメリカ文学において理解すべきことは、アメリカ大陸とは、そもそもアメリカ先住民が住んでいた場所であり、そこに大航海時代でヨーロッパ人がやって来たことで、ヨーロッパの植民地主義による「文明」が大陸のダイナミズムを変容させることとなったということである。ヨーロッパ人はなぜアメリカ大陸に来ることとなったのか、ヨーロッパ人はアメリカ大陸をどのように眼差したのか、またそのようなヨーロッパ人をアメリカ先住民はどのように眼差したか、文字を持たないアメリカ先住民の声を聞くことはできるのか、という問題について、15世紀にスペイン王室の命を受けてインドを目指す航海の中で偶然にもバハマ諸島にたどり着いたChristopher Columbus の書簡とコロンブスの後に続く一連の「expedition (探検)」の一体としてアメリカ大陸に入るも先住民の「捕虜」となった 16世紀のAlvar Nunez Cabeza de Bacaが、先住民の民族性や文化について詳細に記録した手記の英訳を読み、その時代性を理解する。</p> <p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を講読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。（2時間）</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。（2時間）</p> <p>第3回 イギリス植民地の黎明期とピューリタンの思想 現在のアメリカ国家の基礎を築いたイギリスがどのようにアメリカ大陸の植民地事業に参入して来たのか、アメリカとイギリスの関係について理解する。アメリカへ最初に入植した John Smith とアメリカ先住民の関係、そしてその後アメリカへ渡ることとなるイギリスのピューリタン（清教徒）の物語について講義する。最初にイギリスに渡ったピューリタンのグループ（Pilgrim Fathers）の主導者であり、最初の定住型植民地となるプリマス植民地の初代総督となった William Bradford の <u>Of Plymouth Plantation</u> の記録から、ピューリタンとアメリカ大陸の関係、初期のピューリタンとアメリカ先住民の関係を考える。また、ピューリタンがどのような志を持ってアメリカ大陸に渡ったのかについて、メイフラワー盟約（Mayflower Compact）の文書、John Winthrop の記述などを参考にしながら理解する。</p> <p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。（2時間）</p>

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。（2時間）

第4回

イギリス植民地とピューリタン詩人

アメリカ大陸にはプリマス植民地に引き続き、マサチューセッツ湾岸植民地ができるなど、イギリスからピューリタンを中心とした移住者が増加する。その中に、Anne Bradstreetという詩人がいた。彼女はアメリカ文学史上で最初の詩集となる『The Tenth Muse』をイギリスで出版する。ピューリタン、そして女性としての感性が表現された詩を鑑賞しながら、ピューリタン文化、そしてピューリタンとしての女性としての意識について考える。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。（2時間）

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。（2時間）

第5回

イギリスからの独立と建国の父たち

イギリスの植民地だったアメリカが、啓蒙思想を背景とする「革命」を通して政治的独立を果たすまでの経緯についての講義である。アメリカの独立とは、単に宗主国のイギリスからの独立を果たすという意味だけでなく、「アメリカ人」および「アメリカ国家」の誕生も意味する。「アメリカ」とはどのような理想を持った社会なのか。Benjamin Franklin や Thomas Jefferson など、アメリカ国家の黎明期に活躍したリーダーたちが書いた文章から読み解く。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。（2時間）

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。（2時間）

第6回

超絶主義とは何か

政治的独立を果たしたアメリカが次に目指したものが、アメリカの文化的独立（知的独立）であった。その中心となった知識人にRalph Waldo Emersonがいる。この回では、ヨーロッパのロマン主義思想の影響を受けながらも、そのロマン主義をアメリカの風土に根ざした思想へと発展させ、アメリカのルネサンスなる時代を築いたEmersonの人物像と共に、彼が提唱した「超絶主義」という思想について、
"Nature,"
"Self Reliance,"そして
"Poet"などEmersonのエッセイを読み解きながら理解する。アメリカ東部のエスタブリッシュメントを歴史的に理解することにより、19世紀アメリカが今日のアメリカにおいても政治、文化、思想のあらゆる面での基礎を築いた時代であることを理解する。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。（2時間）

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。（2時間）

第7回

超絶主義と19世紀アメリカの詩

エマソンの「超絶主義」は、ニューイングランドを中心とするアメリカ東部で19世紀に興隆した文学の思想的なバックボーンとなったが、その例として、この回では、Walt WhitmanとEmily Dickinsonという二人の（非常に対照的な）詩人を取り上げる。Whitmanは、拡大する国土や国家として成長するアメリカを讃え、従来の伝統を打破する勢いのある自由律の詩で国民的詩人として知られた。一方、Dickinsonは、ほとんど家から出ることもなく、公には全く無名のまま一生を終えた詩人だが、死後に出版された作品によって、モダニズムを先取りしたとも言える自由かつ前衛的な詩によって評価された詩人である。詩風においても両者はほとんど似ても似つかぬ印象を与えるが、実は両者とも「自己（self）」を堅持している点で確実にエマソンの超絶主義に共鳴していた。この点を、二人の詩を原文で読み、鑑賞することによって学ぶ。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。（2時間）

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。（2時間）

第8回

超絶主義から考えるアメリカの自然と文明

エマソンの書生として「超絶主義」から多大な影響を受け、実際に文明から距離を置いた自然の中でその思想をした人物に Henry David Thoreauがいる。自然を礼讃し、人間の文明を批判した『Walden, the Life in the Woods（『森の生活』）で知られるThoreauはまた、19世紀アメリカ社会の黒人奴隷制度や、領土拡張のための米墨戦争など、国家の政策を痛烈に批判した。この回では、主にThoreauの人物像と共に、彼のエッセイ『Civil Disobedience』を読み、Thoreauの言葉や行動に超絶主義がどのように影響していたかについて考察する。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。（2時間）

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容

について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。(2時間)

第9回

アメリカ南北戦争、奴隷制度廃止運動と文学

アメリカ社会において最も重要な記憶として奴隷制度がある。南北戦争前には奴隷廃止論をめぐり、国家が二分されていた時期であるが、その時代の言論に少なからず影響を与えた文学作品であるHarriet Beecher Stoweの小説『Uncle Tom's Cabin』を中心に、映画なども参考にしながら、当時の奴隷制度の現実や冷酷さについて学ぶ。さらに、19世紀の奴隷制度がアメリカにとって何を意味していたのか、今日のアメリカにどのような影響を与えているのかについても考える。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。(2時間)

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。(2時間)

第10回

写実主義 (Realism) の文学

大陸を東西に結ぶ大陸横断鉄道の完成により、西洋文明がアメリカ大陸全体を席卷していくようになる19世紀アメリカは、アメリカからヨーロッパへ出て行くコスモポリタンが出てくる一方、アメリカ国内の地域の特徴に着目し、地域的多様性を描く文学が出てきた。地域の風土や言語、文化をあるがままに再現しようとする文学的手法は、「写実主義 (realism)」であるが、特に地域の特徴にこだわる文学は「地域主義」と呼ばれる。この回では、Mark Twainを取り上げ、彼がなぜコスモポリタンではなく「地域を描く」文学を志向したのか、また、地域を写実的に描くためにどのような工夫をしたのかについて学ぶ。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。(2時間)

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。(2時間)

第11回

Adventures of Huckleberry Finnはなぜアメリカ文学の名作なのか

Mark Twain の『Adventures of Huckleberry Finn』は、のちにノーベル文学賞作家 Ernest Hemingwayをして「全てのアメリカの小説はこの作品から出てきた」と言わしめたアメリカ文学を代表する小説である。この作品はなぜ「名作」と言われるのかについて、小説の文体や登場人物の人物像、当時のアメリカ社会のイデオロギーと小説の中で展開されている哲学などについて鑑賞する。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。(2時間)

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。(2時間)

第12回

モダニズムの詩人たち

20世紀に入ると、世界は「東洋」と「西洋」という世界観と共に急速に国家間の距離を縮めていく。世界を巻き込んだ初めての世界大戦が起こり、労働者階級・エリート階級のどちらにおいても人の移動が加速していった。19世紀とは全く異なる世界システムのもと、「近代」という思想が人間の生のあり方を大きく変容させた時代でもある。Gertrude Stein、Ernest Hemingway、Scott Fitzgeraldなど、アメリカで真の知性を探求することが困難に感じた知識層や芸術家が洗練されたヨーロッパ文化を求めてヨーロッパへと流れていったのもこの時代である。特に詩壇では、Ezra Pound、T. S. Eliotが新しい時代を表現する詩的言語を求めて実験を重ねた。日本の「能」に影響を受けたEliotや、俳句を彷彿とさせる Imagism という表現技法で簡潔な表現の中に深遠な意味を表現しようとしたWilliam Carlos Williamsなど、「東洋」と「西洋」の邂逅が新しい文学表現を生み出した時代の、特に「詩」について考察する。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。(2時間)

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。(2時間)

第13回

移民とアメリカ文学

アメリカの国家的未来像は、常に移民によって創造されると言っても過言ではない。その意味で、アメリカ文学は、それぞれの時代の「移民」たちによって創造された文学でもあった。19世紀から20世紀にかけて産業革命や奴隷労働に支えられ、経済的な成長を遂げたアメリカでの生き直しを夢見てアメリカへ渡った移民も、その経験を文学に表現した。この回ではアメリカへの移民を迎え入れる象徴としての自由の女神を表現した Emma Lazarusの『New Colossus』という詩と、アジア系アメリカ人の中でも初期の書き手だったフィリピン系アメリカ人作家の Carlos Bulosan の短編小説『Be American』を読みながら、アメリカにおける移民の問題について歴史的に概観する。

【事前学習】

この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。(2時間)

【事後学習】

講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使用した購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。(2時間)

<p>第14回</p>	<p>アメリカ公民権運動と黒人文学 南北戦争以後、黒人奴隷制度が廃止されてもなお、黒人に対する差別がなくなることはなかった。20世紀になると、Zora Neal Hurstonや、Richard Wrightなど優れた黒人作家が出てくるものの、黒人の作家や詩人が評価されるまでには、1960年代の公民権運動を経なくてはならなかった。この回ではRalph Ellisonの『Invisible Man』の第1章に描かれた黒人差別の過酷な現実について学ぶ。また、アメリカの国家的大義でもある民主主義にとって公民権運動が何を意味したのか、また今日のアメリカはその大義に沿った国家となっているのかについても考察する。</p> <p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。(2時間)</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使った購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。(2時間)</p> <p>第15回</p> <p>第二次世界大戦の記憶と日系アメリカ人文学 公民権運動は、異なるエスニック集団のアメリカにおける歴史的歩みを可視化し、それぞれの民族の声語る物語を再構築しようとするポストモダニズムの思想をバックボーンとして、多文化主義文学 (multicultural literature) というアメリカ文学観を生じさせたこととなった。この回では、黒人、アジア系、ヒスパニック系 (チカーノ)、アメリカ先住民など、アメリカ社会における多層的な声の中から、特に日系アメリカ人のあゆみと文学に着目する。日系アメリカ人の文学は、日系アメリカ人が第二次世界大戦で日本がアメリカの敵国となったために強制収容所へ送られた経験と深く関わる。この強制収容のトラウマ的歴史経験が、日系アメリカ人の文学やアイデンティティにどのように影響したのかについて、Janice Mirikitaniの詩や、Jane Wakatsuki Houston と James Houstonが執筆した『Farewell to Manzanar』に記録された強制収容経験の物語を通して学ぶ。また、この回の次の回は定期試験であることから、定期試験の形式や復習の方法についても指導する。</p> <p>【事前学習】 この回で学ぶ作者や著作について、あらかじめ配布された英文資料を購読しておき、質問を用意したり、自分なりに理解するように努める。(2時間)</p> <p>【事後学習】 講義のタイトルに表されたテーマと、講義の中で教員とともに読んだもの、教員が話した内容について、授業で使った購読教材を再読しながら、自分なりに理解する。(2時間)</p> <p>第16回</p> <p>定期試験 第1回から第15回までの授業を網羅した内容の定期試験を実施する。</p> <p>【事前学習】 第1回から第15回までの授業で学んだことをしっかり振り返る。</p> <p>【事後学習】 この科目でアメリカ文学について学んだことを自分なりに理解する。</p>
<p>授業における具体的な特色や方法</p>	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
<p>テキスト</p>	<p>授業で配付するハンドアウト。その他のテキストについては随時告知する。</p>
<p>参考書</p>	<p>亀井俊介著『アメリカ文学史講義』1～3巻、南雲堂 1998年</p>
<p>評価方法</p>	<p>毎回の講義に関するレスポンス 50% 期末試験40% 授業への貢献度 10%</p>
<p>評価基準</p>	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足</p>
<p>卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連</p>	<p>【DP 1～4との関連】 【○】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【○】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
<p>履修上の注意</p>	<p>文学作品の背景知識を覚えればよいというのではなく、歴史の中で生まれたそれぞれの文学表現を実際に読むことも重視する科目でもあるので、授業にのぞむにあたっては、時間をかけた丁寧な予習を心がけてほしい。</p>
<p>オフィスアワー</p>	<p>1) 授業開始前および授業終了後に質問を受付けます。 2) Teamsのチャットで質問に答えます。 3) メールでも質問を受け付けます。メールアドレスは初回の講義で配布するシラバスに記載します。</p>
<p>課題に対するフィードバック方法</p>	<p>毎回の講義の後にレスポンスをそれぞれ10点満点で評価してフィードバックする。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3～4年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門応用科目（英語領域）
担当教員			
小嶺 千尋			
授業形態：講義	ナンバリング：LIT321		
添付ファイル			
ルーブリック（米国文学作品研究）.xlsx		アメ文評価基準ルーブリック	

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 Toni MorrisonのThe Bluest Eyeを精読し、アメリカ社会におけるrace（人種）、gender（ジェンダー）、class（階級）、sexuality（セクシュアリティ）の交差性を多角的に分析する。</p> <p>【到達目標】 この授業を履修し学修することで、学生は以下のことができるようになります。</p> <p>▶知識・理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文学作品を米国の（特にマイノリティーを主体とした）文化的、歴史的、政治的文脈に照らし合わせて、その背景を説明できる。 ・race, gender, class, sexuality の基礎概念を理解し、作品分析に応用できる。 <p>▶技能</p> <ul style="list-style-type: none"> ・英語で書かれた文学作品のtextual analysis（テキスト分析）を自ら行い、自身の見解を論理的に記述できる。 ・翻訳に頼らず、原書特有の英語表現のニュアンスや多義性を汲み取ることができる。 <p>▶態度</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作品のテーマと自分自身の体験や沖縄の歴史・文化を比較し、多様なバックグラウンドを持つ他者を尊重する姿勢を持って議論に参加できる。
授業の概要	<p>この授業では、Toni MorrisonのThe Bluest Eyeを15週間かけて精読し、マイノリティーの視点からアメリカ社会の多様性と課題を学びます。学生はペアまたはグループで各チャプターを担当し、内容の要約や分析、自身の考察をシェアするディスカッション・リーダーを務めます。講義では、作品背景や分析概念（race, gender等）を学びつつ、ICTツール（Microsoft Teams/Padlet）を活用したオンライン・ディスカッションや資料共有を行い、双方向的な学びを推進します。文学を通して現代社会に通ずる課題を見出し、批判的思考力を養うことをねらいとします。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション シラバスに基づき、到達目標や評価方法を理解する。1940年代のアメリカ社会の構造と、本作品が扱うテーマの概観を把握する。 【事前】 The Bluest EyeをそれぞれAmazonやメルカリで購入する。作者についてリサーチする。(2時間) 【事後】 シラバスを熟読し、TeamsやPadletの設定を確認する。配布資料を読み、Padletに与えられたテーマについて投稿する。(2時間)</p> <p>第2回 歴史的背景とトニ・モリスン 著者の生い立ちと、1970年出版当時の黒人女性文学の立ち位置を学ぶ。作品の舞台となるオハイオ州ロレインの歴史的背景を解説する。 【事前】 著者のノーベル文学賞受賞講演（抜粋）を読み、キーワードを抽出する。(2時間) 【事後】 講義内容をノートにまとめ、主要な年表を作成する。(2時間)</p> <p>第3回 テキスト分析の手法と概念整理 Race, Gender等の交差性に加え、ナレーター（語り手）の信頼性やPOV（視点）の切り替えが物語に与える効果を学ぶ。クローズ・リーディングの具体的な手法を練習する。 【事前】 ナラティブ（語り）の基礎用語集（Teams配布）を読み、意味を調べておく。(2時間) 【事後】 文学理論の基礎概念について、自分の言葉で200字程度に要約する。(2時間)</p> <p>第4回 Autumn (1)： 語りの構造 冒頭を精読する。子供のClaudiaと大人のClaudiaという二つのPOVが、読者の作品理解にどう影響するか、グループでディスカッションを行う。 【事前】 pp. 3-32を精読し、語り手が「子供」か「大人」か判別できる箇所をマークする。(2.5時間) 【事後】 冒頭の「家」の描写が象徴する社会階層を考察する。(1.5時間)</p> <p>第5回 Autumn (2)： 美の基準の内面化 Pecolaが抱く「青い眼」への憧執を分析する。白人的な美の基準が子供の自己認識に与える暴力的側面について、批判的視点から議論を深める。 【事前】 pp. 33-58を読み、当時の映画スター等の視覚資料をTeamsで確認する。(2.5時間) 【事後】 「美の基準」が人種差別と結びつく構造をレポートにまとめる。(1.5時間)</p> <p>第6回 Winter (1)： コミュニティ内の階級 Maureen Pealの登場シーンを分析する。肌の色の濃淡（Colorism）による差別が、同じ黒人コミュニティ内でどう機能しているかを検討する。 【事前】 pp. 81-109を読み、家屋の描写から家族の心理状態を推測する。(2時間) 【事後】 社会構造と家庭内暴力の関連について考察を深める。(2時間)</p> <p>第7回 Winter (2)： 疎外された家庭 Breedlove家の「醜さ」の定義について考察する。社会的な抑圧がいかにして家庭内の心理的な「醜さ」へと内面化されるかをグループで討議する。 【事前】 pp. 81-109を読み、家屋の描写から家族の心理状態を推測する。(2時間) 【事後】 社会構造と家庭内暴力の関連について考察を深める。(2時間)</p> <p>第8回 Spring (1)： ジェンダーと身体 Pecolaの母Paulineの一人称視点による回想を分析する。映画館での体験が彼女の現実感覚をいかに歪めたかを、彼女自身の語りから検証する。 【事前】 pp. 113-131を精読し、Paulineの語り口調の特徴を捉える。(2時間)</p>

第9回	<p>【事後】 彼女にとっての「家事」が持つ救済と逃避の側面を論じる。(2時間)</p> <p>Spring (2): Paulineの回想</p> <p>Pecolaの母Paulineの一人称視点による回想を分析する。映画館での体験が彼女の現実感覚をいかに歪めたかを、彼女自身の語りから検証する。</p> <p>【事前】 pp.113-131を精読し、Paulineの語り口調の特徴を捉える。(2時間)</p> <p>【事後】 彼女にとっての「家事」が持つ救済と逃避の側面を論じる。(2時間)</p>
第10回	<p>Spring (3): Chololyの過去</p> <p>父Chololyの生い立ちを辿る。彼が受けた非人道的な扱いや喪失が、後のPecolaへの加害へと繋がる負の連鎖を、歴史的・政治的文脈から考察する。</p> <p>【事前】 pp.132-163を読み、Chololyの経験したトラウマを整理する。(2.5時間)</p> <p>【事後】 負の連鎖を断ち切るために何が必要だったか私見を述べる。(1.5時間)</p>
第11回	<p>Summer (1): 狂気への逃避</p> <p>Pecolaの精神の崩壊を追う。彼女が「青い眼」を手に入れたと思いつつ分裂したナラティブが、社会の何を告発しているかをプレゼン形式で共有する。</p> <p>【事前】 pp.164-183を精読し、対話シーンの文体の変化を分析する。(2時間)</p> <p>【事後】 作品における「神」の不在と宗教の役割について考察する。(2時間)</p>
第12回	<p>Summer (2): 結末と責任</p> <p>マリーゴールドが咲かなかった結末の意味を問う。Pecolaを犠牲にしたコミュニティ全体の罪と、Claudiaの自責の念をクラス全体でディベートする。</p> <p>【事前】 pp.184-206を読み、結末に対する自身の感想をTeamsに投稿する。(2時間)</p> <p>【事後】 最後に残された「土」と「種」の比喩が示す将来像を考察する。(2時間)</p>
第13回	<p>沖縄の視点からの比較文学</p> <p>作品で描かれた「他者の内面化」等の要素を沖縄の歴史と接続させる。マイノリティの視点から地域課題を考えるPBL的な学びを行う。</p> <p>【事前】 沖縄の歴史や現状に関する指定資料 (Teams配布) を読む。(2.5時間)</p> <p>【事後】 共通点・相違点をマインドマップ等で可視化する。(1.5時間)</p>
第14回	<p>総括: Textual Analysisの深化</p> <p>各グループが選んだ重要な一節 (Passage) を発表し、深いテキスト分析を行う。ナレーター、POV、人種、階級などの各視点を統合する。</p> <p>【事前】 自身が最も重要だと思う一節を選び、分析案を作成する。(2.5時間)</p> <p>【事後】 他者の発表を聞いて得た新知見を最終レポートに反映させる。(1.5時間)</p>
第15回	<p>最終レポート・ピアレビュー</p> <p>レポート構成案を共有し、学生同士でフィードバックを行う。論理的整合性やテキスト引用の適切さを確認し、執筆の質を高める。</p> <p>【事前】 レポートのドラフトを作成し、Teamsにアップロードする。(3時間)</p> <p>【事後】 指摘箇所を修正し、最終稿の執筆を開始する。(1時間)</p>
第16回	<p>定期試験 (代替): 成果提出</p> <p>学習到達度を確認するため最終レポートを提出する。15週間の学修成果 (何を学び、身に付けたか) を振り返る自己評価を行う。</p> <p>【事前】 最終レポートの推敲と校正を徹底的に行う。(4時間)</p> <p>【事後】 なし</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	Toni Morrison, The Bluest Eye, Vintage International, 2007.
参考書	トニ・モリスン (著)、大社 淑子 (訳) 『青い眼がほしい』早川書房、2001年。 木内 徹 (編) 『トニ・モリスンを読み直す』春風社、2014年。 クラスで適宜、資料を配布またはGoogle Classroomを通じて資料や課題をシェアする。
評価方法	<p>到達目標に対する成果の到達度を以下の割合で評価します。</p> <p>▶授業への参加度 (ディスカッション貢献) : 30%</p> <p>・出席回数ではなく、グループワークやTeamsでの積極的な関わりを評価対象とする。</p> <p>▶ディスカッション・リーダーおよび発表 : 30%</p> <p>・担当チャプターの分析資料 (分析の深さ、問い立て) を評価する。</p> <p>▶中間課題 (ショート・エッセイ) : 10%</p> <p>・特定の概念 (ColorismやPOV等) の理解度をTeams課題で確認する。</p> <p>▶期末レポート : 30%</p> <p>・文学的な証拠 (引用) に基づき、論理的な分析ができているかを評価する。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上: 到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点~90点未満: 到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点~80点未満: 到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点~70点未満: 到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満: 到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1~4との関連】</p> <p>【○】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>▶「米文学史」を履修していることが望ましい (必須ではない)。</p> <p>▶センシティブな内容への配慮: 本書には、人種差別、児童虐待、および性暴力に関する直接的・衝撃的な描写が含まれます。授業ではこれらの問題を社会構造の歪みとして学術的に分析しますが、精神的な負担を感じ</p>

	<p>る可能性がある場合は、事前に教員に相談してください。また、読書中や議論中に気分が悪くなった場合は、無理をせず一時離席するなどのセルフケアを行ってください。</p> <p>▶出席について：出席による加点は行いませんが、アクティブラーニング（グループワーク）を主軸とするため、欠席は評価（参加度）に大きく影響します。</p> <p>▶ICTの活用：Microsoft TeamsおよびPadletを連絡・資料共有・課題提出のプラットフォームとして利用します。通知を随時確認し、ディスカッション・リーダーとしての役割を果たしてください。</p>
オフィスアワー	<p>事前に日時を設定して行う。</p> <p>Microsoft Teamsでもチャットや会議でオンラインによる面談も可能。</p> <p>chihiro@ocjc.ac.jp 小嶺千尋 研究室（北4-2）</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>課題はMicrosoft Teamsを通して採点・評価、コメント後にオンライン上で返却する。</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3～4年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門応用科目（英語領域）
担当教員			
浜川 仁			
授業形態：講義	ナンバリング：LIT311		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	19世紀イギリスの政治・社会状況を把握しつつ、イギリス文学への造詣を深める。作家及び作品の研究、精読の仕方、時代背景の読み解き方についての基礎を学び、基本的な文学研究論考やエッセイが執筆できるようになる。Jane Eyre (1857) に見られるさまざまな英語表現に親しみ理解できるようになる。		
授業の概要	Charlotte Bronte の Jane Eyre (1857) を題材に作品研究を行う。作家の研究及びこの作品の精読からなる文学批評の基礎演習である。授業はセミナー方式で行う。毎回、読書課題及び概要発表並びに課題箇所についての討論を行う。Jane Eyreの作家、作品、時代背景などについての小論文を各自でひとつ完成させる。		
授業計画	第1回	イントロダクション / West, Before Reading, p. 106 『概説イギリス史』より「19世紀の光と影」 【事前学習】なし 【事後学習】講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)	
	第2回	Bronte, I-III (1～3) / West, chs. 1-2 孤児ジェーンのリード家(ゲイツヘッド)での境遇 伯父の家で疎外され、虐げられる孤児ジェーンの孤独な少女時代を辿る。「赤い部屋」での恐怖体験を通し、当時の階級社会における孤児の不安定な立場と、ジェーンの内なる抵抗の芽生えについて考察する。 【事前学習】テキスト1～3章(chs. 1-2)に目を通す。(2時間) 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)	
	第3回	Bronte, IV-VII (4～7) / West, chs. 3-4 ミセス・リードに立ち向かう幼いジェーン/ヘレン・バーンズとの出会い(ローウッド) 虐待に対し、自らの尊厳を守るためにミセス・リードへ反論する場面を精読する。転校先のローウッド寄宿学校で出会うヘレン・バーンズを通じ、キリスト教的な忍耐と「自己の魂」のあり方について検討する。 【事前学習】テキスト4-7章(chs. 3-4)に目を通す。(2時間) 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)	
	第4回	Bronte, VIII-XI (8～11) / West, chs. 5-6 ヘレン・バーンズの死/ソーンフィールドへ到着 劣悪な環境により親友ヘレンを亡くす悲劇を経て、ジェーンの価値観がどのように形成されたかを探る。その後、自立の第一歩として家庭教師の職を得たソーンフィールド屋敷へ到着するまでの過程を扱う。 【事前学習】テキスト8-11章(chs. 5-6)に目を通す。(2時間) 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)	
	第5回	Bronte, XII-XV (12～15) / West, chs. 7-8 ロチェスターとの親交と館の秘密 屋敷の主人ロチェスターとの出会いと、身分を超えて知的に共鳴し合う二人の関係性に焦点を当てる。同時に、屋敷内に響く不気味な笑い声など、物語に漂うゴシック小説特有の不穏な予兆を読み解く。 【事前学習】テキスト12-15章(chs. 7-10)に目を通す。(2時間) 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)	
	第6回	Bronte, XVI-XVII (16～17) / West, chs. 9-10 ロチェスターの過去と謎のグレース・プール ロチェスターが時折見せる暗い影と、不審な行動を繰り返す裁縫師グレース・プールの存在を検証する。背景にあるロチェスターの複雑な過去を推測しながら、物語のミステリー要素が深まるプロセスを分析する。 【事前学習】テキスト16-17章(chs. 11-12)に目を通す。(2時間) 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)	
	第7回	Bronte, XVI-XVII (16～17) / West, chs. 11-12 ミス・イングラム登場 美しく高慢な貴族令嬢ミス・イングラムが登場し、ジェーンとの対比が鮮明に描かれる。当時の結婚市場における富と地位の重要さと、それらを持たないジェーンが抱く葛藤とプライドについて考察する。 「フェミニズムからの呼びかけ」大橋 【事前学習】テキスト16-17章(chs. 11-12)に目を通す。(2時間) 【事後学習】返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備	

	<p>える。(2時間) 第8回 アヘン交易とユートピア幻想 1816年に那覇を訪れたライラ号とアルセスト号がどのように琉球を表象したのか、同じアジアの国でありながら清朝中国の描写とはいかに異なっていたのか、時代背景とロマン主義文学との関係で解き明かす。 【事前学習】 幕末の琉球の対西洋外交についてある程度調べておく。(2時間) 【事後学習】 返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)</p> <p>第9回 Bronte, XVIII-XX (18~20) / West, chs. 13 何者かに襲われるロチェスター 屋敷内で発生する不審な火災や、夜中にロチェスターを襲う暴力的な事件を追う。主人の窮地を救うジェーンの献身的な行動から、二人の間の信頼と絆が深まっていく様子を確認する。 【事前学習】 テキスト18-20章 (chs. 13) に目を通す。(2時間) 【事後学習】 返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)</p> <p>第10回 Bronte, XXI-XXIII (21~23) / West, chs. 14-15 ミセス・リードの死/柵の木のそばのシーン 危篤のミセス・リードと再会し、過去の確執を乗り越えるジェーンの精神的成熟を描く。ソーンフィールドへ戻った彼女が、落雷で裂ける「柵の木」の下でロチェスターから求婚を受ける象徴的な場面を精読する。 【事前学習】 テキスト21-23章 (chs. 14-15) に目を通す。(2時間) 【事後学習】 返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)</p> <p>第11回 Bronte, XXIV-XXVI (24~26) / West, chs. 16-17 結婚式の中止とバーサ・メイスン 挙式当日に暴かれる驚愕の事実と、屋敷に幽閉されていた先妻バーサ・メイスンの存在を扱う。ロチェスターの過ちと法的な壁の前に、ジェーンが直面する道徳的・宗教的なジレンマについて議論する。 【事前学習】 テキスト24-26章 (chs. 16-18) に目を通す。(2時間) 【事後学習】 返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)</p> <p>第12回 Bronte, XXVII-XXVIII (27~28) / West, ch. 18-19 ソーンフィールドからの脱出 ロチェスターの懇願を振り切り、自身の尊厳を守るために屋敷を去るジェーンの決断を追う。飢えと疲労の中、荒野を彷徨う彼女の姿を通し、究極の「自己の自律」を求めるヒロインの強靱な精神性を読み取る。 【事前学習】 テキスト27-28章 (chs. 19) に目を通す。(2時間) 【事後学習】 返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)</p> <p>第13回 Bronte, XXIX-XXXII (29~32) / West, chs. 20-21 リバース家での暮らし/セント・ジョンの人柄と野心 ジェーンを救ったリバース家の兄妹との交流と、そこでの予期せぬ遺産相続について学ぶ。冷徹で禁欲的な宣教師セント・ジョンの人物像を、情熱的なロチェスターと比較しながら多角的に分析する。 【事前学習】 テキスト29-32章 (chs. 20-21) に目を通す。(2時間) 【事後学習】 返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)</p> <p>第14回 Bronte, XXXIII-XXXIV (33~34) / West, chs. 22-23 セント・ジョンの求婚 愛のない、義務感のみに基づいたセント・ジョンの求婚に対し、ジェーンが抱く強い違和感と拒絶を考察する。「宣教師の妻」という役割と、彼女が求める「真の愛と自由」の対立をジェンダーの視点から紐解く。 【事前学習】 テキスト33-34章 (chs. 22-23) に目を通す。(2時間) 【事後学習】 返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)</p> <p>第15回 Bronte, XXXV-XXXVIII (35~38) / West, chs. 24-26 ソーンフィールドへ帰る 超自然的な「声」に導かれ、ジェーンは再びソーンフィールドへと向かう。変わり果てた屋敷の姿と、再会したロチェスターとの新たな関係性を通し、作者が辿り着いた物語の結末と主題を総括する。 【事前学習】 テキスト35-38章 (chs. 24-26) に目を通す。(2時間) 【事後学習】 返却した学習ノートに再度目を通し、講義で学んだことをまとめ期末エッセイに備える。(2時間)</p> <p>第16回 なし</p>
--	--

授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 { } 2) 情報リテラシーに関する科目 { ○ } 3) ICTの活用 { ○ } 4) 初年次教育 { } 5) 実践的PBL { }
-----------------	---

テキスト	Bronte, Charlotte. Jane Eyre. Bronte, Charlotte. Retold by Clare West. Jane Eyre. Oxford: Oxford University Press (Oxford Bookworms)
参考書	『新版 概説イギリス史 伝統的理解をこえて』青山吉信、今井宏 編 有斐閣 1996年 『ユリイカ』 9月号 第34巻第11号 青土社 2002年9月 英文 J. サザランド 『イギリス小説の謎』 編注者 藤原浩一、高谷修 英宝社 2004年 『新英文学入門-T・イーグルトン「文学とは何か」を読む』 大橋洋一著 岩波書店 2004年 『知の教科書 批評理論』 丹治 愛編 講談社 2006年
評価方法	理解度クイズ 80% 学習姿勢 20% *授業日数の3分の1を超えて欠席しないこと。 *3回の遅刻は1回の欠席と見なす。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【○】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【 】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	『英文学史』 (History of British Literature) を履修しているほうが望ましい。
オフィスアワー	初回講義でアナウンス。 チャットで直接呼びかかるか、メールアドレス (hamagawah@ocjc.ac.jp) へ連絡。
課題に対するフィードバック方法	解答・解説・質疑応答は、授業内で対応する。 その他、質問・意見等があれば、チャット・メールも歓迎。

講義科目名称： English Communication V

授業コード： 5215L 5215M 5215N E215J
Y215J Y215L Y215M Y215N

英文科目名称： English Communication V

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2～3年	4単位(0-8)	選択科目：学科英語専門科目
担当教員			
M. Bradley/D. Webb/M. Dubien/O. Phillips/A. Mason			
授業形態：演習	ナンバリング：E0C214		
添付ファイル			
Rubric for English Communication V.xlsx			

授業のテーマ及び到達目標	<p>This is the highest level of English Communication. This means that students should aim to communicate (in both written and spoken assignments) solely in English, using language that is well-formed, articulated, and of a sufficiently high-level and appropriate register. The principal aim is, as with all other levels of English Communication, to actually *use* English and communicate a message, and to develop their communication in terms of all four skills (reading, writing, listening, speaking). Students should also aim to have found their own 'right way' to study in the future.</p> <p>By the end of English Communication V, students will be able to give and understand both written and spoken explanations of unfamiliar cultural practices and customs, and also understand the main points of extended dialogues and texts. Students will be able to give opinions and exchange information, and also maintain a sustained interaction in English, without confusing the person with whom they interact.</p>
授業の概要	<p>This class will provide a bridge to medium and higher-level English courses including Debate & Discussion, Advanced Writing and Advanced Communication. Students will focus on developing the ability to accurately understand more complex, longer pieces of information, and then properly express themselves based on such information. Through numerous activities including writing and performing role-plays, debate and discussion, presentation, writing reports and suchlike, the skills necessary for advanced communication will be acquired: exchanging remarks, expressing counterarguments, verifying facts and so on.</p> <p>Rather than explicitly teaching grammar, vocabulary, etc., topics will be presented to students as starting points for the various communicative activities that follow, and students will receive guidance, instruction and feedback from the teacher.</p>
授業計画	<p>第1週 Refreshing and meeting again Teachers will refresh students knowledge of classroom English, core pronunciation (minimal pairs, liaison), and will provide communicative activities to introduce the teacher, and to (re)introduce the students to each other. The communicative activities will also serve as a reminder to students of the communicative skills and strategies developed in earlier English Communication classes, in preparation for the topics to come in the following weeks. Students will also be asked to reflect on their aims and goals for the coming class, and to express these both orally and in writing. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous semester. (2時間) 【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear. (2時間)</p> <p>第2週 Cosmetic Surgery & Personal Relationships After warm-up discussion questions related to cosmetic surgery and best friends, students listen to and read a dialogue about cosmetic surgery, and a monologue about the distinction between friendship and romantic relations. Key vocabulary such as drastic, beg, wit, attract, confused, and lovers are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. 【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear. (2時間)</p> <p>第3週 Environment & Rules After warm-up discussion questions related to global warming and household rules, students listen to and read a dialogue about using air conditioners, and a dialogue about mother-daughter tensions over household rules. Key vocabulary such as CO2, chill out, air conditioning, fed up with, acceptable, and push s.o. are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills. 【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間) 【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear. (2時間)</p> <p>第4週 Plagiarism & Household Chores After warm-up discussion questions related to plagiarism and housework, students listen to and read a dialogue about plagiarism, and letters to a counselor regarding relationship troubles caused by housework. Key vocabulary such as reference, impression, plagiarize, persuade, calculate, and postpone are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions</p>

presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間)

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

(2時間)

第5週

Abortion & Taboo Professions

After warm-up discussion questions related to abortion and jobs after university, students listen to and read a monologue about abortion, and a monologue about supplementing income by being an escort. Key vocabulary such as abortion, pregnant, horrified, escort, confess, and deny are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間)

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

(2時間)

第6週

Body Art & Adult Children

After warm-up discussion questions related to appearance / fashion and when people should start taking more responsibility for their lives, students listen to and read a dialogue about body art, and a radio show about adults who continue to live with their parents. Key vocabulary such as weird, overreact, loosen up, trend, creepy, and spoiled are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間)

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

(2時間)

第7週

Workplace Relations & Culture Shock

After warm-up discussion questions related to whether students prefer a male/female doctor/teacher/boss, and what students like about their country, students listen to and read a dialogue about a workplace dilemma, and a dialogue about culture shock. Key vocabulary such as update, inappropriate, mess up, take advantage of, hassle, and open-minded are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間)

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

(2時間)

第8週

Career Choice & Xenophobia

After warm-up discussion questions related to what jobs students want to do in the future, and immigration in students' home country, students listen to and read a dialogue about a job opportunity dilemma, and a magazine article expressing a xenophobic opinion of immigration. Key vocabulary such as dynamic, scandal, promotion, immigrant, vote, and citizen are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間)

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

(2時間)

第9週

Technology & Female Liberation

After warm-up discussion questions related to technology/communication and the extent to which mothers work, students listen to and read a dialogue about technology interfering with personal relations, and a magazine article about the role of women in society. Key vocabulary such as network, snuggle, convenience, controversial, guidance, and suited are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間)

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

(2時間)

第10週

Compromise & Peace-making

After warm-up discussion questions related to stereotypical gender roles and war, students listen to and read a dialogue about expectations within marriage, and a blog article about life in a war zone. Key vocabulary such as disaster, assume, compromise, injustice, dignity, and ashamed are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.

【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間)

【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear.

(2時間)

第11週	<p>Stalking & Divorce</p> <p>After warm-up discussion questions related to love at first sight and divorce, students listen to and read a monologue about stalking, and a monologue about divorce. Key vocabulary such as admirer, stalking, harmless, divorce, resentful, and move in are explicitly treated. After checking their comprehension of the listening/reading, students discuss their opinions about the topics in pairs and small groups, and see if they agree with the opinions presented in the textbook - this develops their critical thinking and discussion skills.</p> <p>【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間) 【事後学習】 Do assigned homework. Check understanding of topics and language covered in class. Ask for support if anything is unclear. (2時間)</p>
第12週	<p>Review of topics and task-based project (1)</p> <p>All of the topics covered in the class are reviewed, and students collectively decide on the most interesting and engaging topics - these will be used for a final interview in week 15. The teacher also introduces a task-based project that will continue until the end of the semester. The nature of the project will vary depending on the teacher; as an example, students could think up a new invention to improve their lives, and in groups film (and edit) an advertisement to sell this to other people.</p> <p>【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間) 【事後学習】 Work on task/project and prepare for final interview. (2時間)</p>
第13週	<p>Task-based project (2)</p> <p>Work on the task-based project continues in this week, as does preparation of any performance element that is to be given the following week.</p> <p>【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間) 【事後学習】 Work on task/project and prepare for final interview. (2時間)</p>
第14週	<p>Explanation of final assessment and preparation</p> <p>As well as explaining to students about the final interview assessment in week 15, students show/perform the results of their work on the task based project over the previous weeks. Any remaining time is given to students to prepare in groups for the final assessment.</p> <p>【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間) 【事後学習】 Work on task/project and prepare for final interview. (2時間)</p>
第15週	<p>Final assessment</p> <p>The final interview assessment is carried out. Students meet with the teacher in groups and discussion of one or more of the topics covered in the semester is carried out in detail, with students looking to display knowledge and understanding of the topics, as well as the communicative ability to express their ideas freely.</p> <p>【事前学習】 Review all topics and language covered in previous week. (2時間) 【事後学習】 Prepare for final interview. (2時間)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	"American English File 3 3rd ed." (Latham-Koenig, Oxenden, Lambert: Oxford University Press). In Focus 2 (Kinseido) may also be used (check directly with the teacher).
参考書	A good English-Japanese dictionary with lots of example sentences. Also, students need to keep a personal English language notebook while studying at OCU.
評価方法	Quizzes, presentations, pronunciation drills, mid-term test, final test, interviews, and other methods as determined by the individual teachers. Your teacher will explain clearly in his or her syllabus, at the beginning of the semester. Grades will be based upon the school grading policy. NOTE: Your grade is a combination of the score from both teachers' classes, so you must perform well in both sections.
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>【○】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	Students should be aware that much of their grade is based on in-class performance, such as talking in English in class and actively participating. Both are essential for improvement in speaking English.
オフィスアワー	There are no specifically assigned office hours. However, you can speak to the teacher directly before and after the class, make an appointment to see the teacher when he/she is free, and communicate by email or on Teams.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class, send an email, or contact on Teams. Students can also use the Feedback Loop on Teams to leave anonymous feedback.

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	3～4年	2単位(0-2)	選択科目：学科英語専門科目
担当教員			
Christopher Valvona			
授業形態：演習	ナンバリング：A0C317		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>The goal of this class is to provide a more challenging communicative environment for students whose English is already at an intermediate or higher level. The fundamentals of communication, including correct pronunciation, will be assumed and therefore not explicitly covered in the course materials and teaching.</p> <p>The primary goal of this course is to increase students' communicative confidence and to develop their general fluency in using English. A secondary goal is to develop practical work-related skills such as working in teams, giving presentations, preparing written reports and handouts, and more. Another secondary goal is to develop workplace-related vocabulary, expressions, and general pragmatic awareness.</p>
授業の概要	<p>This task-based course simulates the experience of working in an English-speaking company. In this course, students brainstorm new product ideas, pitch their ideas within the company, perform market research, design an ad campaign, and participate in a job interview. The course starts with quite easy tasks but quickly builds toward more challenging projects. Students must work in small teams to complete these projects while taking turns being the project manager for their team. Active participation in English is required. Students should expect to do 60-90 minutes of preparation work outside of class each week and also to attend class actively and regularly.</p>
授業計画	<p>第1回 Stage 1 (Company orientation) Student Book p. 2-7 【事前学習】 Review communication skills from previous communication classes (2時間) 【事後学習】 Review lesson contents (2時間)</p> <p>第2回 Stage 1 (Company orientation (cont'd)) SB p. 8-11 【事前学習】 Review previous class (2時間) 【事後学習】 read p.13-14, think of ideas p.14 (D) (2時間)</p> <p>第3回 Stage 2 (About R&D) SB p.12-17 【事前学習】 Finish homework (2時間) 【事後学習】 problems and solutions list on p. 17 (2時間)</p> <p>第4回 Stage 2 (Brainstorming) SB p.18-25 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 finish proposal and elevator pitch (2時間)</p> <p>第5回 Stage 3 (SWOT Analysis) SB p.26-31 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 complete the table on p.32 (A) (2時間)</p> <p>第6回 Stage 3 (Task Prep) SB p.32-37 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 complete product memo and prepare poster (2時間)</p> <p>第7回 Stage 3 (Poster Presentation) SB p.38 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 read p.41 (2時間)</p> <p>第8回 Stage 4 (About Market Research) SB p.40-47 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 conduct focus group or survey (2時間)</p> <p>第9回 Stage 4 (Data Analysis) SB p.48-53 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 finish report, read p.57 (2時間)</p> <p>第10回 Stage 5 (About Adverts)- SB p.56-62 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 prepare several types of ad for the product (2時間)</p> <p>第11回 Stage 5 (Prepare video commercial) SB p.62-69 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 finish video commercial (2時間)</p> <p>第12回 Stage 5 (Ad Campaign Presentation) SB p.70</p>

	<p>【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 read/complete p.74 (2時間)</p> <p>第13回 Stage 6 (Write a Resume) SB p. 75-77 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 complete a resume (2時間)</p> <p>第14回 Stage 6 (write a cover letter) SB p. 77-79 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 complete a cover letter (2時間)</p> <p>第15回 Stage 6 (Job Interviews) SB p. 80-82 【事前学習】 Finish HW (2時間) 【事後学習】 Complete self-evaluation (2時間)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> (0)</p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> (0)</p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> (0)</p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> ()</p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/> (0)</p>
テキスト	Widgets: A task-based course in workplace English. (2018, Atama-ii Books). Authors: Marcos Benevides and Chris Valvona. ISBN: 9781941140000. Distributor: englishbooks.jp
参考書	A dictionary (paper or electronic).
評価方法	Class attendance and participation, presentations, and an end-of-semester speaking test. Grades will be based upon the school grading policy
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>【 <input type="checkbox"/> 】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【 <input type="checkbox"/> 】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【 <input type="checkbox"/> 】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【 <input type="checkbox"/> 】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>This course simulates the practical experience of working in an English-speaking company. Therefore, students will be graded partly on how well they try to meet appropriate professional norms.</p> <p>・In-class participation and out-of-class preparation are both required to do well in this course. Students who are often absent, or who refuse to participate in class, may find it difficult to pass.</p>
オフィスアワー	Contact the teacher directly to make an appointment.
課題に対するフィードバック方法	Ask the teacher directly in class or send an email. Teacher-, self- and peer-evaluation are all built into the assessment.

講義科目名称： The Post-American World

授業コード： E204A

英文科目名称： The Post-American World

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3~4年	2単位(0-2)	選択科目：学科英語専門科目
担当教員			
David Ulvog			
授業形態：演習	ナンバリング：A0C321		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 The objective of this course is to help students develop a better understanding of macro forces that have influenced and developed the world so far, such as the second major power shift with the rise of the United States in the late 19th century, and the forces and structures that will influence and develop the world in the future, be they political, economic, industrial, technological, cultural, or otherwise.</p>
授業の概要	<p>This is a high-level content-based class for students who have successfully completed intermediate classes and are ready to study subjects in English. The classes will be conducted in the form of lectures and class discussions. There will also be group workshops in which students discuss, analyze, and present their ideas in English. Students will learn about various aspects of the world we live in and choose topics to investigate further and give presentations on as their mid-term and final assignments. There will also be written assignments and short reports that will be submitted for grading.</p>
授業計画	<p>第1回 Orientation The first class will provide a general introduction of three seminal power shifts that have taken place over the last 500 years. The class will be conducted in a dialogue style, so please be ready to contribute! 【事前学習】 Think about what you know about the United States. What are things you would like to know? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p> ※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>第2回 The Rise of the Rest This class will look at events that have characterized the world since the collapse of the Soviet Union and that have laid the foundation for the third seminal power shift. 【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p> ※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>第3回 Industrial Revolution & Cold War What was the Industrial Revolution and how did it contribute to maintaining the hegemony of Europe and the rise of the United States? What was the Cold War and how did it divide the world politically and economically? 【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p> ※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>第4回 The World Since 1991 How have science and technology, commerce and capitalism, as well as industry and agriculture developed? How fast (GDP growth rate) have the so-called industrialized advanced nations' economies developed recently? How about the rate of economic growth in other countries? 【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class. 【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p> ※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p>

第5回	<p>The Last 40 Years</p> <p>This class looks at the rate of extreme poverty and economic growth. There is a historical comparison of relatively recent violence versus the magnitude of conflict in the past.</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p>
第6回	<p>※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>Interim Evaluation</p> <p>Students will have an interim evaluation to assess how well they have understood the material of the first few classes.</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p>
第7回	<p>※学習に必要な時間：4時間</p> <p>Terrorism & Global Warming</p> <p>How have the issues of terrorism and global warming been addressed during the third seminal power shift?</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p>
第8回	<p>※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>The Great Economic Expansion</p> <p>How has economic growth been structured and what has characterized it over the past 40 years?</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p>
第9回	<p>※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>Rise of Nationalism</p> <p>Why has nationalism become more pervasive in recent decades? How will this affect the future? What about COVID-19?</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p>
第10回	<p>※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>The Last Superpower?</p> <p>What has been the United States' contribution to the world previously and how does it see its position in the world today? What about the future? What effect did the Iraq War and 2007 Financial Crisis have on how the world views the US? Who was Hannibal Barca?</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p>
第11回	<p>※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>A Non-Western World</p> <p>What does it mean to be "western"? This class will take a brief overview of history comparing development between "western" countries and "non-western" countries over the past 2000 years with particular emphasis on the Enlightenment. Why did "western" countries sail and trade around the world while "non-western" countries did not?</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p>

	<p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>第12回 China & India</p> <p>This class will look at both China and India, their structures, development, and influence on world politics, economics, and other areas.</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>第13回 BRICS</p> <p>As India, China, and other countries grow and develop, and each exerts its influence, how might the world look in 10, 20 or even 30 years? How will global issues, such as climate change, be addressed?</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>※課題提出/レポートあり ※学習に必要な時間：4時間</p> <p>第14回 Ethnicity, Language & Religion</p> <p>Ethnic, language and religious connections transcend borders and connect people separated by residence in different nation-states. We will examine how such connections influence people's lives and international relations.</p> <p>【事前学習】 Think about the topic and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topic? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Remember each class starts with a review of the previous class.</p> <p>※学習に必要な時間：4時間</p> <p>第15回 Review</p> <p>This class will review key concepts and lessons from the class to emphasize their importance and look at how the world might develop in the decades to come.</p> <p>【事前学習】 Think about all the topics and read any materials provided before the class. What are things you would like to know about the topics? Prepare some notes with your ideas and questions so you are ready to participate in the class.</p> <p>【事後学習】 Check how well you understood the class. What did you understand? What didn't you understand? Make notes for questions to ask in the next class. Prepare for the final exam.</p> <p>※学習に必要な時間：4時間</p> <p>第16回 Final Evaluation</p> <p>Students will have their final evaluation.</p> <p>【事前学習】 Prepare for final evaluation.</p> <p>【事後学習】 Review instructor's comments and feedback.</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	Materials provided by the instructor
参考書	<p>英語版：The Post-American World by Fareed Zakaria</p> <p>日本語版：アメリカ後の世界（フェリド・ザカリア）</p> <p>Students will also benefit from regular readings of newspapers and periodicals.</p>
評価方法	<p>1) Quizzes and reports 85%</p> <p>2) Class participation 15%</p> <p>※宿題の提出期限過ぎは受け付けしません。もし公欠が原因の場合、証明できる書類を提出してください。</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p>

	欠 (K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1~4との関連】</p> <p>【○】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	Students should be prepared and actively participate in class discussions.
オフィスアワー	<p>※後期に決定後、通知する。 毎週**曜日 **限目 Ulvog研究室</p> <p>※メールおよびオンライン面談も行う。 面談の設定については、TEAMSのチャットで連絡ください。</p>
課題に対するフィードバック方法	The instructor will provide feedback to the students about each of their presentations, reports, and tests.

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前・後期	2～3年	2単位 (0-4)	選択科目：学科英語専門科目
担当教員			
Cheng Tsui-Ping・小嶺 千尋・與儀 幸太郎			
授業形態：演習	ナンバリング：ARE214		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 高度なアクティブ・リーディングを通して、多様な情報を批判的に読み取り、自らの考えを形成・発信する力を養います。さらに、グローバル社会に関する複数の視点を扱いながら、情報リテラシー、批判的思考力(critical thinking)、の向上にもさらに力をいれて取り組みます。</p> <p>【到達目標】 (1) 英文読解の「アクティブ」なスキルを運用し、英文の論理構成や筆者の主張を把握し、複数の情報を比較・統合してアウトプットすることができる。(知識・理解) (2) リーディングだけでなく他技能を組み合わせながら、世界に関するトピックについて自分の立場や意見を英語で論理的にまとめ、口頭または文章で表現することができる。(技能) (3) アウトプット活動(質問や音読など)に積極的に取り組み、グループで協調しながら主体的にプロジェクトに取り組むことができる。(態度)</p>
授業の概要	<p>本授業では、Active Reading IVで培ったアクティブ・リーディングの技能をさらに発展させ、より高度な英文読解および思考活動に取り組みます。TED Talks を基にした教材を用い、グローバル社会に関する多様なテーマを扱いながら、スピーチの内容理解だけでなく、筆者の主張、根拠、論理構成を分析する力も養います。また、複数の資料や視点を比較しながら情報を整理する活動や、内容を基にした意見交換など、より一層高度なアウトプット活動にも取り組みます。これらの活動を通して、英語で情報を理解する力だけでなく、根拠に基づいて自分の考えを形成し発信する力も育成します。</p>
授業計画	<p>第1回 (Unit 6: Food For Life) Lesson 6A-#1:Food Revolution Introduction ・ 授業の内容や進め方、評価方法等について ・ 予習・復習の仕方</p> <p>Lesson 6A: Food Revolution ・ Think and Discuss ・ Pre-Reading ・ Getting the Main Ideas</p> <p>【事前学習】 (30分)Unit 6AのSkimming 【事後学習】 (30分)Unit 6Aの復習</p> <p>第2回 (Unit 6: Food For Life) Lesson 6A-#2:Food Revolution Lesson 6A: Food Revolution ・ Understanding the Main Ideas ・ Identifying Problems and Solutions ・ Understanding Infographics</p> <p>【事前学習】 (30分) 6Aの音読と熟読 【事後学習】 (30分) 6Aの復習</p> <p>第3回 (Unit 6: Food For Life) Lesson 6A-#3:Food Revolution Lesson 6A: Food Revolution ・ Building Vocabulary ・ Getting Meaning from Context ・ Critical Thinking ・ まとめクイズ</p> <p>【事前学習】 (30分) 6Aの音読と熟読、Critical Thinkingシェアの準備 【事後学習】 (30分) 6Aのクイズの復習</p> <p>第4回 (Unit 6: Food For Life) Lesson 6B & Project Lesson 6B: Teach Every Child About Food (TED Talks) Project: Planning an Event to Promote Food Revolution Day ・ Students organize an event for Oliver's Food Revolution and create a flyer to advertise it. ・ Students analyze each other's advertisements and decide which event to join.</p> <p>【事前学習】 (30分) Watch TED Talks #1, プロジェクトの準備 【事後学習】 (30分) Watch TED Talks #2, プロジェクトの振り返り</p> <p>第5回 (Unit 6: Food For Life) Reading 読解実践 6-1 配布資料を基に、Unit 6 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】 (30分) 授業前にUnit 6 を復習する。 【事後学習】 (30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>

第6回	<p>(Unit 6: Food For Life) Reading 読解実践 6-2 配布資料を基に、Unit 6 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】(30分) 授業前にUnit 6 を復習し、事前に配布された資料②を読む。 【事後学習】(30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>
第7回	<p>(Unit 7 Body Signs) Lesson 7A-#1: Inspired Leadership Lesson 7A: Inspired Leadership</p> <ul style="list-style-type: none"> • Think and Discuss • Pre-Reading • Getting the Main Ideas <p>【事前学習】(30分) Lesson 7Aの音読とSkimming 【事後学習】(30分) Lesson 7Aの熟読と授業の復習</p>
第8回	<p>(Unit 7 Body Signs) Lesson 7A-#2: Inspired Leadership Lesson 7A: Inspired Leadership</p> <ul style="list-style-type: none"> • Getting Key Details • Recognizing the Structure of A Text • Building Vocabulary <p>【事前学習】(30分) Lesson 7Aの音読と熟読 【事後学習】(30分) Lesson 7A授業の復習 (特にVocabulary)</p>
第9回	<p>(Unit 7 Body Signs) Lesson 7A-#3: Inspired Leadership Lesson 7A: Inspired Leadership</p> <ul style="list-style-type: none"> • Critical Thinking • 全体まとめと小テスト <p>【事前学習】(30分) Lesson 7Aの音読とCritical Thinkingシェアの準備 【事後学習】(30分) Lesson 7Aのクイズの復習</p>
第10回	<p>(Unit 7 Body Signs) Lesson 7B & Project Lesson 7B: Your Body Language Shapes Who You Are (TED Talks) Project: Practicing Power Poses</p> <ul style="list-style-type: none"> • Students practice power poses before giving a presentation. • Students try out and evaluate what they learned in the TED Talk. • Students discuss their experiences. <p>【事前学習】(30分) Watch TED Talks #1, プロジェクトの準備 【事後学習】(30分) Watch TED Talks #2, プロジェクトの振り返り</p>
第11回	<p>(Unit 7 Body Signs) Reading 読解実践 7-1 配布資料を基に、Unit 7 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】(30分) 授業前にUnit 7 を復習する。 【事後学習】(30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>
第12回	<p>(Unit 7 Body Signs) Reading 読解実践 7-2 配布資料を基に、Unit 7 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】(30分) 授業前にUnit 7 を復習し、事前に配布された資料②を読む。 【事後学習】(30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>
第13回	<p>(Unit 8 Energy Builders) Lesson 8A-#1: Kite Power Lesson 8A: Kite Power</p> <ul style="list-style-type: none"> • Think and Discuss • Pre-Reading • Getting The Main Ideas <p>【事前学習】(30分) Lesson 8Aの音読とSkimming 【事後学習】(30分) Lesson 8Aの音読と授業の復習</p>
第14回	<p>(Unit 8 Energy Builders) Lesson 8A-#2 Kite Power Lesson 8A: Kite Power</p> <ul style="list-style-type: none"> • Scanning for Specific Information • Building Vocabulary • Making Comparisons <p>【事前学習】(30分) Lesson 8Aの音読と熟読 【事後学習】(30分) Lesson 8A授業の復習</p>
第15回	<p>(Unit 8 Energy Builders) Lesson 8A-#3: Kite Power Lesson 8A: Kite Power</p> <ul style="list-style-type: none"> • Getting Meaning from Context • Critical Thinking • まとめと小テスト <p>【事前学習】(30分) Lesson 8Aの音読とCritical Thinkingシェアの準備 【事後学習】(30分) Lesson 8Aクイズの復習</p>
第16回	<p>(Unit 8 Energy Builders) Lesson 8B & Project Lesson 8B: How I Harnessed the Wind (TED Talks) Project: Researching Solutions to Energy Problems</p>

- ・ Students work in pairs to research another new solution involving renewable energy.
- ・ Students watch a TED Talk and present a summary using diagrams, photos, and video.
- ・ Students debate which innovator is the most interesting.

第17回	<p>【事前学習】(30分) Watch TED Talks #1, プロジェクトの準備 【事後学習】(30分) Watch TED Talks #2, プロジェクトの振り返り (Unit 8 Energy Builders) Reading 読解実践 8-1 配布資料を基に、Unit 8 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】(30分) 授業前にUnit 8 を復習する。 【事後学習】(30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>
第18回	<p>(Unit 8 Energy Builders) Reading 読解実践 8-2 配布資料を基に、Unit 8 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】(30分) 授業前にUnit 8 を復習し、事前に配布された資料②を読む。 【事後学習】(30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>
第19回	<p>(Unit 9 Changing Perspectives) Lesson 9A-#1: Thinking in Pictures Lesson 9A: Thinking in Pictures ・ Think and Discuss ・ Pre-Reading</p> <p>【事前学習】(30分) Lesson 9A の音読とSkimming 【事後学習】(30分) Lesson 9A 授業の復習</p>
第20回	<p>(Unit 9 Changing Perspectives) Lesson 9A-#2: Thinking in Pictures Lesson 9A: Thinking in Pictures ・ Scanning for Information ・ Getting the Main Ideas ・ Understanding Key Details</p> <p>【事前学習】(30分) Lesson 9A の音読と熟読 【事後学習】(30分) Lesson 9A 授業の復習</p>
第21回	<p>(Unit 9 Changing Perspectives) Lesson 9A-#3: Thinking in Pictures Lesson 9A: Thinking in Pictures ・ Building Vocabulary ・ Getting Meaning from Context ・ Critical Thinking ・ まとめと小テスト</p> <p>【事前学習】(30分) Lesson 9A の音読とCritical Thinkingシェアの準備 【事後学習】(30分) Lesson 9Aクイズの復習</p>
第22回	<p>(Unit 9 Changing Perspectives) Lesson B & Project Lesson 9B: Deep Sea Diving ... in a Wheelchair (TED Talks) Project: Researching People Who Challenge Our Assumptions ・ Students work together to research unique individuals who challenge preconceptions. ・ Students use maps, photos, and video to make a presentation about such an individual. ・ Students discuss which person they found most interesting and why.</p> <p>【事前学習】(30分) Watch TED Talks #1, プロジェクトの準備 【事後学習】(30分) Watch TED Talks #2, プロジェクトの振り返り</p>
第23回	<p>(Unit 9 Changing Perspectives) 読解実践 9-1 配布資料を基に、Unit 9 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】(30分) 授業前にUnit 9 を復習する。 【事後学習】(30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>
第24回	<p>(Unit 9 Changing Perspectives) 読解実践 9-2 配布資料を基に、Unit 9 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】(30分) 授業前にUnit 9 を復習し、事前に配布された資料②を読む。 【事後学習】(30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>
第25回	<p>英検IBA (2年次後期のみ) (2年次前期) 第26回の授業を前倒しにして実施する。第29回 (Lesson B & Project)のセッションで2コマ実施する。</p> <p>(2年次後期) 英検IBAの実施 (これまでの英語学習の成果を確認すると共に、今後の学習課題を明確にする</p>

	<p>ため) これまでの英語学習の振り返り</p> <p>【事前学習】(30分) これまでの自分の英語学習について振り返りをしておく 【事後学習】(30分) これからの英語学習の課題を言語化し対策を宣言する</p>
第26回	<p>(Unit 10 Data Detectives) Lesson 10A-#1: Information Is Beautiful Lesson 10A: Information Is Beautiful</p> <ul style="list-style-type: none"> • Think and Discuss • Pre-Reading • Getting the Main Ideas <p>【事前学習】(30分) Lesson 10A の音読とSkimming 【事後学習】(30分) Lesson 10A 授業の復習</p>
第27回	<p>(Unit 10 Data Detectives) Lesson 10A-#2: Information Is Beautiful Lesson 10A: Information Is Beautiful</p> <ul style="list-style-type: none"> • Understanding Details • Understanding Infographics • Getting Meaning from Context <p>【事前学習】(30分) Lesson 10Aの音読と熟読 【事後学習】(30分) Lesson 10A 授業の復習</p>
第28回	<p>(Unit 10 Data Detectives) Lesson 10A-#3 Information Is Beautiful Lesson 10A: Information Is Beautiful</p> <ul style="list-style-type: none"> • Building Vocabulary • Critical Thinking • まとめと小テスト <p>【事前学習】(30分) Lesson 10A の音読とVocabularyの復習 【事後学習】(30分) Lesson 10A のクイズの復習</p>
第29回	<p>(Unit 10 Data Detectives) Lesson 10B & Project Lesson 10B: The Beauty of Data Visualization (TED Talks) Project: Creating an Infographic</p> <ul style="list-style-type: none"> • Students work together to design an infographic and present it to others. • Students analyze and evaluate each other's ideas and offer feedback. <p>【事前学習】(30分) Watch TED Talks #1, プロジェクトの準備 【事後学習】(30分) Watch TED Talks #2, プロジェクトの振り返り</p> <p>※2年次前期の場合、このセクションを2コマ実施する。</p>
第30回	<p>(Unit 10 Data Detectives) Reading 読解実践 10-1 配布資料を基に、Unit 10 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】(30分) 授業前にUnit 10 を復習する。 【事後学習】(30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>
第31回	<p>(Unit 10 Data Detectives) Reading 読解実践 10-2 配布資料を基に、Unit 10 で培った読解力の復習と実践を行う。</p> <p>【事前学習】(30分) 授業前にUnit 10 を復習し、事前に配布された資料②を読む。 【事後学習】(30分) 間違えた問題の誤答レポートをまとめ、文法事項の復習をする。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 【O】 2) 情報リテラシーに関する科目 【 】 3) ICTの活用 【 】 4) 初年次教育 【 】 5) 実践的PBL 【 】</p>
テキスト	Laurie Blass, Mari Verso, Eunice Yeates, and Colleen Shields. 21st Century Reading: Creative Thinking and Reading with TEDTalks 2. (Cengage Learning, 2020.)
参考書	参考書やサブ教材は、クラスによって異なる。
評価方法	<p>Lesson A 小テスト 50 % Quizzes / Worksheet 25 % Project Participation 25 %</p> <p>※授業内テストについては、「原則として」公欠も含めて追試を実施しない。(ただし、評価配点やテスト実施の方法など、詳細は担当教員によって異なります。必ずクラス担当教員と確認すること。)</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p>

	不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1~4との関連】 【 】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【 】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	応用クラスなので、しっかりついていけるように、授業外学習を充実させましょう。
オフィスアワー	各教員とアポイントメントを取ること。
課題に対するフィードバック方法	小テスト及び課題は、採点したのちクラス内もしくはTeams上で返却する。

講義科目名称： Current Issues Online

授業コード： E136A

英文科目名称： Current Issues Online

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2～4年	2単位(0-2)	選択科目：学科英語専門科目
担当教員			
Daniel Broudy			
授業形態：演習	ナンバリング：ARE227		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	The objective of this course is to improve students' English and online learning abilities to increase their critical awareness and understanding of current issues that affect our lives locally, nationally, and internationally. Successful students will acquire a level of English that enables them to teach junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where students actively participate and critically reflect on new knowledge.
授業の概要	This course is conducted almost entirely online. Students will use Gmail as well as internet sites such as Google Classroom to participate. By the end of this course, students should be more comfortable working and learning in a fully online environment, as well as have developed a greater understanding of current issues of importance. Students should also have developed a greater ability in thinking, talking, and writing about these issues. This course helps students understand various details of information provided in a range of media and genres. It helps students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing skills on various topics and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
授業計画	<p>第1回 The what, why and how of online learning Visit the Google Classroom online throughout the semester to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>Topic: "Greetings and Introductions"</p> <p>DIRECTIONS: Post a brief introduction of yourself that tells: a. where you are from b. what your major study is c. what you want to learn from this course d. what you plan to do after graduation e. what your favorite food is</p> <p>ASSIGNMENT Visit the Google Classroom online to access content and to respond to the media and critical questions.</p> <p>(2 hours) Review Google Classroom procedures to understand classroom navigation and interactions with electronic materials (2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions</p> <p>第2回 Reproduction Right and Responsibilities Topic "Reproduction Right and Responsibilities"</p> <p>ASSIGNMENT</p> <p>DIRECTIONS: Watch the YouTube videos to express your opinion about the issue of Japan's declining population. Discuss in a Google Doc what you feel is the heart of the problem, and what you think can be done to fix this growing problem.</p> <p>Reproduction Issues - Video #1 http://www.youtube.com/watch?v=59tv16mJGrQ&feature=fvw</p> <p>Reproduction Issues - Video #2 http://www.youtube.com/watch?v=eQNglI0DrhE&feature=channel</p> <p>(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment (2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions</p> <p>第3回 Bullying in Schools and the Workplace The class materials for this week are two YouTube videos and a website dedicated to stopping bullying.</p> <p>ASSIGNMENT</p> <p>Share your memory of an experience that you have personal knowledge of that involved bullying. Discuss why you think it happened and how it could have been prevented or</p>

stopped. Offer a solution on how bullying anywhere can be prevented today.

Video #1

<https://www.youtube.com/watch?v=nWJut7KQhI4>

Video #2

<http://www.youtube.com/watch?v=wY7Gvq0P4hc&feature=related>

(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment

(2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions

第4回

Hikikomori

ASSIGNMENT

Please read the news article about how people who suffered from hikikomori were helped by religion. Also, there is a link to the NHK site about hikikomori. It is in Japanese and will help you to gain a better understanding of this disorder. Read comments about a BBC news program that discusses the hikikomori problem in Japan. After you have done the reading and watching videos, please discuss the following:

- 1) Why do you think hikikomori occurs?
 - 2) What can be done to help people who are suffering from hikikomori?
 - 3) Is hikikomori a spiritual rather than psychological condition?
- Shutting Themselves In - New York Times article
<https://www.nytimes.com>

(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment

(2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions

第5回

Drinking and Driving

ASSIGNMENT

Watch the attached videos and respond to the questions.

Week 5 clip: Drinking & Driving

<https://www.youtube.com/watch?v=NOI3ZNidp5A>

Week 5 clip: U.S. Marine's Drunk Driving Kills Japanese Man In Tokyo

<https://www.youtube.com/watch?v=tOUWsFu8qGA>

Week 5 clip: Jacqui's Story

https://www.youtube.com/watch?v=GtXo_usX7Tw

a. Why do you think that people still drink and drive despite all of the evidence about how dangerous it is?

b. What is a just punishment for those who are caught drinking and driving?

(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment

(2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions

第6回

Bullying in schools and the workplace

ASSIGNMENT

Watch video that describes Japan's efforts to stimulate economic growth and the perceived effectiveness of this effort. Consider the efforts now being put forward and the difficulties of living in the present economic situation, and answer the following two questions below:

1. Discuss your opinion about the government's present effort to create economic growth.
2. What do you think is a way to grow the local economy, despite what is happening throughout the rest of Japan?

Week 6 - Japan's economy stumbles: Is Abenomics working?

<https://www.youtube.com/watch?v=XaTWEWWSsAs>

Week 6 - Nihon 101 - What is Abenomics?

<https://www.youtube.com/watch?v=2ZjOE5QbufY>

(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment

(2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions

第7回

Globalization

ASSIGNMENT

This topic has various levels of difficulty and is a major issues facing countries. To learn about and understand this topic, watch the introduction to globalization video, then the BBC slide show for information about different areas of globalization. There is also a video about the bad side of globalization. Answer the following questions:

- a. Briefly discuss two positive effects of globalization.

- b. Briefly discuss two negative effects of globalization.
- c. Do you think the positive effects of globalization make it more acceptable in spite of the negative effects? Why or why not?

Week 7 - Introduction to Globalization
http://www.youtube.com/watch?v=e1RTU_xrf38
Week 7 - Institute for Global Labour and Human Rights
<https://www.youtube.com/user/nlcnnet>

(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment
(2 hours) Prepare for following week by reading, researching,

第 8 回

Smoking and Smokers' Rights
ASSIGNMENT

The topic this week is about the increasing bans on smoking in public implemented around the world due to growing concerns about the public health from second-hand smoke. To learn more about this movement to ban smoking in public places, see generally the following Wikipedia page (you may also access the Japanese language version) Last, discuss the three following questions:

Last, discuss the following questions:

- a. Do these bans on smoking in public infringe on the rights of smokers?
- b. Tobacco is not an illegal drug, so is it okay to ban its use so extensively?

(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment
(2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions

第 9 回

Consumerism in Today's World
ASSIGNMENT

Please watch all 4 parts of "The Story of Stuff" and answer the following questions, and check out the article on plastics.

- a. Does the Story of Stuff cause you to think more carefully about yourself, how you define yourself as a member of society?
- b. If yes, what important lesson did you learn from the documentary?
- c. What do you personally think is the major problem with consumer societies?
- d. What can you do to help solve the problem?

Week 9 - The Story of Stuff (Parts 1, 2, 3, & 4)

(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment
(2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions

第 10 回

Consumerism
ASSIGNMENT

DIRECTIONS: Read, watch, and listen.

Answer the questions:

- 1. This is a sweatshop and the girls are being worked almost as "slaves." Why do they choose to work there?
- 2. Why does the owner not pay his workers more?
- 3. Why don't foreign companies investigate these places in greater depth?
- 4. Why does the country (society) allow this situation to continue?

China's Forced Labor Problem
Hot off the BBC Press | China Probe over Slave Labor Factory
Santa's Workshop - Inside China's Slave Labour Toy Factories

(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment
(2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions

第 11 回

Understanding and Defeating Racism
ASSIGNMENT

DIRECTIONS: Read, watch, and listen.

- a. What interesting new thing have you learned about the idea of race?
- b. Have you ever been affected by (or witnessed) racism?
- c. If yes, briefly describe what happened.
- d. What do you feel is the best way to defeat racism in the world today?

- 1. Read the attached UN report:
- 2. Watch the video on race as a concept: Race: Are We So Different? (YouTube)
- 3. Watch this video, too, race as a mythology: The Myth of Race (YouTube)
- 4. Blue-eyed vs. Brown-eyed people

(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and

	<p>integrate guidance for improved writing into this week's assignment (2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions</p> <p>第12回 Explaining the Exam ASSIGNMENT</p> <p>There is no issue to discuss this week.</p> <p>Instead, you should think about an issue you might want to explore for your final exam, and perhaps start doing some more research on it.</p> <p>(2 hours) Review responses from professor for this week's written assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment</p> <p>第13回 (2 hours) Prepare for following week by reading, researching, and watching digital media on selected topic in order to respond to critical questions</p> <p>Deciding then Researching ASSIGNMENT</p> <p>Last week you told me about the topic you have chosen (remember, you can choose any topic from this course). This week, tell me roughly what you are going to say about that topic. I want you to do some research and post some links that are relevant to your topic. For this assignment, you can number the answers like I have done in the following example:</p> <p>EXAMPLE:</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. Topic: Internet Privacy 2. Content: I am going to make a presentation that tries to persuade people to quit using sites such as Google, Facebook, Yahoo, and Skype, and to switch to open-source alternatives. I am going to explain why i think they should quit, and then I am going to give an introduction to several alternatives. 3. Research: This site has lots of information on alternatives to the mainstream sites: https://prism-break.org/en/all/ <p>(2 hours) Review responses for this week's assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment</p> <p>第14回 (2 hours) Prepare your final project</p> <p>Last Minute Issues ASSIGNMENT</p> <p>Last minute questions? If you have any questions about the presentation, please ask me in Google Classroom.</p> <p>(2 hours) Review responses for this week's assignment and integrate guidance for improved writing into this week's assignment</p> <p>第15回 (2 hours) Prepare your final project</p> <p>Submissions ASSIGNMENT</p> <p>Over the next week, you should finalize your video and post it by the deadline on the 30th of January by 23:59.</p> <p>If you have still have some concerns or questions, please send me an email <dbroudy@ocjc.ac.jp> or contact me on Teams..</p> <p>If you have difficulty attaching your presentation, simply email it to me.</p> <p>Finally, please be sure to visit the Kyomuka to fill out a course evaluation for Current Issues Online.</p>
授業における具体的な特色や方法	<ol style="list-style-type: none"> 1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input checked="" type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input checked="" type="checkbox"/>
テキスト	No particular text is used. All course materials are supplied by the instructor and accessible through the Google Classroom.
参考書	Access to a computer with an internet connection is necessary and mandatory.
評価方法	Participation is important in an online course. You must take personal responsibility for your active involvement in class. This means engaging with course materials and submitting assignments in a timely manner each week. Submitting late work will have a negative effect on your final grade.
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 試験欠席・レポート未提出・出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>【<input type="checkbox"/>】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【<input type="checkbox"/>】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p>

	<p>【 】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>Preferably, students should have completed English Composition I and/or II. Participation is a major part of this course. Since this course is conducted entirely online in asynchronous mode, we do not meet in a physical classroom on campus.</p>
オフィスアワー	<p>Broudy研究室 Please check for details posted at my office North 4-1 or schedule time to meet face to face. If the class is in a DE format, consultations will be accepted by email or online. To set up a time, contact me by email at (dbroudy@ocjc.ac.jp)</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>Students receive graded assessment for presentations as well as verbal and written feedback in rubrics throughout the semester.</p>

講義科目名称： Advanced Writing

授業コード： 5021A

英文科目名称： Advanced Writing

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3~4年	2単位(2-0)	選択科目：学科英語専門科目
担当教員			
Daniel Broudy			
授業形態：演習	ナンバリング：AWR322		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	Students who successfully complete this course will acquire a level of English that enables them to teach basic composition to junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where their own students actively participate and critically reflect on new knowledge. The course aims to help students understand details of information gleaned from research across a range of media. It aims to help students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing on various topics and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English.
授業の概要	Prerequisite: Successful completion of English Composition 2. Advanced Writing expands on knowledge and skills gained in ECII. Students practice exercises from the textbook and undertake an academic research project that develops skills in generating and organizing ideas and developing rational arguments. Researching, summarizing, note-taking, and using sources to support claims and develop discussions are all features of the course. Students are encouraged to think critically about issues that affect their lives or areas of social, political, or economic interest. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
授業計画	<p>第1回 Introduction -introductions -review syllabus H O M E W O R K: read short essay "Sugar: Friend of Foe" pgs. 3-4 (30 minutes) Preparation/Review Composition strategies (30 minutes) Review Essay</p> <p>第2回 Discussions of readings 1 -discussion of Unit 1 in small groups -finish exercises H O M E W O R K: (30 minutes) review Unit 2, pgs. 8-14 (30 minutes) prepare, Unit 1</p> <p>第3回 Discussions of readings 2 -discussion of Unit 2 -finish all exercises in class H O M E W O R K: (30 minutes) review, finish brainstorming, outlining, and drafting first essay for Day 4 (30 minutes) prepare, read Unit 3 to understand any new vocabulary and the purpose of Peer Review during next class</p> <p>第4回 Peer review -prepare a copy of your essay to share with your classmate -work through Unit 3 together H O M E W O R K: (30 minutes) review > peer responses from workshop (30 minutes) prepare > finish your Peer Review of your classmate's essay for the next class</p> <p>第5回 Finish peer review -finish up Peer Review process, refer to "Put it Together" pg. 22 -Writers' Workshop for short essay H O M E W O R K: (30 minutes) review > peer responses from workshop (30 minutes) prepare > Unit 4 to understand any new vocabulary and the purpose of Researching during next class</p> <p>第6回 Discussions of readings 3 -discussion of Unit 4 -finish all exercises -handout 1 Exercise in Online Research H O M E W O R K: (30 minutes) review > Unit 5 to understand any new vocabulary and the purpose of Outlining during next class do "Put it Together" pg. 29 (30 minutes) prepare > research process</p> <p>第7回 Brainstorming and outline -submit essay for grading -give a lecture on brainstorming and outlining, how to move from subject area to topic, to brainstorming and creating an outline.</p>

	<p>-discussion of Unit 5 -finish all exercises H O M E W O R K: (30 minutes) review > review Unit 5 (30 minutes) prepare > read Unit 6 to understand any new vocabulary and the purpose of Avoiding Plagiarism during next class</p> <p>第8回 Discussions of readings 4 -discussion of Unit 6 -finish all exercises H O M E W O R K: (30 minutes) review > Unit 6 (30 minutes) prepare > read Unit 7 to understand any new vocabulary and the purpose of The Language of the Research Paper during next class do "Put it Together" pg. 49 -Be aware that the course could move suddenly to an online platform</p> <p>第9回 Discussions of readings 5 -discussion of Unit 7 -finish all exercises H O M E W O R K: (30 minutes) review > Unit 7 (30 minutes) prepare > read Unit 8 to understand any new vocabulary and the purpose of Writing the First Draft during next class do "Put it Together" pg. 59</p> <p>第10回 Discussions of readings 6 -discussion of Unit 8 -finish all exercises H O M E W O R K: (30 minutes) review > Unit 8 (30 minutes) prepare > read exercises 8 to 11 on pgs. 67 to 68 to prepare for discussions during next class do "Put it Together" pg. 66</p> <p>第11回 Discussions of exercises and Writers' Workshop -discussion of exercises -Writers' Workshop for research paper H O M E W O R K: (30 minutes) review > read Unit 9 to understand any new vocabulary and the purpose of In-Text Citations during next class (30 minutes) prepare > finish marking papers at home</p> <p>第12回 Writers' Workshop 2 -discussion of Unit 9 and exercises -Writers' workshop for research paper H O M E W O R K: (30 minutes) review > Unit 9 (30 minutes) prepare > do exercise 4 on pg. 78, exercises 8 and 9 on pg. 81, and exercise 10 on pg. 82, read Unit 10 to understand any new vocabulary and the purpose of academic language, and read Unit 12</p> <p>第13回 Discussion of exercises 2 -discussion of Unit 10 exercises -Writers' workshop for research paper discussion of Unit 12 H O M E W O R K: (30 minutes) review > review Unit 10 and 12 (30 minutes) prepare > for presentations</p> <p>第14回 Presentations 1 -Students' presentations prepare your presentation for next week review your notes from presentation rubrics H O M E W O R K: (30 minutes) review > responses from presentations (30 minutes) prepare > prepare final presentations</p> <p>第15回 Presentations 2 -Students' presentations -Submit final draft of research paper H O M E W O R K: (30 minutes) review > responses to presentations (30 minutes) prepare > final draft of research papers</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 [0] 2) 情報リテラシーに関する科目 [0] 3) ICTの活用 [0] 4) 初年次教育 [X] 5) 実践的PBL [0]</p>
テキスト	Writing Research Papers (Macmillan Writing Series ISBN: 978-0-230-42194-3)
参考書	No other materials are needed.
評価方法	<p>Presentation = 10% Short Essay = 30% Research Paper = 40% Participation = 20%</p>

評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>【<input type="checkbox"/>】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【<input type="checkbox"/>】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【<input type="checkbox"/>】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【<input type="checkbox"/>】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>Participation is important, so come to class on time and focus on work necessary for success. Surfing the Internet or social networking, playing with a mobile phone, or other electronic devices unrelated to the course, will affect your participation score.</p>
オフィスアワー	<p>Broudy研究室 Please check for details posted at my office North 4-1 or schedule time to meet face to face. If the class is in a DE format, consultations will be accepted by email or online. To set up a time, contact me by email at (dbroudy@ocjc.ac.jp)</p>
課題に対するフィードバック方法	<p>Students receive graded assessment for presentations as well as verbal and written feedback in rubrics throughout the semester.</p>

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3~4年	2単位(0-2)	選択科目：学科英語専門科目
担当教員			
Daniel Broudy			
授業形態：演習	ナンバリング：AWR320		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	This course is a survey of key areas of investigative writing that aims to develop independent thinking, skills in independent field research and the integration of results from interviews with people as a way to support observations and perspectives presented in articles. Successful students in this course will acquire a level of English that enables them to teach basic composition to junior and senior high school students in the English language. This class will help students achieve a B2 level of CEFR. Successful students will also be able to offer grade-appropriate feedback and assessment for students across primary and secondary schooling. Students are required to develop a flexible ability to organize an interactive classroom where their students actively participate and critically reflect on new knowledge.
授業の概要	Prerequisite: Successful completion of English Composition II. Investigative Reporting is an upper-level writing course that introduces students to the principles of journalistic styles of writing. Students will learn about the value of collaboration, investigation, ethical reporting practices, truth claims, sourcing, stylistic concerns, and narrative approaches to journalistic work. This course helps students understand various details of information provided in a range of media and genres. It helps students understand various details in auditory media to improve listening, helps students develop writing on various issues and themes in English, and encourages students to speak on various topics and themes in English. This course, thus, integrates the four major communication skills of reading, writing, speaking and listening.
授業計画	<p>第1回 Introductions / Investigation / Social inquiry</p> <ul style="list-style-type: none"> - introducing others - introduce the course text - review syllabus - introduce and discuss Assignment #1 (see page 4 of the syllabus for details) <p>HOMEWORK (30 minutes) review > read Talk, Topic, and Thesis in Unit 1, take notes to understand the short discussion for the next meeting (30 minutes) prepare > think about an issue you want to write about and be prepared by Day 2 to talk about it</p> <p>第2回 Review readings 1</p> <ul style="list-style-type: none"> - review Talk, Topic, and Thesis, and discuss Useful New Words - do Unit 1, Exercise 1 (in class), p. 2 - do Unit 1, Exercise 2 (in class), p. 3 - do Unit 1, Exercise 3 (in class), p. 7 <p>HOMEWORK (30 minutes) review > read Talk, Topic, and Thesis in Unit 1, take notes to understand the short discussion for the next meeting (30 minutes) prepare > think about an issue you want to write about and be prepared by Day 2 to talk about it</p> <p>第3回 Review readings 2</p> <ul style="list-style-type: none"> - review Authority, Chapter 4, p. 10 - discuss results of Unit 1, Exercise 4, p. 11 - discuss results of Unit 1, Exercise 5, p. 12 - discuss results of Unit 1, Exercise 6, p. 13 - read and discuss Introduction in Unit 2, Chapter 5, p. 14 - take notes to understand the short discussion for the next meeting - do Unit 2, Exercise 1 (in class), p. 16 - discuss Assignment #1 (see page 4 of the syllabus for details) - PowerPoint 1 権威.pptx <p>HOMEWORK (30 minutes) review > draft Assignment #1 for Workshop on Day 4 (30 minutes) prepare > read Body, Chapter 6, pp. 17-18, do Unit 2, Exercise 2, p. 19, read Conclusion, chapter 7, pp. 20-21, do Unit 2, Exercise 3, p. 22</p> <p>第4回 Peer Editing 1</p> <ul style="list-style-type: none"> - workshop for assignment #1 <p>HOMEWORK (30 minutes) review > responses to workshop (30 minutes) prepare > finish Assignment #1 to submit on Day 5</p> <p>第5回 Submissions and Readings</p> <ul style="list-style-type: none"> - submit Assignment #1 - review Unit 2, Exercise 2, p. 19

- review Unit 2, Exercise 3, p. 22
 - PowerPoint 2 intro/body/concl.pptx
- HOMEWORK
 (30 minutes) review > Unit 2
 (30 minutes) prepare > read Citing in Chapter 8, p. 23, do Unit 3, Exercise 1, p. 25

第6回

- National social issues / selected readings / discussions / HW review readings
- discuss Assignment #2 (see page 5 of the syllabus for details)
 - review Citing, Chapter 8, p. 19
 - discuss results of Unit 3, Exercise 1, pp. 20-21
 - read and discuss Connecting, Chapter 9, p. 26
 - PowerPoint 3 citing/connecting.pptx
 - do Unit 3, Exercise 2 (in class), p. 28
 - do Unit 3, Exercise 3 (in class), p. 30
- HOMEWORK
 (30 minutes) review > Unit 3
 (30 minutes) prepare > draft Assignment #2 for Workshop on Day 8, read Contextualizing, Chapter 10, p. 31

第7回

- Review Readings 3
- review Contextualizing, Chapter 10, p. 31
 - do Unit 3, Exercise 4 (in class), p. 33
 - do Unit 3, Exercise 5 (in class), pp. 35- 36
 - PowerPoint 4 contextualizing.pptx
- HOMEWORK
 (30 minutes) review > Unit 10
 (30 minutes) prepare > do Unit 3, Exercise 6, p. 36, read Unit 4, Chapters 11, 12, 13, and 14, do Unit 4, Exercise 1, p. 38, do Unit 4, Exercise 2, p. 39, do Unit 4, Exercise 3, p. 41, do Unit 4, Exercise 4, p. 43

第8回

- Discuss Assignments
- discuss results of Unit 3, Exercise 6, p. 36
 - review Voice, Clarity, Precision, Honesty
 - review Unit 4 Exercises 1-4
 - PowerPoint 6 Voice
 - do Unit 4, Exercise 5 (in class), pp. 45-47
 - do Unit 5, Exercise 6 (in class), p. 48
 - workshop for Assignment #2
 - discuss Assignment #3 (see page 6 of the syllabus for details)
- HOMEWORK
 (30 minutes) review > results of discussions
 (30 minutes) prepare > finish Assignment #2 to submit on Day 9, draft Assignment #3 for Workshop on Day 10, read Unit 5, Applied Ethics, Chapter 15, p. 49

第9回

- Review readings 4
- submit Assignment #2
 - discuss Applied Ethics, Chapter 12, pp. 34-35
 - do Unit 4, Exercise 2 (in class), p. 35-36
 - Powerpoint 6 applied/ethics.pptx
 - discuss Sample Informed Consent Form, p. 37
- HOMEWORK
 (30 minutes) review > Unit 4
 (30 minutes) prepare > finish Assignment #2 to submit on Day 9, draft Assignment #3 for Workshop on Day 10, read Unit 5, Applied Ethics, Chapter 15, p. 49

第10回

- Peer Editing 2
- Workshop for Assignment #3
- HOMEWORK
 (30 minutes) review > results of workshop
 (30 minutes) prepare > finish Assignment #3 to submit on Day 11, read Unit 5, Case 1, p. 37

第11回

- Review readings 5
- submit Assignment #3
 - discuss Assignment #4 (see page 7 of the syllabus for details)
 - discuss Unit 5, Case 1, p. 37
 - discuss Assignment #4 (see page 5 of the syllabus for details)
- HOMEWORK
 (30 minutes) review > Unit 5
 (30 minutes) prepare > read Unit 5, Case 2, p. 38, prepare Assignment #4 for workshops on Days 13 and 14

第12回

- Review readings 6
- discuss Unit 5, Case 2, p. 38
 - read and discuss Unit 5, Case 3, p. 39
 - read and discuss Unit 5, Case 3, p. 40
- HOMEWORK
 (30 minutes) review > Unit 5
 (30 minutes) prepare > edit your Video Project for Day 15

第13回

- Review readings 7

	<p>- workshop for Assignment #4 HOMEWORK (30 minutes) review > results of workshop (30 minutes) prepare > finish your Video Project for Day 15</p> <p>第14回 Workshop - workshop for Assignment #4 - presentations HOMEWORK (30 minutes) review > results of workshop (30 minutes) prepare > finish preparing for follow-up presentations and responding to peer-assessment rubrics</p> <p>第15回 Finalize Workshop - presentations - return rubrics</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> [0] 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> [0] 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> [0] 4) 初年次教育 <input checked="" type="checkbox"/> [X] 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/> [0]</p>
テキスト	Facing Conflict: A Text for Investigation and Writing in Globalized Contexts (2019) ISBN: 978-1938757648
参考書	Students are expected to conduct interviews with outside sources, take notes, and use notes in the development of their articles.
評価方法	<p>Grades are calculated from scores on articles, presentations, and participation. Assignments = 70% Participation = 30%</p> <p>Article #1 Local Economic, Social or Political (Single authored) 250 words 5 pts. Article #2 Local Economic, Social or Political (Co-authored) 400 words 15 pts. Textual Interview #3 Local Economic, Social or Political Issue (Co-authored) 1000 words 25 pts. Video Project #4 National or Global Economic, Social, or Political Issue (Research Team) 12-15 mins. 25 pts.</p>
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】 【 】 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【 】 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【○】 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	Participation is important, so come to class on time and focus on work necessary for success. Surfing the Internet or social networking, playing with a mobile phone, or other electronic devices unrelated to the course, will affect your participation score.
オフィスアワー	Please check for details posted at my office North 4-1 or schedule time to meet face to face. If the class is in a DE format, consultations will be accepted by email or online. To set up a time, contact me by email at (dbroudy@ocjc.ac.jp)
課題に対するフィードバック方法	Students receive graded assessment for presentations as well as verbal and written feedback in rubrics throughout the semester.

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2～4年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門基礎科目（英語領域）
担当教員			
城間 仙子			
授業形態：演習	ナンバリング：INT250		
添付ファイル			
siml_1. pdf			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 英語・日本語の音声をもとに、「聞く→理解→伝える」のプロセスを段階的に体験し、同時通訳（英日・日英）と逐次通訳の基礎的な手法を学ぶ。音声理解・情報整理・発話の質を高め、英語学習の新たな視点を育てることを目的とする。 LL 教室および Teams を活用し、録音・ふり返り・資料共有を通して、自身の学習過程を客観的に確認する。</p> <p>【到達目標】</p> <p>● 知識 同時通訳の基本となる考え方（意味のまとまり、情報の優先度、言い換え・簡略化）を理解する。 逐次通訳に必要な考え方（キーワード中心のノートテイキング、記号・レイアウト、話し方の構成）を理解する。 英語と日本語の表現構造の違いを踏まえ、自然な順序で情報を組み立てる方法を理解する。</p> <p>● 技能 音声のリズム・イントネーションを意識してシャドーイングを行える。 短い英文・和文を意味のまとまりとして捉え、簡潔に言い換えられる。 区間ごとの同時通訳（英日/日英）に取り組み、要点中心に伝えられる。 逐次通訳で、ノートを用いて情報を整理し、落ち着いた発話で自己紹介を再現できる。 録音・AI のフィードバックなどをもとに、改善ポイントを見出し、実践に反映できる。</p> <p>● 態度 音声を丁寧に聴き、内容を尊重しながら表現しようとする姿勢を持つ。 新しい表現方法に積極的に挑戦し、自分で成長を管理する姿勢を養う。 ペア・グループ活動において、互いを尊重しながら適切に協働する。</p>
授業の概要	<p>本授業では、英語・日本語の音声を素材に、「聞く・理解する・伝える」というプロセスを段階的に扱う。前半は英語から日本語への同時通訳を通して、音声の流れをとらえ、要点をまとめて表現する力を養う。中盤ではペアまたはグループによる相互の自己紹介を題材に、逐次通訳の基本であるノートテイキングや話し方の構成を体験し、情報整理の視点を広げる。後半は日本語から英語への同時通訳を行い、自然な英語の語順や表現の組み立て方を確認する。</p> <p>授業では PC 教室の CALL システムを活用し、録音・再聴による客観的な振り返りを行う。学習管理には Microsoft Teams を使用し、課題提出や振り返り記録を一元化する。また必要に応じて、語彙確認や表現の比較など限定的な場面で AI を活用し、学習の補助とする。同時通訳の提出物（英日・日英）を中心に評価し、逐次通訳は学習経験として位置づける。</p>
授業計画	<p>第1回 導入・ガイダンス/LL&Teams 操作/軽いウォームアップ 授業の構成・評価方法・3モジュール（素材A→逐次→素材B）の説明を行う。LL の録音機能と Teams の課題提出方法を確認。短い英語音声でシャドーイング体験。</p> <p>LL の録音・再生・速度調整 Teams のチャンネル構成、課題提出の流れ シャドーイングのウォームアップ</p> <p>事前（2h）：なし 事後（2h）：本日のメモ整理、語彙5～10語まとめ（任意）</p> <p>第2回 シャドーイング基礎（英音声）-音声の流れを捉える 素材Aの音声に慣れることを目的に、区間シャドーイングを行う。</p> <p>内容 5～10秒の区間反復 弱音・連結音の確認 「聞こえるところからついていく」練習 AI 活用（任意）：速度変更/語句の意味の確認での補助</p> <p>事前（2h）：語彙確認、素材通し聴取 事後（2h）：10～15分のシャドーイング+気づきの記録</p> <p>第3回 視訳（英→日）-意味のまとまりを意識する 英文を「意味のまとまり」として読み、日本語に再構成する。</p> <p>内容 区切りの付け方（接続語・名詞句など） 重要情報の把握 ペア共有：選んだ日本語表現の理由 AI 活用（任意）：チャンク分け案の比較</p> <p>事前（2h）：語彙確認、仮の区切り付け 事後（2h）：視訳原稿を整え、Teams へ提出 提出（必須 素材A-1）：視訳（英→日）</p>

第4回	<p>英日ミニ同時通訳-短い区間でのまとめ 短い音声区間で同時通訳に挑戦。ポイントは要約的発想と簡潔な言い換え。</p> <p>5~10秒区間の英日ミニ同通 言い換え・簡略化 発話のテンポ調整</p>
第5回	<p>事前 (2h) : キーワード確認 事後 (2h) : 区間練習2~3回と気づき整理 素材A (EN→JA) 通し同通-安定した日本語化 素材Aの通し同通を行い、発話の連続性・情報再構成を確認。</p> <p>テーマ要点確認 区間→通し 発声・テンポ・間合い調整</p>
第6回	<p>事前 (2h) : 語彙整理・要点メモ 事後 (2h) : 通し録音をTeams提出 提出 (必須 素材A-2) : 同時通訳音声 (英→日) 逐次通訳①-ノートテイキングの基本/短い自己紹介 キーワード中心のノート 記号 (→ ↑ ↓ = + / -) や段差レイアウト 30~45秒の自己紹介を相互に逐次 話し方の基本 (声量・間・視線) AI 活用 (任意) : 自己紹介文の語彙チェック</p>
第7回	<p>事前 (2h) : 自己紹介草稿 (100-150字) 作成 事後 (2h) : ノートの写真+簡単な振り返り (Teams提出) 逐次通訳②-ノートの型と発話の構成 縦列ノート、矢印 (因果・対比)、段落区切り 60~90秒の自己紹介逐次 サインポスト (First / Next / Finally) 発話の構成・聞き手に伝わる順序</p>
第8回	<p>事前 (2h) : 自己紹介の拡張版草稿 事後 (2h) : ノートの改善点+短い振り返り (Teams提出・任意) 逐次通訳③-パフォーマンス (相互自己紹介) ペア/3人グループで本番形式 ノートの実用度・発話の安定を体験 互いの良い点・改善点の共有</p>
第9回	<p>事前 (2h) : 話す内容の最終調整 事後 (2h) : 振り返り (必須) 提出 (必須 逐次) : 振り返りレポート (Teams提出) 日本語→英語の言い換え-英語らしい構造へ 主語・動詞を起点とした構造作り 名詞中心→動詞中心 発話での自然な流れ AI 活用 (任意) : 英語表現の自然さの確認</p>
第10回	<p>事前 (2h) : 素材B読み込み・英語化の下書き 事後 (2h) : 使いたい英語表現を5~10項目整理 視訳 (日→英) -短い英文への再構成① 要点の抽出 サインポスト併用の短い英語化 ペア比較・意図の説明</p>
第11回	<p>事前 (2h) : 要点整理 事後 (2h) : 視訳英稿作成 視訳 (日→英) -短い英文への再構成② 要点の抽出 サインポスト併用の短い英語化 ペア比較・意図の説明</p>
第12回	<p>事前 (2h) : 要点整理 事後 (2h) : 視訳英稿作成 提出 (必須 素材B-1) : 視訳英稿 (日→英) 日英ミニ同時通訳-区間練習 5~10秒区間での日英ミニ同通 言い換え・簡略化 語順の工夫と短文化</p>
第13回	<p>事前 (2h) : 要点マーキング 事後 (2h) : 練習録音 (任意) 素材B (JA→EN) 通し同通-安定化 テーマ要点→区間→通し 発声・間合い・語順調整</p> <p>事前 (2h) : 語彙・内容確認 事後 (2h) : 通し録音の提出</p>

	<p>提出（必須 素材B-2）：同時通訳音声（日→英） Teamsでの提出最終チェック 課題（Assignments）の要件確認 音声・視訳の整合性 必要に応じた修正</p> <p>事前（2h）：提出ファイル準備 事後（2h）：提出完了</p> <p>第15回 同時通訳の総合演習 学期の学習内容を統合し、最終的な実践力を確認する。自身の成長点・課題点を可視化し、次の学習へつなげる。</p> <p>主な内容 ・同時通訳の総合実演 ・録音を用いた振り返り ・自己評価シートの作成 ・必要に応じてAI補助で確認し、最終訳は自分で判断</p> <p>事前学習：総復習（2時間） 事後学習：最終演習の振り返り（2時間）</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	授業担当教員が準備・配布する。
参考書	授業内で指示する。
評価方法	課題提出 80% 授業の振り返り20%
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) — : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p><input type="checkbox"/> 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p><input type="checkbox"/> 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p><input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p><input type="checkbox"/> 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	音読やシャドーイングの自主トレーニングに努めること。語彙力を増やす努力をすること。
オフィスアワー	城間：随時チャットにてアポイントメントを受け付ける。
課題に対するフィードバック方法	課題に対するフィードバックは、授業内およびTeamsを活用して行う。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	1～2年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門基礎科目（コミュニケーション領域）
担当教員			
仲里 和花			
授業形態：講義	ナンバリング：CMS134		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 異文化コミュニケーションの概念や理論を日常生活にあてはめて分析できる論理的・批判的思考を身につけ、異文化コミュニケーションの諸問題について、自分で考え対応できる力を養う。また、グローバル社会の中で生じる、貧困、マイノリティー、言葉、平和と紛争、環境、SDGsについての課題を学び、多文化共生社会を構築していくために必要な知識、技能、態度、情動を身につける。</p> <p>【到達目標】 ①認知的領域：授業で学んだ異文化コミュニケーションの概念や理論を日常生活にあてはめて分析できる論理的・批判的思考を身につけることができる。 ②技能表現的領域：外国人とうまくコミュニケーションを図る実利的能力だけでなく、異文化コミュニケーションにおいて必要不可欠な技能を習得できる。 ③情意的領域：高い人権意識で自己と他者を尊重できる心をもって、積極的に相互理解を図り、多文化共生社会を創造するために共に歩むことができる。</p>
授業の概要	<p>講義形式とグループワーク形式で授業を行う。本講義は、貧困、マイノリティー、言葉、平和と紛争、環境、SDGsの観点から、現代の異文化コミュニケーションの問題について、知見を深めることを目的とする。</p> <p>[貧困] 「ファストファッション」「児童労働」「沖縄の子どもの貧困」「生理貧困」についての学びを深める。 [マイノリティー] 「性風俗産業」「障がい者」「沖縄県在住外国人」についての学びを深める。 [言葉] 「しまくうとば」についての学びを深める。 [平和と紛争] 「世界の平和と紛争」「沖縄の軍事化」についての学びを深める。 [環境・SDGs] 「PFAS汚染」「食品ロス」「SDGs」についての学びを深める。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション／異文化コミュニケーションを学ぶ意義 世界規模の国際化は、各国の相互依存化を急速に進め、様々な異文化摩擦を起こしている。このような国際的現状から、異文化コミュニケーションの研究・教育・実践に関する基本的な理解と考えを持つことは、今後ますます重要になると考えられる。本講義では、異文化コミュニケーションの一般的な定義と概念、異文化コミュニケーションの過程とそれに付随する困難点、異文化コミュニケーション活動を展開する際に必要な基本的な考えを学び、異文化コミュニケーションを学ぶ意義について考える。 【事前学習】「なぜ異文化コミュニケーションを学ぶ必要があるのか?」、自分の意見をまとめる。(2時間) 【事後学習】「異文化コミュニケーションの定義と概念」「異文化コミュニケーションの過程」「異文化コミュニケーションの困難点」「異文化コミュニケーション活動を展開する際に必要な基本的考え方」について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)</p> <p>第2回 ファストファッションについて考える 1990年代後半から台頭したファストファッションは、消費者の間に根付き、衣類の大量生産・大量廃棄が当たり前になった。しかし、このファストファッションの背景には、CO2の大量排出や海洋汚染など、多くの環境問題、さらには途上国の人権問題にも関わっている。ファストファッションが引き起こす様々な問題について考える。 【事前学習】ファストファッションが引き起こす様々な環境・人権問題について調べ、自分の意見をまとめる。(2時間) 【事後学習】ファストファッションが引き起こす環境問題、人権問題について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)</p> <p>第3回 児童労働について考える 児童労働とは、義務教育を妨げる労働や法律で禁止されている18歳未満の危険・有害な労働のことを指す。世界には1億6000万人、子どもの10人に1人が児童労働をしている。本講義では児童労働について考える。 【事前学習】「児童労働」が問題になっている国の一つを選び、その国の「児童労働」の現状について調べ、自分の意見をまとめる。(2時間) 【事後学習】様々な国の「児童労働」の現状、影響、原因、その解決策について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)</p> <p>第4回 沖縄の子どもの貧困について考える 沖縄では貧困率が高いとされているが、特に子どもの貧困率は29.9%となっており、全国平均が16.3%であることを考えると約2倍の数値であることがわかる。本講義では、沖縄の子どもの貧困の現状やその背景について考える。 【事前学習】「沖縄の子どもの貧困」の現状について調べ、自分の意見をまとめる。(2時間) 【事後学習】「沖縄の子どもの貧困」の現状、その背景や原因、解決策について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)</p> <p>第5回 生理貧困について考える 「生理の貧困」とは、「経済的な理由で生理用品が買えないことだけでなく、物資にアクセス</p>

できない」ことを指す。また、この背景には生理がタブー視されてきた歴史と、男尊女卑の政治、社会構造が影響している。本講義では生理の貧困について考える。

【事前学習】「生理の貧困」の現状について調べ、自分の意見をまとめる。(2時間)

【事後学習】「生理の貧困」の状況や背景、その原因、解決策などについて、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)

第6回

性風俗産業について考える

「性風俗産業」とは、性行為、その他性的欲望を満足させるサービスを提供する産業。性産業に従事する女性の中には、貧困が原因で、その産業に組み込まれていく人々がいる。本講義では、女性の貧困と性産業について考える。

【事前学習】「性風俗産業」の現状を調べ、自分の意見をまとめる。(2時間)

【事後学習】「性風俗産業」の実態、女性の貧困との関わり、性産業に従事する女性たちの現状について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)

第7回

障がい者とコミュニケーション

障がい者とコミュニケーションを図る際、ステレオタイプ、偏見、誤解が起こることが考えられている。身近な存在でありながら、「社会的弱者」として今まで援助、いたわりの対象と見られても、対等なコミュニケーションの相手とはあまり考えられてこなかった障がい者とのコミュニケーションについて、障がい者の視点を踏まえながら、考える。

【事前学習】「障がい者の方々とコミュニケーション」における自分の体験について、自分の考えや意見をまとめる。(2時間)

【事後学習】障がい者が経験するステレオタイプ、偏見、誤解、障がい者との対等なコミュニケーションのあり方について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことを考えたことを、レポートにまとめて、提出する。(2時間)

第8回

沖縄県在住外国人と多文化共生社会

本講義では、沖縄に滞在する日系人、外国人、アメラジアンとの異文化コミュニケーションについて考える。アメラジアンのアイデンティティ、いじめ、言葉、米軍基地の問題について、また、県在住外国人や日系人のコミュニケーションの問題、社会適応の課題について学んだあと、これらマイノリティの人々が、あるのままに受け入れられる多文化共生社会を築いていくために、どのような解決策があるかを考える。

【事前学習】沖縄に住んでいる外国人、日系人とのコミュニケーションについて、自分の体験をまとめ、感想を述べる。(2時間)

【事後学習】沖縄に滞在する日系人、外国人、アメラジアンの現状、直面する課題、社会適応の問題について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)

第9回

中間テスト・まとめ

第1回～第8回の授業で学んだことについて、中間テストを行う。

中間テストを実施し、回答を解説する。

【事前学習】第1回～第8回の授業を振り返り、資料やレジュメを復習して中間テストに備える。(2時間)

【事後学習】中間テストの回答できたところ、回答できなかったところを確認し、中間テストの振り返りを行う。(2時間)

第10回

異文化コミュニケーションから「しまくうとば」を考える

「しまくうとば」の「しま」は村落、島をあらわすだけでなく「故郷」の意味を持つ。よって、しまくうとばとは「故郷のことば」といえる。「うちなーぐち」は沖縄本島とその周辺離島の諸方言を指し、宮古、八重山、与那国の方言は含まれない。「しまくうとば」は多くの人々の「故郷のことば」を指し示すことのできる外に開かれた意味を持つ言葉。本講義では、異文化コミュニケーションの視点から「しまくうとば」を考える。

【事前学習】自分の地域の「しまくうとば」について調べ、自分の意見や考えをまとめる。(2時間)

【事後学習】異文化コミュニケーションの視点から「しまくうとば」を考える、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)

第11回

世界の平和と紛争

2022年度初頭から盛んに報じられているロシアのウクライナ侵攻。これをきっかけに紛争についての関心が高まっている。紛争とは何か？なぜ起こるのか？紛争の実例を学び、世界の平和のために、私たちができることを考えていく。

【事前学習】ロシアのウクライナ侵攻について調べ、自分の意見をまとめる。(2時間)

【事後学習】ロシアのウクライナ侵攻の実態を通して、紛争とは何か、その原因、影響、解決策について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)

第12回

また「沖縄が戦場になる」って本当？

今、南西諸島に自衛隊が配備され、対中国戦略のために米軍と自衛隊の「日米共同計画」が実行されている。今、進行中の日米共同作戦とは何か？なぜ南西諸島が再び戦場になるのか、ブックレット『また、「沖縄が戦場になる」って本当ですか？』（ノーモア沖縄戦 命どう宝の会編）を通して考える。

【事前学習】南西諸島で行われている「日米共同作戦」について調べ、あなたの意見をまとめる。(2時間)

【事後学習】南西諸島の自衛隊配備、日米共同計画、南西諸島が再び戦場になる可能性、などについて、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)

第13回

PFOS汚染から環境問題を考える

2016年1月、沖縄県企業局は北谷浄水場の水源である河川等から高濃度のPFOS、PFOAが検出されていること、そして嘉手納基地が汚染源と推測されることを発表した。沖縄のPFOS汚染の状況を学

	<p>び、環境問題について考える。 【事前学習】 沖縄県のPFOS環境汚染について調べ、あなたの意見をまとめる。(2時間) 【事後学習】 沖縄県のPFOS汚染の状況、その原因、生活への影響、解決策などについて、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて、提出する。(2時間)</p>
第14回	<p>食品ロスについて考える 食品ロスとは、まだ食べられるのに廃棄される食品のこと。日本では、まだ食べられるのに廃棄される食品、いわゆる「食品ロス」は522万トン。これは、世界中で飢餓に苦しむ人々に向けた世界の食料支援料(年間約420万トン)の1.2倍に相当する。本講義では、食品ロスの現状を学び、食品ロスを少しでもなくすために私たちにできることを考える。 【事前学習】 「食品ロス」について調べ、自分の意見や感想をまとめる。(2時間) 【事後学習】 「食品ロス」の現状、その原因、影響、解決策について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだこと、考えたことなど、自分の感想をレポートにまとめて、提出する。(2時間)</p>
第15回	<p>多文化共生社会とSDGs 持続可能な開発目標(SDGs: Sustainable Development Goals)とは、2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで採択された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標である。17のゴール、169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない」ことを誓っている。本講義では、多文化共生社会の構築に向けて、いかにSDGsを考えることが重要かを学ぶ。 【事前学習】 SDGsについて、ゴールの一つを選び、そのゴールについて調べ、自分の意見をまとめる。(2時間) 【事後学習】 持続可能な開発目標について、グループ・アクティビティや講義を通して、学んだことをレポートにまとめて提出する。(2時間)</p>
第16回	<p>期末テスト 第10回～第15回の授業の内容について、期末テストを行う。 【事前学習】 第10回～第15回までの授業を振り返り、資料やレジュメを復習して、期末テストの準備をする。(2時間) 【事後学習】 期末テストの回答できたところ、できなかったところを確認し、期末テストの振り返りを行う。(2時間)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	適宜、授業の前に、各講義の内容をパワーポイントで配信する。
参考書	<p>・伊佐雅子監修(2007)『改訂新版 多文化社会と異文化コミュニケーション』三修社 ・本名信行ほか(2005)『異文化理解とコミュニケーションIーことばと文化ー』三修社 ・本名信行ほか(2005)『異文化理解とコミュニケーションIIー人間と組織ー』三修社</p>
評価方法	授業への参加度(10%)、課題・プリント(10%)、グループ・アクティビティ(20%)、中間・期末テスト(60%)
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) — :出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】 <input type="checkbox"/> 1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること <input type="checkbox"/> 2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること <input type="checkbox"/> 3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること <input type="checkbox"/> 4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	学生のみなさんには、「あたりまえ」のことを常識とせず、どのようにしてその「常識」が「あたりまえ」とされているのかを深く考え、マクロな視点から社会事象を捉えられる思考力を養ってほしい。
オフィスアワー	毎週2回、各学期の時間割により、オフィスアワーが異なるため、事前に、学生課で、オフィスアワーを確認して、メールで事前に予約をお願いします。(kazuka@ocjc.ac.jp)
課題に対するフィードバック方法	課題やプリントは、評価して(採点・評価後)返却する。

講義科目名称： 異文化理解（2024年度以降入学生適用）

授業コード：

英文科目名称： Cross-cultural Understanding

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	2～3年次	2単位 (2-0)	選択科目：共通科目
担当教員			
新垣 誠			
授業形態：講義	ナンバリング：GEC209		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>テーマ： 文化を超え自己と他者の関係性を理解し、共生社会を志す。</p> <p>知識理解：文化の多様性を理解し、他者理解のために必要な理論や知識を身につける。</p> <p>関心意欲：他者の歴史や社会に興味を持てる。社会の対立や不寛容に疑問を持ち、解決へ向けて考えるようになる。</p> <p>思考判断：文化から社会的・歴史的背景を指摘できる。文化的対立や不寛容の原因を判断し、適切な異文化コミュニケーションを判断できるようになる。</p> <p>態度：文化の多様性に対する寛容性と感受性を自ら高める。共感的理解ができるようになる。異文化を正しく理解し伝えるように努力できる。自ら異文化コミュニケーションを実践し、英語を通じた多文化共生社会の実現に寄与できるようになる。</p>
授業の概要	<p>1) 講義形式と一部ワークショップ形式を活用し、異文化コミュニケーションにおける課題解決方法を実践する。</p> <p>2) 異文化理解に関する理論を学び、現在、世界や地域社会が抱える課題にどのように応用できるか議論する。実際にネイティブスピーカーとの交流を通し、異文化コミュニケーションの実践を試みる。</p> <p>3) 文化の多様性そして英語の多様性について学び、差別や偏見など異文化コミュニケーションが抱える様々な課題について考える。</p>
授業計画	<p>第1回 「文化」とは？「異文化理解」とは？～異文化コミュニケーションの課題～ 世界の文化の多様性、そして「文化」の概念について学ぶ。また「異文化」を「理解」という行為について考える。</p> <p>【事前学習】「異文化理解」とは何か。自ら文献や資料を参照しながら定義を考えてみる（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p> <p>第2回 英語の世界的伝播と文化変容 英語の世界的伝播の歴史を通して、英語が「国際共通語」となっていく過程を学ぶ。また様々な地域で独自に発達していった英語の多様性について学ぶ。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p> <p>第3回 文化的偏見と異文化理解（1） 異文化理解や異文化コミュニケーションを阻む要因についてステレオタイプや偏見、差別について考える。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p> <p>第4回 文化的偏見と異文化理解（2） ケーススタディとして現代アメリカにおける人種間の対立や差別の歴史を学ぶことで、今日のアメリカ社会のみならず地球社会が抱える異文化コミュニケーションと多文化共生の課題について理解を深める。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p> <p>第5回 異文化理解の実践（1） 在沖アメリカ人をゲストに招き、文化的偏見に関する体験談を共有・議論する。どのようなコミュニケーションの違いが、偏見やステレオタイプ、そして差別につながる危険性があるのかを理解する。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p> <p>第6回 異文化理解の実践（2）[0] 前回の議論を通し、気づきや新たな問題意識について議論する。そしてどのような異文化コミュニケーションが異文化理解にとって有効なのか、理解を深める。</p>

	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>
第7回	<p>文化変容と文化の多様性（1）</p> <p>イギリスから伝播した英語文化が、北アメリカやオセアニア地域で、どのように変容を遂げたのか、その歴史的要因のプロセスについて学ぶ。</p>
	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>
第8回	<p>文化変容と文化の多様性（2）</p> <p>フィリピンやインドなど、アジア地域における英語文化の影響と新たな文化の生成について学ぶ。</p>
	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>
第9回	<p>英語の多様性（1）</p> <p>イギリス英語とその他の国や地域の英語について学ぶ。多様な英語の形が、どのような歴史や文化的背景によって変容を遂げたのか、理解を深める。</p>
	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>
第10回	<p>英語の多様性（2）</p> <p>アジア地域を例に挙げ、多様化していく英語の現状について学ぶ。同じ英語でありながらニュアンスの違いや表現の違いが、どのようなコミュニケーションギャップやトラブルにつながるのかを学ぶ。</p>
	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>
第11回	<p>英語の多様性（3）[0]</p> <p>イギリス英語のネイティブスピーカーとアメリカ英語のネイティブスピーカーを招き、お互いの英語の表現の違いや、その背景にある文化差、さらにその違いによるミスコミュニケーションについて紹介してもらう。</p>
	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>
第12回	<p>英語の多様性（4）[0]</p> <p>異文化コミュニケーションの実践において、文化的背景を同時に理解する重要性について確認し、効果的な異文化コミュニケーションの方法について議論する。</p>
	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>
第13回	<p>文化的アイデンティティと異文化理解（1）</p> <p>異文化を理解する上で、また異文化コミュニケーションの実践において、重要な要因となる文化的アイデンティティについて学ぶ。文化的アイデンティティの形成過程や、アイデンティティ意識が、異文化理解にどのような影響を与えるのか、議論し理解を深める。</p>
	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>
第14回	<p>文化的アイデンティティと異文化理解（2）</p> <p>アメリカ社会を例に、文化的アイデンティティがどのような人種的・民族的対立を生んでいるのか学ぶ。同時に、文化的アイデンティティを超えて融和を図ろうとする取り組みについても学ぶ。</p>
	<p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>

	<p>第15回 異文化理解と多文化共生社会</p> <p>偏見や差別、文化的アイデンティティをめぐる対立などを超えて、多文化共生社会の実現に、異文化理解の学びがどのように貢献できるかについて議論する。文化の多様性を踏まえた上で、グローバル社会の有効な異文化コミュニケーターになるために必要な学びについて総括する。</p> <p>【事前学習】講義の最後にプレビューとして紹介されたテーマについて予習し、講義に備える（3時間）。</p> <p>【事後学習】講義の中で紹介されたキーワードについて詳しく調べる。参考資料として紹介された文献や資料をもとに学習を深める（1時間）。</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	講義に必要な教材ならびに資料は担当者が毎回準備します。
参考書	『異文化理解入門』（原沢伊都夫）、『ケースで学ぶ異文化コミュニケーション』（久米昭元他）、『他者への眼差し～異文化理解のための比較文化論』（ペーター＝クラウス・ケビン）、『英語の心』（マーク・ピーターセン）、その他のマルチメディア資料については、講義の進捗状況に応じて授業内で随時紹介します。
評価方法	期末レポート50%（テーマに基づく複数の問題）、学期内不定期課題（2回程度）20%、授業への参加（受講態度やディスカッションへの参加度を含む）30%：期末レポートでは講義内容の理解度とそれを受けて受講者独自の考えがアウトプットされているかを特に評価します。学期内にディスカッションやドキュメンタリーの内容に基づいたエッセイを課します。授業への前向きな参加としてグループディスカッションでの発言や発表などを評価します。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠 (K) —：出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p>
履修上の注意	「履修の心構え」：授業への参加が重視されます（遅刻や欠席は大きな減点対象です）。20分以上の遅刻や早退は欠席として扱います。授業態度は厳しく評価されます。「異文化理解」の前提は全ての人の配慮です。私語などの授業妨害行為はそもそも異文化理解の考えと相反するものです。人として基本的ルールを守る人、学びの意欲がある学生のみが履修することを強く希望します。「学びを深めるために」：参考文献・資料は古いものが多いので、メディア情報などを活用し最新の国際情勢や地域の状況を把握するように努力してください。ドキュメンタリー映画やニュース番組の特集などから更に状況の深い理解や分析を試みて下さい。同じ受講生とも対話を持ち、意見交換をおこなってみて下さい。
オフィスアワー	木曜日：2限（10：40～12：10）*Teamチャットにて予約をお願いします。
課題に対するフィードバック方法	課題やレポートは採点后に希望に応じて返却します。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位(2-0)	選択科目：学科専門応用科目（英語領域）
担当教員			
大城 直人			
授業形態：講義	ナンバリング：ENG300		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>【テーマ】 英文法の文法規則についての理解を深め、その知識を基に文法指導力を身につけることが、本講義の到達目標である。確かな文法知識を習得し、文法規則を分かりやすく伝える説明力を養い、さらに、効果的な言語活動を計画・実践する授業運営力の獲得を目指す。</p> <p>【到達目標】 1) 英語の正確な文法知識を身につけている。2) 英文法の効果的な指導方法について理解している。3) 英文法の習得を図るための効果的な言語活動を計画・実践することができる。</p>
授業の概要	<p>外国語として英語を学ぶ環境（EFL環境）においては、英文法の学習は不可欠であり、効果的な文法指導力が教師には求められる。本講義では、中学・高校で扱う文法項目から主要なものを取り上げ、宣言的知識の強化を視野に入れ、文法規則についての理解を深める。また、帰納的な導入の仕方や、分かりやすい説明の仕方についても実例を交えながら考究する。さらに、文法形式の定着を図るエクササイズや文法事項の活用を図るタスクの計画及び実施のあり方についても、実践的な演習やマイクロティーチングを通して理解を深め、指導技術を高める。担当者の、高等学校における10年間の教育実務経験を踏まえ、理論と実践のバランスのとれた授業を目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明／なぜ文法を教えるのかー文法指導の目的と意義 全15回の授業計画について概要を確認した後、課題や評価方法等についても説明を行う。第1回目ということで、文法指導の目的と意義について、学習者の技能的側面や情意的側面に着目し、先行研究の知見も紹介しながら確認する。 【事前学習】各自の英文法学習歴を振り返り、英語習得における英文法の役割について考える。(2時間) 【事後学習】補足資料に目を通し、英文法を学習する目的や意義についてさらに理解を深める。(2時間)</p> <p>第2回 学校英文法（1）ー中学校で学習する基礎的文法項目 中学校で取り上げられる主要な文法項目について、問題演習を通して重要なポイントを確認する。 【事前学習】前時に配布した課題（中学校で学習する英文法）に取り組む。(2時間) 【事後学習】本時の演習課題を見直し、中学校で学習する文法項目の要点を確認する。(2時間)</p> <p>第3回 学校英文法（2）ー高等学校で学習する基礎的文法項目 高等学校で取り上げられる主要な文法項目について、問題演習を通して重要なポイントを確認する。 【事前学習】前時に配布した課題（高等学校で学習する英文法）に取り組む。(2時間) 【事後学習】本時の演習課題を見直し、高等学校で学習する文法項目の要点を確認する。(2時間)</p> <p>第4回 文法指導における教材研究ー場面設定・身近な素材の活用・視覚教材の開発 文法指導においては、自然な文脈の中で意味や機能について触れることが肝要である。また、身近な素材を活用することで学習者の興味・関心を高めることができる。また視覚教材を効果的に活用することで学習効果を高めることも可能になる。 【事前学習】授業前にテキスト第2章（pp.23-34）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】課題（身近な素材を生かした教材開発）に取り組む。(2時間)</p> <p>第5回 文法指導の流れと留意点ー文法指導における4つのステージの目的と意義 代表的な文法指導は4つのステージ（導入・説明・練習・活動）から構成される。その目的と意義について、各ステージの特徴を紹介しながら、確認する。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp.73-158）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第6回 文法指導における導入の実際ー帰納的でインタラクティブな導入 4つのステージの最初のステージである「導入」では、帰納的でインタラクティブなアプローチが効果的である。その理由についても確認しながら、具体的な指導例について紹介し、理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第4章（pp.78-94）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第7回 マイクロティーチング（1）ー導入の実践 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「導入」部分について、ミニ授業（マイクロティーチング）を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。 【事前学習】マイクロティーチング（文法指導の導入）に向けて準備を進める。(3時間) 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。(1</p>

	時間)
第 8 回	<p>文法指導における説明の実際－形式・意味・用法を分かりやすく提示 4つのステージの2番目のステージである「説明」では、形式・意味・用法の3点について、分かりやすく簡潔に説明・提示することが求められる。具体的にいくつかの文法項目を取り上げ、例示しながら理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第4章 (pp. 98-114) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。(2時間)</p>
第 9 回	<p>マイクロティーチング (2) －説明の実際 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「説明」部分について、ミニ授業 (マイクロティーチング) を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。 【事前学習】マイクロティーチング (文法指導の説明) に向けて準備を進める。(3時間) 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。(1時間)</p>
第 1 0 回	<p>文法指導における練習の実際－話し言葉中心の練習と書き言葉中心の練習 4つのステージの3番目のステージである「練習」では、話し言葉と書き言葉の特性の違いにも触れながら、それぞれの具体的にいくつかの文法項目を取り上げ、例示しながら理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第4章 (pp. 116-134) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。(2時間)</p>
第 1 1 回	<p>マイクロティーチング (3) －練習の実際 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「練習」部分について、ミニ授業 (マイクロティーチング) を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。 【事前学習】マイクロティーチング (文法指導の練習) に向けて準備を進める。(3時間) 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。(1時間)</p>
第 1 2 回	<p>文法指導における活動の実際－インプット重視の活動とアウトプット重視の活動 4つのステージの最終ステージである「活動」では、実際に文法知識を活用し、コミュニケーション活動を行わせる。活動には、インプットを重視したものと、アウトプットを重視したものがあるが、具体例を示しながらそれぞれの特性について理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第4章 (pp. 136-158) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。(2時間)</p>
第 1 3 回	<p>マイクロティーチング (4) －活動の実際 (インプット重視の活動) 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「活動」部分について、特にインプット重視の活動を計画し、ミニ授業 (マイクロティーチング) を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。 【事前学習】マイクロティーチング (文法指導：インプット重視の活動) に向けて準備を進める。(3時間) 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。(1時間)</p>
第 1 4 回	<p>マイクロティーチング (5) －活動の実際 (アウトプット重視の活動) 前時の講義で学んだ知識を踏まえ、実際に文法の「活動」部分について、特にアウトプット重視の活動を計画し、ミニ授業 (マイクロティーチング) を行う。マイクロティーチングの後に、良かった点や改善点についてコメントを共有し、相互の学びの機会とする。 【事前学習】マイクロティーチング (文法指導：アウトプット重視の活動) に向けて準備を進める。(3時間) 【事後学習】マイクロティーチング後の検討会で受けた指摘を振り返り、課題の改善を図る。(1時間)</p>
第 1 5 回	<p>様々な文法指導－TBLT、フォーカス・オン・フォーム 昨今注目を集めている文法の指導方法について具体例を示しながら概要を説明する。また、文法指導の留意点についてこれまで学んだポイントを総括する。 【事前学習】授業前にテキスト第6章 (pp. 199-214) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題 (振り返りレポート) に取り組む。(2時間)</p>
第 1 6 回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	「英語教師のための文法指導デザイン」 (田中武夫・田中知聡著、大修館書店、2014年)
参考書	<p>「英語で教える英文法－場面で導入、活動で理解」 (卯城祐司編著、研究社、2014年)</p> <p>「英文法指導アイデアブック 中学1年～3年」 (瀧沢広人著、明治図書、2015年)</p> <p>「中学の英文法－アクティビティ・アイデア集」 (瀧沢広人著、明治図書、2013年)</p> <p>「徹底例解ロイヤル英文法」 (綿貫陽著、旺文社、2000年)</p>

評価方法	マイクロティーチング (40%)、文法小テスト (30%)、振返りシート (20%)、授業への貢献度 (10%) 等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【○】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1. 遅刻： ①遅刻3回は1回の欠席となる。 ②20分以上の遅刻は、欠席となる。 2. 事前に教科書に目を通しておくこと（授業内の発言、有意義な議論につながる！）。 3. 英語教育関係の研究会、研修会へ積極的に参加し、指導力、研究力を高める。 4. 『英語教育』やその他の英語教育関連の雑誌等に目をとおす。
オフィスアワー	水曜日 3 限目 (13:00-14:30) 大城研究室 (西研4-5)
課題に対するフィードバック方法	1) マイクロティーチングに続く検討会で良かった点や改善点を指摘する。 2) 課題や小テストは評価（採点）をして次の授業時に返却する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	2・3年次	2単位(2-0)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
新垣 誠			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC322		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>国際理解が始まった意味と社会で果たす役割を学び、実践につなげる</p> <p>知識理解：国際理解の誕生した背景を理解し、本科目の様々な課題のテーマを理解する。</p> <p>思考・判断：国際理解教育テーマについて深く掘り下げることができる。</p> <p>技能・表現：本テーマに興味関心を持ち、自らが進んで教材研究を行うことができる。</p> <p>意欲関心：学びのプロセスに積極的に参加し、社会問題やニュースへの関心を寄せることができる。</p> <p>態度：フィールドおよび、グループ学習への積極的参加、教材作成も積極的に取り組む。</p>
授業の概要	<p>国際理解教育は、国連教育科学文化機関（ユネスコ）が提唱したことに始まり、ユネスコ憲章の前文には、「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」「政府の政治的及び経済的取極のみに基づく平和は、世界の諸人民の、一致した、しかも永続する誠実な支持を確保できる平和ではない。よって平和は、失われないためには、人類の知的及び精神的連帯の上に築かなければならない。」とある。</p> <p>国際理解教育に関連した教材なども体験しながら、その内容について考え、実践へとつなげる。</p> <p>NGO団体での国際理解教育の実践や教材開発に携わった経験から、具体的な事例を提供しながら、国際理解教育の理論と実践を考える。</p> <p>※本授業はどの学生も受講可能であるが、教育実習および教壇に立つことを想定した授業構成になっている。</p>
授業計画	<p>第1回 授業のガイダンス 国際理解教育の本授業についての内容や評価等共有する。 【事前学習】国際理解教育に関して、関心を持っておく(1h) 【事後学習】国際理解教育の歴史的背景を調べる(2h)</p> <p>第2回 国際理解教育について 国際理解教育の始まり及びその領域と関連する教育内容の整理を整理し、国際理解教育とは何か考える。 【事前学習】国際理解教育に関心を持ち、歴史的背景を調べる(2h) 【事後学習】世界的な課題に興味関心を持ちリサーチしておく(2h)</p> <p>第3回 参加型学習について どの科目・分野の教育でも参加型学習が導入されて久しいが、その考え方や手法について学ぶ。 【事前学習】参加型学習とは何か調べる(2h) 【事後学習】授業や教材作りに向けてさらに参加型学習について調べ理解を深める(2h)</p> <p>第4回 食を通して見る多様性 食を通じて世界の多様性について触れる。教材を通して学んだこと、教材を活用方法について意見交換する。 【事前学習】教材のテーマ・内容に興味関心をもっておく(2h) 【事後学習】教材の活用方法について自分の考えを整理し、テーマ・内容について自身で調べより理解を深める(2h)</p> <p>第5回 食を通して考える世界とのつながり 食を通して、身近なところから世界とのつながりや課題を考える。 教材を通して学んだこと、教材を活用方法について意見交換する。 【事前学習】教材のテーマ・内容に興味関心をもっておく(2h) 【事後学習】教材の活用方法について自分の考えを整理し、テーマ・内容について自身で調べより理解を深める(2h)</p> <p>第6回 身近なモノ通じて考える世界の現状 教材体験を通じて、身近なモノを通して私と世界の繋がり、課題を考える。 教材を通して学んだこと、教材を活用方法について意見交換する。 【事前学習】教材のテーマ・内容に興味関心をもっておく(2h) 【事後学習】教材の活用方法について自分の考えを整理し、テーマ・内容について自身で調べより理解を深める(2h)</p> <p>第7回 「沖縄移民」に学ぶ世界とのつながり 「沖縄移民」をテーマにした教材体験をし、沖縄と世界とのつながり、地域の歴史や素材を教材にする視点を学ぶ。 【事前学習】教材のテーマ・内容に興味関心をもっておく(2h) 【事後学習】教材の活用方法について自分の考えを整理し、テーマ・内容について自身で調べより理解を深める(2h)</p> <p>第8回 「異文化」「多文化」「アイデンティティ形成」を学ぶ 「異文化」「多文化」、「アイデンティティ形成」について教材を体験しながら考える。 【事前学習】教材のテーマ・内容に興味関心をもっておく(2h) 【事後学習】教材の活用方法について自分の考えを整理し、テーマ・内容について自身で調べより理解を深める(2h)</p> <p>第9回 国際理解教育の教材作成へ向けて 教材作成に向けて、著作権や引用などの表記の仕方などを学ぶ。 国際理解や関連分野の資料、情報を収集する。 テーマに応じてグループまたは個人で目標、流れを考え、実践案・教材作成に取り掛かる。 【事前学習】教材作成のテーマ探しを行っておく(2h) 【事後学習】グループで話し合った内容を整理する(2h)</p>

第10回	グループでの実践案・教材作成① 国際理解教育の授業を学校現場で取り入れていくためのプロセスを学ぶ。 グループワーク：実際にグループでテーマを決めて授業の流れを作成する。 【事前学習】教材テーマや内容に興味関心を持ち情報や素材を(2h) 【事後学習】グループで調べたこと話し合ったことをまとめる(2h)
第11回	グループでの実践案・教材作成② 国際理解教育の授業を学校現場で取り入れていくためのプロセスを学ぶ。 グループワーク：実際にグループでテーマを決めて授業の流れを作成する。 【事前学習】教材テーマや内容に興味関心を持ち情報や素材を(2h) 【事後学習】グループで調べたこと話し合ったことをまとめる(2h) ※途中経過を報告する。
第12回	グループでの実践案・教材作成③ 国際理解教育の授業を学校現場で取り入れていくためのプロセスを学ぶ。 グループワーク：実際にグループでテーマを決めて授業の流れを作成する。 【事前学習】教材テーマや内容に興味関心を持ち情報や素材を(2h) 【事後学習】グループで調べたこと話し合ったことをまとめる(2h)
第13回	実践案・教材発表① 作成した教材を使って実践する。 ・一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する ・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること 【事前学習】教材準備や作成、指導案流れ作成をグループで進めておく(2h) 【事後学習】教材発表を通し、教材改善、自己評価シートのまとめを行う(2h) ※学外で実施の可能性あり
第14回	実践案・教材発表② 作成した教材を使って実践する。 ・一つ参加型アクティビティを取り入れた模擬授業を実施する ・授業プラン、個人振り返りシートを記入して併せて提出すること 【事前学習】教材準備や作成、指導案流れ作成をグループで進めておく(2h) 【事後学習】教材発表を通し、教材改善、自己評価シートのまとめを行う(2h) ※学外で実施の可能性あり
第15回	授業全体のふりかえり 教材体験、作成から実践までを振り返り、授業全体を通しての気づきや学びを整理する。 【事前学習】これまでの授業を全体を通しての気づきや学びを整理しておく(2h) 【事後学習】本授業を振り返り、今後の教育活動にどのように活かしていくか考える(2h)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組【○】ディスカッション、グループワーク、プレゼンテーション、実習・フィールドワークを含む 2) 情報リテラシーに関する科目【 】情報を収集し、読み解く力を身につける 3) ICTの活用【 】 4) 初年次教育【 】 5) 実践的BL【 】 5) 実践的PBL【 】
テキスト	適宜プリントを配布
参考書	講義においてその都度提示
評価方法	参加型学習なので出席を重視する。積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。 ・授業内発言、レポート課題取り組み(20%) ・授業後の振り返りシート添削(30%) ・レポート添削、教材作成・発表(30%) ・活動発表の状況(10%) ・授業グループ内の活動状況(10%)
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 89点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 78点～89点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 67点～78点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 56点～67点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 56点未満：到達目標を達成していない 欠(K) -：試験欠席・レポート未提出・出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 【 】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること 【 】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること 【○】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること 【 】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	積極的なフィールドワーク等への参加も評価へ加味する。また、本授業は下記の評価にもあるように、課題としてのレポート・プレゼン発表(最後の授業プラン作り)を重視する。
オフィスアワー	木曜日3限(Teamsにて要予約)
課題に対するフィードバック方法	授業内の課題は評価を行い(採点・評価後)後ほど返却する

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	3年	2単位(0-2)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
大城 直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC310		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付けることを全体目標に位置付け、以下の内容を到達目標とする。①中学校及び高等学校の外国語（英語）の学習指導要領について理解している。②中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科用図書について理解している。③学習指導要領の「3つの資質・能力」とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。④小学校の外国語活動・外国語の学習指導要領や教科用図書等の教材、並びに小・中・高等学校を通じた英語教育の在り方の基本について理解している。⑤英語の音声及び文字に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑥語彙・表現に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑦英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。⑧ALT等とのティーム・ティーチングについて理解し、授業指導に生かすことができる。⑨生徒の特性・習熟度への対応について理解し、授業指導に生かすことができる。⑩観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。⑪言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。⑫第二言語習得理論とその活用について理解し、授業指導に生かすことができる。</p>
授業の概要	<p>教育とは何かという本質的な問題提起を通して、英語科教育の意義と目的を認識し、英語教育理論を学習理論と指導理論の双方から概観する。英語教育の歴史的、理論的背景について体系的に理解した上で、学習指導要領や英語教授法の変遷について考察する。また、英語教育に関わる諸課題を広く取り上げながら現状理解を図り、日本の英語科教育の方向性について議論を深める。さらに、英語授業運営と評価方法についても基礎的知識の理解を深める。10年間、高等学校における教員経験のある者が、その実務経験を活かし、「英語科教育法 I」を構成する①第二言語習得研究の知見やそれに基づく教授理論（理論に関する内容）②技能統合型の授業計画・授業実践・評価方法（実践方法等）について講義する。</p>
授業計画	<p>第1回 講義概要説明／学校英語教育の目的－英語教育と英語科教育 全15回の講義計画について概要を説明するとともに、課題や評価の方法についても確認する。さらに、英語教育と英語科教育の違いに触れ、学校における英語教育の目的について議論し理解を深める。 【事前学習】 これまでに受けた英語教育を振り返るとともに英語を学ぶ意義や目的について考える。(2時間) 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第2回 日本の英語教育と世界の言語教育観－グローバル化社会における英語教育 日本の英語教育の歴史と諸外国の言語教育について取り上げ、グローバル化が進展する今日において、英語教育のあるべき姿、目指すべき方向性について議論し、理解を深める。 【事前学習】 授業前に配布した資料を読み、概要を理解する。(2時間) 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第3回 教師論－学び続け成長する英語教師を目指して 英語教師に不可欠な資質・能力について意見を共有し、目指すべき教師像について理解を深める。さらに、ポートフォリオを作成・記入し、教師力の向上を目指して一歩を踏み出す。 【事前学習】 授業前にテキスト第5章 (pp. 56-65) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第4回 学習者論（1）－信念・学習スタイル・学習ストラテジー・動機づけ・自律 学習者要因の中で、英語習得に影響を及ぼす主要な要因について取り上げ、理解を深める。また、学習ストラテジーに関する質問紙に実際に回答し、各自の学習ストラテジーについて客観的データに基づいて把握する。 【事前学習】 授業前にテキスト第4章 (pp. 43-55) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第5回 学習者論（2）－生徒の特性や習熟度に応じた指導 前時のテーマを発展させ、実際の教室現場でどのように学習者要因を踏まえ効果的な指導を行うかについて議論し、個に応じた指導の可能性を探る。 【事前学習】 授業前にテキスト第4章 (pp. 43-55) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第6回 第一言語習得と第二言語習得－理論から応用へ 第一言語習得と第二言語習得における理論的側面を概観し、共通点や相違点について理解する。また、それらの知見を踏まえ、効果的な英語教育の在り方を考究する。 【事前学習】 授業前にテキスト第3章 (pp. 34-42) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第7回 言語習得と英語教授法－英語でのインタラクション 英語教授法の理論的背景について理解を深める。また、英語教授法の歴史的変遷についても触れ、これまでの英語教育の課題や現状を理解し、より効果的な教授法について議論を深める。 【事前学習】 授業前にテキスト第3章 (pp. 34-42) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】 テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p>

第8回	<p>む。(2時間)</p> <p>英語教育課程—学習指導要領・教科用図書・目標設定と指導計画</p> <p>学習指導要領の内容を比較し、中高における外国語「英語」の目標及び指導の在り方について理解を深める。実際に教科用図書を参照し、目標設定・指導計画の留意点について確認する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第2章 (pp. 24-33) を読み、概要を理解しておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第9回	<p>英語教育における小中連携と中高接続—現状と課題</p> <p>小学校における英語教科化、大学入試改革など、英語教育改革の動向を踏まえ、小中校それぞれの校種における英語教育の現状や課題、校種間の連携の可能性と留意点について理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前に配布資料を読み、概要を理解しておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第10回	<p>教室の使用言語—Classroom Englishの活用</p> <p>「英語の授業は英語で」の意義を理解すると同時に、現状や課題についても考察する。また、英語の使い手としての英語教師の役割についても確認する。同時に、教室英語(教授用英語)の実際についても、具体例を示しながら理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第16章 (pp. 191-201) を読み、概要を理解しておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第11回	<p>授業の形態—生徒中心の学習・ALTとのチームティーチング</p> <p>一斉授業と個別指導のメリット・デメリット、また教師中心の学習と生徒中心の学習のメリット・デメリットについても比較分析し、効果的な授業の在り方について議論し理解を深める。また、効果的なチームティーチングを行う上での留意点についても確認する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第16章 (pp. 191-201) を読み、概要を理解しておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第12回	<p>測定と評価—評価の意義と役割・観点別評価・パフォーマンス評価</p> <p>評価の意義と役割について、授業運営、学習効果、学習者の動機づけとも関連づけながら理解を深める。また、観点別評価やパフォーマンス評価についても、具体例を示しながら、その可能性や課題について議論する。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第17章 (pp. 202-213) を読み、概要を理解しておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第13回	<p>音声と文字の指導—基本的特性・音声と文字による技能統合型活動</p> <p>音声と文字の指導について、それぞれの基本的特性に照らして、考究する。また、学習者の熟達度や学習スタイルとも関連付けながら、効果的な指導の在り方について議論を深める。</p> <p>【事前学習】授業前に配布資料を読み、概要を理解しておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第14回	<p>語彙・表現に関する指導—受容語彙と発表語彙・意図的学習と偶発的学習</p> <p>受容語彙と発表語彙の違いを踏まえ指導することの意義について確認する。また、意図的学習と偶発的学習についてもそれぞれの特性や相違点を確認し、効果的な語彙習得に資する指導の在り方・学習方法について議論し理解を深める。</p> <p>【事前学習】授業前にテキスト第12章 (pp. 140-148) を読み、概要を理解しておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第15回	<p>まとめ</p> <p>これまで学んだテーマの中からいくつかを取り上げ、グループに分かれて意見を交わし発表する。全体で多様な意見を共有することで理解の深化を図る。</p> <p>【事前学習】これまでに配布した資料や振り返りレポートを見直ししておく。(2時間)</p> <p>【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第16回	なし
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	「「学ぶ・教える・考える」ための実践的英語科教育法」(大修館書店)
参考書	<p>「小学校学習指導要領解説 外国語活動編」(文部科学省)</p> <p>「中学校学習指導要領解説 外国語編」(文部科学省)</p> <p>「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(文部科学省)</p> <p>「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年)</p> <p>「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年)</p>
評価方法	Take-home Exam (60%)、振り返りシート(30%)、授業への貢献度(10%)等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。</p> <p>成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている</p> <p>優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している</p> <p>良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している</p> <p>可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している</p> <p>不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない</p> <p>欠(K) —：出席不足</p>

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【D P 1～4との関連】</p> <p>【○】1. 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること</p> <p>【○】2. 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること</p> <p>【○】3. 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること</p> <p>【○】4. 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	<p>1 テキストとともに課題図書が指定される。</p> <p>2 予習を前提として講義を行う。</p>
オフィスアワー	水曜日 3 限目 (13:00-14:30) 大城研究室 (西研4-5)
課題に対するフィードバック方法	1) 課題 (Take-home Examや振り返りシート) を評価・採点し、返却する。2) 有益な解答・意見・質問等については、全体で共有する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
大城 直人			
授業形態：講義	ナンバリング：TTC311		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付けることを全体目標に位置付け、以下の内容を到達目標とする。①中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科用図書について理解している。②学習指導要領の「3つの資質・能力」とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。③聞くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。④読むことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑤話すこと（やり取り・発表）の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑥書くことの指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑦複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑧文法に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑨異文化理解に関する指導について理解し、授業指導に生かすことができる。⑩教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。⑪学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。⑫学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。
授業の概要	中学校・高等学校における英語科教育の目的と意義を認識し、指導者に求められる学習理論と指導理論について学び、実践的指導力の育成を図る。中学校や高等学校の教育現場の実情に照らしながら、実際に使用されている教科書を用いて教材研究や学習指導案作成を行い、授業計画の具体的方法について理解を深める。また、英語4技能の効果的な指導方法についても、様々な事例に触れながら、理論と実践の両面から修得を図る。さらに、担当者の、高等学校における10年間の教育実務経験を踏まえ、理論と実践のバランスのとれた授業を目指す。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明／英語科教育の目的と英語教師に期待すること 全15回の講義計画を概観し、課題や評価方法について説明する。さらに、本講義の初回にあたって、英語科教育の目的を再確認し、英語教師に求められる資質・能力について意見を共有する。 【事前学習】「英語科教育法Ⅰ」を振り返り、英語科教育の目的や教師に必要な資質・能力について考える。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第2回 教材研究と授業計画（1）－学習目標の設定と指導計画 教材研究の着眼点として、言語材料と内容の2点に着目し、レッスン全体の指導計画を立案し、そこから各授業へ落とし込んでいくプロセスを確認する。各授業の目標とレッスン全体の目標との整合性を図りながら、教材兼研究に取り組むことの重要性についても確認する。 【事前学習】授業前にテキスト第14章（pp.162-170）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第3回 教材研究と授業計画（2）－ICTを活用した授業実践 ICTを活用した学習の効果や可能性について基礎的理解を図る。同時に、ICTを活用した授業の具体例を紹介しながら、教材研究の在り方についても確認する。 【事前学習】授業前にテキスト第14章（pp.162-170）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第4回 教材研究と授業計画（3）－異文化理解と教材研究・開発 グローバル化が進展する中、異文化理解は極めて重要な課題と言える。英語科教育においても、国際共通語として英語を指導することが求められているが、そのためには文化・価値観・習慣の多様性についても同時に学習する必要がある。異文化理解教育の具体的方法、着眼点やアイデアについて共有し理解を図る。 【事前学習】授業前にテキスト第13章（pp.149-160）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第5回 学習指導案の作成（1）－指導案の構造分析・指導案作成の流れ 学習指導案の目的、作成の意義について確認する。実際の学習指導案とその元となった教科書の該当するレッスンを参照しながら、学習指導案作成のプロセスや留意点について理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第15章（pp.171-190）を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】課題（振り返りレポート）に取り組むとともに、学習指導案の作成を行う。(2時間)</p> <p>第6回 学習指導案の作成（2）－指導案作成の実際・ピアレビュー 前時の課題として出された学習指導案作成を踏まえ、各自が持ち寄った学習指導案をグループで共有し、意見を共有する。また、学生が作成した学習指導案について、優れた点や改善すべき点を指摘し、理解の深化を図る。 【事前学習】課題（学習指導案の作成）に取り組む。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p>

第7回	<p>文法指導－文法的重要性・帰納的学習と演繹的学習・文法知識の習得から活用へ 文法指導の重要性を、言語の本質に照らし、技能面・情意面の両側面から確認する。また、技能的学習と演繹的学習の特性や相違点についても理解を深める。知識を活用することの重要性を確認し、具体的方法について概観する。 【事前学習】授業前にテキスト第11章 (pp.133-139) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第8回	<p>リーディングの指導と評価－基本概念・リーディング指導の3つのステージ リーディング能力の下位要素について確認し、効果的な指導の具体的方法について学ぶ。特に、リーディング指導の3つのステージについて、各ステージの目的や意義を踏まえ、指導の具体例を示しながら理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第7章 (pp.81-91) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第9回	<p>リスニングの指導と評価－基本概念・様々なリスニング活動 リスニングの特性について、リーディングとの類似点や差異に着目し、その基本的概念を理解する。また、リスニング指導の具体的方法についても例示しながら理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第6章 (pp.68-80) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第10回	<p>スピーキングの指導と評価(1)－基本概念・「やりとり」の指導 スピーキング能力の下位要素を取り上げ、その基本的特性について理解する。特に、「発表」と「やりとり」を対比させ類似点や差異に着目し、「やりとり」の効果的な指導、活動の具体例を示しながら理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第8章 (pp.92-106) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第11回	<p>スピーキングの指導と評価(2)－「発表」の指導 スピーキング能力の下位要素を取り上げ、その基本的特性について理解する。特に、「発表」と「やりとり」を対比させ類似点や差異に着目し、「発表」の効果的な指導、活動の具体例を示しながら理解を深める。 【事前学習】授業前にテキスト第8章 (pp.92-106) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第12回	<p>ライティングの指導と評価－基本概念・様々なライティング活動 ライティングの特性について、スピーキングとの類似点や差異に着目し、その基本的概念を理解する。また、ライティング指導の具体例を示しながら、効果的な指導の在り方を学ぶ。 【事前学習】授業前にテキスト第9章 (pp.107-119) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第13回	<p>アクティブ・ラーニングの視点に立った授業実践－4技能統合型の言語活動 「主体的」、「対話的」かつ「深い理解」を担保する授業の在り方について議論し、その具体的方法について理解を深める。4技能統合型の言語活動の目的や意義についても概観し、具体例を示しながら理解の深化を図る。 【事前学習】授業前にテキスト第10章 (pp.120-132) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第14回	<p>教育実習－実習生に求められる資質能力・実習に向けた計画 教育実習の意義や目的について理解する。特に、実習生に求められる資質能力について議論・共有し、実習に向けて各自の取り組むべき課題を再確認する。具体的な計画を立て、教育実習に向けて意識付けを図る。 【事前学習】授業前にテキスト第16章 (pp.191-201) を読み、概要を理解しておく。(2時間) 【事後学習】テキスト、授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
第15回	<p>まとめ これまで学んだ内容を総括する。いくつかのテーマを設け、グループに分かれて議論し、意見の共有を図り、英語科教育の理論と実践に関する理解の深化を図る。 【事前学習】事前に提示したテーマについて、考えをまとめておく。(2時間) 【事後学習】授業時に配布した資料等を見直し、課題(振り返りレポート)に取り組む。(2時間)</p>
授業における具体的な特色や方法	<p>1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/></p> <p>2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/></p> <p>3) ICTの活用 <input type="checkbox"/></p> <p>4) 初年次教育 <input type="checkbox"/></p> <p>5) 実践的PBL <input type="checkbox"/></p>
テキスト	「英語科教育の基礎と実践－リフレクティブな教師を目指して－」(JACET教育問題研究会 編、三修社)
参考書	<p>「中学校学習指導要領解説 外国語編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(文部科学省) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」(国立教育政策研究所教育課</p>

	程研究センター、教育出版、2012年)
評価方法	Take-home Exam (40%)、課題 (30%)、振返りシート (20%)、授業への貢献度 (10%) 等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 .. 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1 「英語教科教育法Ⅰ」の履修を前提とする。 2 事前に受講資格審査を行う。
オフィスアワー	金曜日 3 限目 (13:00-14:30) 大城研究室 (西研4-5)
課題に対するフィードバック方法	1) 課題 (Take-home Examや振返りシート) を評価・採点し、返却する。2) 有益な解答・意見・質問等については、全体で共有する。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
後期	3年	2単位(0-2)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
大城 直人・Christopher Valvona			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC312		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	本授業では、教師・生徒の両方の立場から模擬授業に関わり、教材研究の視点、授業運営の要点等について理解を深めることをメインテーマとする。また、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付けることを全体目標に位置付け、さらに以下の内容を到達目標とする。（１）中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科用図書について理解している。（２）学習指導要領の「３つの資質・能力」とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。（３）複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。（４）教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。（５）英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。（６）学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。（７）学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。（８）観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。（９）言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。
授業の概要	本講義のねらいは、英語教科教育法Ⅰ・Ⅱで学んだ知識を基に、英語教育の方法と教材・授業組み立てについて研究し、実践的な指導能力を培うことにある。VTR視聴や授業観察、グループ研究や発表をとおして、英語習得に関わる個々のスキルの指導方法や授業の組み立て方・進め方、教材作成のあり方や留意点、指導案作成等について具体的に学ぶ。授業外の英語教育活動への参加も求められる。また、担当者は、高等学校における10年間の教育実務経験を踏まえ、理論と実践のバランスのとれた授業を目指す。
授業計画	<p>第1回 講義概要説明／リーディング指導中心の授業映像の視聴と討議 全15回の授業計画の概要を説明し、課題や評価の方法についても確認する。また、リーディング指導がテーマの授業映像を視聴し、指導の優れた点や改善点について意見を交わし、授業づくりに資する視点を養う。 【事前学習】「英語科教育法Ⅰ」のリーディング指導の章を振り返り、指導の留意点を確認する。(1時間) 【事後学習】授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組む。(1時間)</p> <p>第2回 Explaining the syllabus / guide to and example of classroom self-introduction presentations / self-introduction presentation preparation シラバスの説明／自己紹介プレゼンテーションの説明と例示／自己紹介プレゼンテーションの準備 【事前学習】シラバスに目を通し、自己紹介プレゼンテーションに向けて興味深い情報を確認する。(1時間) 【事後学習】自己紹介プレゼンテーションの様々な手法を振り返り、次のプレゼンテーションの準備をする。(1時間)</p> <p>第3回 リーディング指導中心の授業づくりーリーディング指導の3つのステージの特性と役割ー リーディング指導の3つのステージ（Pre-reading、While-reading、Post-reading）の目的や意義について基本的概念を理解する。それぞれのステージの具体的な指導方法を例示し、理解を深める。 【事前学習】授業前に、配布資料に目を通し、リーディング指導の留意点を確認しておく。(1時間) 【事後学習】授業時に配布した資料等を見直し、課題（振り返りレポート）に取り組むとともに、マイクロティーチングに向けた準備を行う。(1時間)</p> <p>第4回 Finishing self-introduction by making use of ICTs ICTを活用した自己紹介プレゼンテーションの実施 【事前学習】ICTを用いた自己紹介の準備を完成させる。(1時間) 【事後学習】自己評価及び学生同士の相互評価を行う。(1時間)</p> <p>第5回 4年生による「アクティビティ発表会」 教育実習を終えた4年生に、研究授業等で実際に活用したアクティビティを紹介してもらい、授業づくりに資する学習の機会を提供する。また、研究授業を再現してもらい、生徒の立場から授業に参加し、優れた点や改善点について考えを共有し、各自の授業づくりに役立てる。 【事前学習】「教育英文法」、「英語科教育法Ⅰ」の内容を振り返り、授業づくりの観点を見直す。(1時間) 【事後学習】検討会で共有された様々な意見を振り返り、課題（振り返りレポート）に取り組む。(1時間)</p> <p>第6回 Demonstration lesson by 4th year teacher training students 4年生による「英語模擬授業」 【事前学習】これまでに学んだ指導法を振り返り、見直しをする。(1時間) 【事後学習】模擬授業に対するコメントやフィードバックを行うとともに、自身の模擬授業に役立てる。(1時間)</p> <p>第7回 マイクロティーチング（1）ーPre-reading指導（言語材料重視）の実践ー</p>

言語材料を重視したPre-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。

【事前学習】Pre-reading指導（言語材料重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングの準備を行う。（1時間）

【事後学習】検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。（1時間）

第8回

Introducing grammar: alternative approaches

文法指導の代替アプローチへの誘い

【事前学習】これまでに学んだ代表的な文法指導方法を振り返る。（1時間）

【事後学習】文法指導における様々な指導方法について調べる。（1時間）

第9回

マイクロティーチング（2）－Pre-reading指導（内容重視）の実践－

本文の内容を重視したPre-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。

【事前学習】Pre-reading指導（内容重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングに向けた準備を行う。（1時間）

【事後学習】検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。（1時間）

第10回

Alternative ways of grammar instruction

文法指導の代替アプローチの具体例

【事前学習】代替的な文法指導について調べ、クラスで共有する準備を行う。（1時間）

【事後学習】代替的な文法指導を教育実習でどう活かせるかについて熟考する。（1時間）

第11回

マイクロティーチング（3）－While-reading指導（意味理解重視）の実践－

意味の理解を重視したWhile-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。

【事前学習】While-reading指導（意味理解重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングの準備を行う。（1時間）

【事後学習】検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。（1時間）

第12回

Authentic materials: explanation

オーセンティック・マテリアルの例示と説明

【事前学習】日常生活の身近な物で、外国語教育に活用できる具体的な物を考える。（1時間）

【事後学習】日常生活の具体的な物をどのように外国語教育の中で活用するかを考える。（1時間）

第13回

英語イマージョンプログラムの授業体験－All Englishによる授業の実際－

インターナショナルスクールを訪問し、英語イマージョンプログラムの実際の様子を見学し、All Englishでの英語の授業運営に資する知見や技術を学び、授業実践に役立てる。

【事前学習】インターナショナルスクールの概要に関する配布資料に目を通し、質問を考えておく。（1時間）

【事後学習】イマージョンプログラムの授業見学を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。（1時間）

第14回

Authentic materials: student presentations

オーセンティック・マテリアルの活用方法：学生による発表

【事前学習】日常生活の身近な物を活用した授業づくりに取り組む。（1時間）

【事後学習】紹介された日常的な物に対してフィードバックを行う。（1時間）

第15回

マイクロティーチング（4）－While-reading指導（内容理解重視）の実践－

内容の理解を重視したWhile-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。

【事前学習】While-reading指導（内容理解重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングの準備を行う。（1時間）

【事後学習】検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。（1時間）

第16回

Task-based language teaching (TBLT)

タスク中心型言語教育について

【事前学習】これまでに学んだ教授法について振り返り、理解の見直しを行う。（1時間）

【事後学習】教育実習において、TBLTをどのように導入できるかについて検討する。（1時間）

第17回

「高校生英語弁論大会（本学主催）」へ参加－英語科特有の課外指導の実際－

本学主催の「高校生英語弁論大会」へ補助役員として参加し、英語科特有の課外指導の実際について体験的に学び、英語教師の仕事内容の多様性を理解する。参加後は、レポートを提出し、体験で得たことを共有する。

【事前学習】英語弁論大会の趣旨、評価の観点等を確認しておく。（1時間）

【事後学習】英語弁論大会を振り返り、課題（振り返りレポート）に取り組む。（1時間）

第18回

Participation in HS speech contest

「高校生英語弁論大会（本学主催）」への参加

【事前学習】英語弁論大会のスピーチ原稿に事前に目を通しておく。（1時間）

【事後学習】英語弁論大会事後のレポートに取り組む。（1時間）

第19回

マイクロティーチング（5）－Post-reading指導（言語材料インプット重視）の実践－

言語材料のインプットを重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。

【事前学習】Post-reading指導（言語材料インプット重視）の留意点を踏まえ、マイクロティーチングに

向けた準備を行う。（1時間）

【事後学習】検討会で指摘された事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。（1時間）

第20回	Content and language integrated learning (CLIL) 内容言語統合型学習について 【事前学習】英語の授業で学習したい内容や学習可能な内容について考える。(1時間) 【事後学習】CLILに基づいた英語授業のカリキュラムを考える。(1時間)
第21回	マイクロティーチング(6)－Post-reading指導(言語材料アウトプット重視)の実践－ 言語材料のアウトプットを重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。 指導の観点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。 【事前学習】Post-reading指導(言語材料アウトプット重視)の留意点を踏まえ、マイクロティーチングに 向けた準備を行う。(1時間) 【事後学習】検討会で指摘された事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)
第22回	Classroom management: introduction 英語授業の運営と管理について(導入) 【事前学習】CLILに基づいた英語授業の実践例を共有する。(1時間) 【事後学習】効果的な授業運営に関する質問事項について考えておく。(1時間)
第23回	マイクロティーチング(7)－Post-reading指導(内容理解の深化重視)の実践－ 内容理解の深化を重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観 点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。 【事前学習】Post-reading指導(内容理解の深化重視)の留意点を踏まえ、マイクロティーチン グに向けた準備を行う。(1時間) 【事後学習】検討会で指摘された事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)
第24回	Classroom management: discussion session 英語授業の運営と管理について(討議) 【事前学習】前回の授業を振り返り、授業運営に関する議論に向けて意見や考えをまとめてお く。(1時間) 【事後学習】授業運営の方法をどのように教育実習に活かせるか振り返る。(1時間)
第25回	マイクロティーチング(8)－Post-reading指導(4技能統合型)の実践－ 4技能の統合を重視したPost-readingの指導の実際について体験的に学びを深める。指導の観 点を共有すると同時に、生徒の立場からの意見も共有し、指導計画の充実に役立てる。 【事前学習】Post-reading指導(4技能統合型)の留意点を踏まえ、マイクロティーチングの準 備を行う。(1時間) 【事後学習】検討会で指摘された事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)
第26回	Developing reading skills リーディング・スキルの向上を目指して 【事前学習】これまでに学んだリーディング・スキルを振り返り、見直しておく。(1時間) 【事後学習】多読、娯楽としての読書、速読をどのように教育実習に活かせるか検討する。(1時 間)
第27回	授業映像(5ラウンドシステムの英語授業)の視聴と討議 5ラウンドシステムの英語授業の様子を視聴し、そこで行われている言語活動や指導方法につい て理解を深め、授業づくりに役立てる。 【事前学習】授業前に、5ラウンドシステムに基づいた英語授業の成果をまとめた論文を読んで おく。(1時間) 【事後学習】視聴したDVDの内容や質疑応答の内容を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組 む。(1時間)
第28回	Working with ALTs ALT(外国語指導助手)との協働について 【事前学習】ALTのことについて概要を調べておく。(1時間) 【事後学習】ALTとのチームティーチングを効果的に行う方法について考える。(1時間)
第29回	まとめ これまで学んだことを振り返り、リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点・着眼点に ついて再考する。また、評価の在り方についても触れ、日々の授業と評価の整合性を図ることの 重要性を確認する。 【事前学習】これまでの学習を振り返り、リーディング指導中心の授業づくりにおける質問を考 える。(1時間) 【事後学習】質疑応答の内容を振り返り、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)
第30回	Summary and concluding comments 授業の振り返りとまとめ 【事前学習】今学期学んだ内容をすべて振り返る。(1時間) 【事後学習】本時の授業を含め、今学期学んだ内容をすべて振り返っておく。(1時間)
授業における具 体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	「英語授業ハンドブックー中学校編 DVD付ー」(金谷憲、太田洋、馬場哲生、青野保、柳瀬陽介編、大修館書 店、2009年)

参考書	<p>「中学校学習指導要領解説 外国語編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(文部科学省) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年) 「英語授業ハンドブッケー高校編 DVD付」(金谷憲、久保野雅史、高山芳樹、阿野幸一編、大修館書店、2012年)</p>
評価方法	グループ発表や模擬授業(60%)、課題レポート(20%)、授業振り返りシート(10%)、授業への貢献度(10%)等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	<p>各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。</p> <p>秀 (A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優 (B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良 (C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可 (D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可 (F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠 (K) - : 出席不足</p>
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	<p>【DP 1～4との関連】</p> <p>○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること</p>
履修上の注意	1 「英語教科教育法Ⅱ」の履修を前提とする
オフィスアワー	大城：水曜日 3限目(13:00-14:30) 大城研究室(西研4-5) Valvona：月4限・水3限 Valvona研究室
課題に対するフィードバック方法	1) 提出された課題にコメントを付記し返却する。2) ミニ授業の後に検討会を設け、優れた点や改善点について指摘し助言を行う。

開講期間	配当年	単位数(週時間)	科目必選区分
前期	4年	2単位(0-2)	教職科目 (必修科目)
担当教員			
大城 直人			
授業形態：演習	ナンバリング：TTC410		
添付ファイル			

授業のテーマ及び到達目標	<p>本授業では、教師・生徒の両方の立場から模擬授業に関わり、教材研究の視点、授業運営の要点等について理解を深めることをメインテーマとする。また、中学校及び高等学校における外国語（英語）の学習・指導に関する知識と授業指導及び学習評価の基礎を身に付けることを全体目標に位置付け、さらに以下の内容を到達目標とする。（１）中学校及び高等学校の外国語（英語）の教科用図書について理解している。（２）学習指導要領の「３つの資質・能力」とともに、領域別の学習到達目標の設定、年間指導計画、単元計画、各授業時間の指導計画について理解している。（３）複数の領域を統合した言語活動の指導について理解し、授業指導に生かすことができる。（４）教材及びICTの活用について理解し、授業指導に生かすことができる。（５）英語でのインタラクションについて理解し、授業指導に生かすことができる。（６）学習到達目標に基づく授業の組み立てについて理解し、授業指導に生かすことができる。（７）学習指導案の作成について理解し、授業指導に生かすことができる。（８）観点別学習状況の評価とそれに基づく評価規準の設定や評定への総括について理解し、指導に生かすことができる。（９）言語能力の測定と評価（パフォーマンス評価等を含む）について理解し、指導に生かすことができる。</p>
授業の概要	<p>受講生の模擬授業を柱として授業を展開し、学習者の実態に沿った授業展開のあり方について実践的に考究する。これまでの英語科教育法で学んだ内容を踏まえ、実習校で使用されている教科書を実際に用いて教材研究を行い、学習指導案を作成し、模擬授業を２回実践する。授業後は、授業検討会を設け、授業反省・質疑応答・討議を行う。一連の取り組みを通して、授業を適切に構築・実践・評価する能力を養う。担当者の、高等学校における１０年間の教育実務経験を踏まえ、理論と実践のバランスのとれた授業を目指す。</p>
授業計画	<p>第１回 授業の概要説明／学習指導案の分析と評価 学習指導案作成の目的や意義を再確認し、学習指導案のサンプルをその元となった教科書と照らし合わせながら、作成の観点・留意点についても確認する。 【事前学習】「英語科教育法演習Ⅰ」の学習内容を振り返り、英語科教育の基礎的事項の理解に努める。(2時間) 【事後学習】学習指導案作成の留意点を振り返り、模擬授業の指導案づくりにむけて準備を進める。(2時間)</p> <p>第２回 授業観察（１）－文法指導中心の授業映像の視聴と討議 前年度の教育実習研究授業の中で、文法指導がテーマの授業VTRを視聴し、優れた点や改善点について意見を交わし、授業づくりに資する視点を養う。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、理解を深めておく。(2時間) 【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。(2時間)</p> <p>第３回 模擬授業（１）－文法の「導入」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「導入」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間) 【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。(1時間)</p> <p>第４回 模擬授業（２）－文法の「説明」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「説明」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間) 【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。(1時間)</p> <p>第５回 模擬授業（３）－文法の「練習」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「練習」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間) 【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。(1時間)</p> <p>第６回 模擬授業（４）－文法の「活用」に焦点を当てた授業づくり 文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「活用」部分に着目し、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。 【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Ⅰで学習し</p>

た内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)
【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)

第7回

模擬授業(5) - 4技能を統合した言語活動

文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「4技能統合型言語活動」の観点から、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。

【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Iで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)

【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)

第8回

模擬授業(6) - ICTの効果的な活用方法

文法指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「効果的なICTの活用方法」に焦点を当て、優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。

【事前学習】文法指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Iで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)

【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)

第9回

授業観察(2) - リーディング指導中心の授業映像の視聴と討議

前年度の教育実習研究授業の中で、リーディング指導がテーマの授業VTRを視聴し、優れた点や改善点について意見を交わし、授業づくりに資する視点を養う。

【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Iで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)

【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)

第10回

模擬授業(7) - 形式スキーマを活性化させるPre-reading活動に注目して

リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「形式スキーマの活性化」に焦点を当て、Pre-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。

【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Iで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)

【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)

第11回

模擬授業(8) - 内容スキーマを活性化させるPre-reading活動に注目して

リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「内容スキーマの活性化」に焦点を当て、Pre-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。

【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Iで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)

【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)

第12回

模擬授業(9) - While-readingにおける「意味」の確認に焦点を当てて

リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「意味の確認」に焦点を当て、While-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。

【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Iで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)

【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)

第13回

模擬授業(10) - While-readingにおける「内容理解」の確認に焦点を当てて

リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「内容理解」に焦点を当て、While-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。

【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Iで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)

【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)

第14回

模擬授業(11) - 語彙・文法の定着を図るPost-reading活動に注目して

リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「語彙・文法の定着」に焦点を当て、Post-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。

【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Iで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)

【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題(振り返りレポート)に取り組む。(1時間)

第15回

模擬授業(12) - 内容の理解を深めるPost-reading活動に注目して

リーディング指導をテーマに指導案を作成し、模擬授業を行う。特に、「内容理解の深化」に焦点を当て、Post-reading活動の優れた点や改善点について議論し、授業づくりに資する視点を養う。また、効果的な指導のアイデアを全体で共有する。

【事前学習】リーディング指導中心の授業づくりにおける留意点について、英語科教育法演習Iで学習した内容を振り返り、模擬授業に向けた準備を進める。(3時間)

	【事後学習】授業内容及び検討会での指摘事項を踏まえ、課題（振り返りレポート）に取り組む。(1時間)
授業における具体的な特色や方法	1) アクティブ・ラーニングを促す取組 <input type="checkbox"/> 2) 情報リテラシーに関する科目 <input type="checkbox"/> 3) ICTの活用 <input type="checkbox"/> 4) 初年次教育 <input type="checkbox"/> 5) 実践的PBL <input type="checkbox"/>
テキスト	1) 「英語授業ハンドブックー中学校編 DVD付ー」(金谷憲、太田洋、馬場哲生、青野保、柳瀬陽介編、大修館書店、2009年) 2) 実習校における教科書、その他授業において資料を配布する。
参考書	「中学校学習指導要領解説 外国語編」(文部科学省) 「高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編」(文部科学省) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 中学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年) 「評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 高等学校外国語」(国立教育政策研究所教育課程研究センター、教育出版、2012年) 「英語授業ハンドブックー高校編 DVD付ー」(金谷憲、久保野雅史、高山芳樹、阿野幸一編、大修館書店、2012年)
評価方法	模擬授業(60%)、学習指導案(20%)、授業振り返りシート(10%)、授業への貢献度(10%)等を総合的に判断し評価を行う。
評価基準	各評価方法に関してルーブリック評価を行う。詳細は初回講義時に説明する。 成績評価は100点満点で行い、以下のとおり評定します。 秀(A) 90点以上：到達目標を十分に達成し、非常に優れた成果を修めている 優(B) 80点～90点未満：到達目標を十分に達成している 良(C) 70点～80点未満：到達目標をある程度達成している 可(D) 60点～70点未満：到達目標を最低限達成している 不可(F) 60点未満：到達目標を達成していない 欠(K) —：出席不足
卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連	【DP 1～4との関連】 ○ 1 自己と他者を尊重する心をもって、積極的に相互理解を図り、平和を創造するために共に歩むことができること ○ 2 高度な英語運用能力とコミュニケーション能力を身につけていること .. 3 幅広い教養に育まれた論理的思考と批判的精神を駆使し、グローバル化する社会の課題に向き合えること .. 4 地域社会と国際社会の課題を深く理解し、その一員として主体的に行動・貢献できること
履修上の注意	1. 「英語教科教育法演習Ⅰ」の履修を前提とする。 2. 模擬授業の前に必ず、学習指導案を提出する。 3. 授業後、VTRに録画された自分の授業を必ず視聴し、反省点をまとめる。
オフィスアワー	水曜日3限目(13:00-14:30) 大城研究室(西研4-5)
課題に対するフィードバック方法	1) 提出された課題にコメントを付記し返却する。2) 模擬授業の後に検討会を設け、優れた点や改善点について指摘し助言を行う。